

宮の前遺跡

緊急発掘調査報告書

1994

上田市教育委員会
上小地方事務所

宮 の 前 遺 跡

緊急発掘調査報告書

1 9 9 4

上田市教育委員会
上小地方事務所

例 言

- 1 本書は、長野県上田市大字別所温泉字宮の前における平成4・5年度宮の前遺跡発掘調査報告書である。
- 2 調査は、県営ほ場整備事業別所地区の実施に先立ち、上小地方事務所の委託を受け行った。
- 3 調査は、上田市（上田市教育委員会社会教育課）が国庫補助事業として直営で実施した。
- 4 調査は、発掘調査から遺物整理・報告書刊行まで含めて1992年（平成4年）6月1日から1995年（平成7年）3月24日まで実施した。
- 5 遺構の実測は尾見智志・清水彰・池田市郎・甲田五男・春日智恵が行い、一部を(有)写真測図研究所に委託した。トレースは井澤光子・丸田由紀子・山本万里が行った。
- 6 遺物整理・復元作業は尾見智志・宮川祐一郎・山口幸雄・池田市郎・甲田五男・西沢勝・井澤光子・丸田由紀子・山本万里・久保きぬ子・唐沢恵美子が行った。
- 7 遺物の実測は尾見智志が行った。トレースは井澤光子・丸田由紀子・山本万里が行った。
- 8 本文の執筆は尾見智志が行った。遺物の観察も尾見が行った。
- 9 版組は尾見智志・井澤光子・丸田由紀子・山本万里・市村みつ子が行った。
- 10 遺構・遺物の写真撮影は尾見智志が行った。
- 11 調査に係る基準点測量は(有)みすず測量設計に委託した。
- 12 調査に係る資料は上田市立信濃国分寺資料館に保管してある。
- 13 本書の編集刊行は事務局（上田市教育委員会社会教育課）が行った。
- 14 本書が上梓されるまでには、非常に多くの方々や諸機関のご理解・ご協力を賜った。以下ご芳名を記して深く感謝の意を表したい。（順不同、敬称略）
黒坂周平、長野県教育委員会文化課、上小地方事務所土地改良第一課、別所地区ほ場整備事業実行委員会、地元自治会、南条旅館、上田市農村整備課、赤塩一巳、塩入秀敏、児玉卓文、坂井美嗣、上島久和、中屋克彦、青木一男、白居直之、野村一寿
- 15 本調査に係る事務局の体制は次のとおりである。

教 育 長	内藤尚
教 育 次 長	小沢良行（平成6年3月31日退任）
"	荒井鉄雄（平成6年4月25日着任）
社会教育課長	須藤清彬（平成6年4月25日退任）
"	松沢征太郎（平成6年4月25日着任）
文 化 係 長	中村博美（平成5年9月30日退任）
"	岡田洋一（平成5年10月1日着任）
文 化 係	中沢徳士
"	尾見智志

- ” 塩崎幸夫
- ” 久保田敦子
- ” 清水彰 (平成5年4月1日着任)

16 発掘・整理作業に参加、協力していただいた方々 (順不同、敬称略)

関茂樹、宮川祐一郎、山口幸雄、甲田五男、池田市郎、林さち子、竹内勇、鎌田久一、三輪邦時、北沢竹人、深草今朝広、増沢さだ子、上原九子、竹内ふくじ、赤羽古、竹内松子、西谷知子、山岸忠、前山紀子、伊藤里美、原章展、荒井かぎり、清水関二、井澤光子、西沢勝、滝沢芳枝、小山倍子、野田三雄、成沢伯、宮沢浅人、春日智恵、塩沢むつき、池田育子、塩川美代子、荒井陽太、宮崎喜美子、久保きぬ子、唐沢美恵子、丸田由紀子、山本万里

17 今回の発掘調査により、様々な遺構・遺物が検出された。遺構については、主なもののみを掲載した。また、遺物についても主要なもののみを掲載した。

＜ 目 次 ＞

第一章 調査の経過

第一節 調査に至る経過	1
第二節 調査の経過	2
第三節 調査日誌抄	2
第四節 報告書抄録	3

第二章 遺跡の環境

第一節 自然的環境	4
第二節 歴史的環境	4
第三節 基本層序	7

第三章 遺跡の調査

第一節 遺跡の概要	8
第二節 遺 構	11
第三節 遺 物	77
第四節 まとめ	119

写真図版	127
------------	-----

凡 例

[遺 構]

- 1 各遺構の略称は次のとおりである。
SB…竪穴住居跡・竪穴状遺構 ST…掘立柱建物跡 SK…土坑 SD…溝状遺構
- 2 遺構実測図は原則として原図1/20、縮尺1/4である。
- 3 遺構が時代の新しい遺構、あるいは攪乱等によって破壊を受けプランが明確でない場合は古い遺構を破線で示した。
- 4 遺構の主軸方位は、国家座標の北とのなす角度で示した。
- 5 焼土は網点のスクリーントーンで示した。
- 6 遺構写真図版の縮小は任意である。

[遺 物]

- 1 土器は縮尺1/4を原則とした。石器等は1/3を原則とした。例外はスケールで示した。
- 2 土器の実測方法は4分割法を用い、右側1/2に断面及び内面を、左側1/2に外面を記録した。
- 3 赤色処理のある遺物はスクリーントーン  で示した。
- 4 黒色処理のある遺物はスクリーントーン  で示した。
- 5 遺物番号は実測図版番号及び写真図版番号と一致している。
- 6 遺物写真図版の縮小は任意である。

[一 覧 表]

- 1 遺構一覧表の出土遺物番号は図版の遺物番号及び遺物一覧表の番号と対応する。
- 2 遺構一覧表の主軸方向は主に原則として北を基準としている。
- 3 土坑の一覧表は図示されている遺物が出土しているもののみを表示した。

住居名	平面形	主軸方向	カマド・炉の状況	出土土器番号	備 考

- 4 遺物一覧表の遺物番号は図版の遺物番号と遺構一覧表の出土遺物番号と対応する。

N O.	出土遺構	A器種 B器形 C文様 D製作技法の特徴	a色調 b胎土 c焼成	残 率

- 5 石材については赤塩一巳氏に鑑定をお願いした。

第一章 調査の経過

第一節 調査に至る経過

平成3年度において上田市農政部農村整備課担当職員より「県営ほ場整備事業別所地区」の計画があるとの連絡を受けた。早速担当職員が過去の分布調査の結果と現地を確認したところ、事業地区内には「宮の前遺跡」が存在していることが判明した。平成3年9月11日には現地協議を行った。しかし、その範囲については過去の分布調査が遺物の表面採集によるものであったため、改めて試掘調査による範囲確認調査を行った。試掘調査の結果、字宮の前と字中曾根において弥生時代と奈良・平安時代の遺物と遺構が確認された。その結果をもとに保護協議を行い、下記の計画で発掘調査を実施することとした。

発掘調査計画書

発掘調査地	上田市大字別所温泉字宮の前及び字中曾根
遺跡名	宮の前遺跡
遺跡の状況	地目(水田)・破壊状況(一部破壊)
調査の目的及び概要	県営ほ場整備事業別所地区の施工に先立ち5,000㎡以上(平成4年65,000㎡以上・平成5年度5,000㎡以上)を発掘調査して記録保存をはかる。 (遺跡における発掘作業は平成6年3月31日までに終了する。) (調査報告書は平成7年3月31日までに刊行するものとする。)
調査の作業日数	発掘作業100日 整理事業180日 合計280日
調査に要する費用	20,000,000円
調査報告書作製部数	300部
調査の主体者	上田市教育委員会
経費の負担割合	農政部局負担額(72.5%) 14,500,000円 文化財保護部局負担額(27.5%) 5,500,000円
備考	調査の結果、重要な遺構などが検出された時は、その保存について改めて協議するよう配慮する。

こうして平成4年6月1日には上田市は上小地方事務所と委託契約を結び調査に着手した。

第二節 調査の経過

(1)平成4年度の経過

本年度に係る発掘調査の総事業費は16,000,000円（農政部局負担額11,600,000円・文化財保護部局負担額4,400,000円）にて行われた。調査の結果、予想されたほど遺構が検出されなかったため総事業費は先のとおり減額された。発掘調査は6月1日から行われ、11月16日には終了した。12月21日からは整理作業を実施した。

(2)平成5年度の経過

本年度に係る発掘調査の総事業費は20,000,000円（農政部局負担額15,800,000円・文化財保護部局負担額4,200,000円）にて行われた。発掘調査は4月23日行われ、9月18日には終了した。当初は1ヶ月ほど早く調査が終了する予定であったが、近年稀に見る異常気象のため調査地区内に雨水が浸水し、長引いてしまった。9月20日からは整理作業・報告書作成作業を実施した。

(3)平成6年度の経過

本年度に係る報告書作成作業の総事業費は4,000,000円（農政部局負担額3,160,000円・文化財保護部局負担額840,000円）にて行われた。作業は、6月1日より行われた。平成7年3月24日には本書を刊行して調査を終了した。

第三節 調査日誌（抄）

平成4年度

1992年（平成4年）

- 6月 1日 調査着手。機材搬入。表土剥ぎ。
- 6月 2日 テント設営。遺構検出作業を行う。
- 6月25日 基準点測量着手。
- 6月26日 グリット杭打ち開始。
- 6月30日 排水路を設置。
- 7月 8日 住居跡・土壇等堀上げ開始。
- 7月27日 溝跡にトレンチを入れる。
- 8月21日 1号溝跡堀上げ開始。
- 9月11日 4号溝跡堀上げ開始。
- 10月 1日 すばこ様調査。
- 11月 6日 調査地域内・遺構内の清掃をする。
- 11月11日 テント・機材撤収。
- 11月12日 平成5年度調査予定地域の試掘をする。
- 11月16日 航空写真撮影。
- 12月21日 現場作業棟にて遺物の洗浄・注記・接合を開始。

1993年（平成5年）

- 3月24日 平成4年度の作業を終了する。

平成5年度

1993年(平成5年)	
4月23日	機材等の整備・準備。
4月26日	テント設営。表土剥ぎ。
5月6日	遺構検出作業を行う。
6月2日	遺構堀上げ開始。
8月11日	信濃国分寺資料館考古学教室発掘体験。
9月17日	調査地域内・遺構内の清掃をする。航空写真撮影。
9月18日	機材撤収。現地説明会を開く。
9月20日	現場作業棟にて遺物整理作業・報告書作成作業を開始。
1994年(平成6年)	
3月25日	平成5年度の作業を終了する。

平成6年度

1994年(平成6年)	
6月1日	現場作業棟にて報告書作成作業を開始。
1995年(平成7年)	
3月24日	報告書刊行。

第四節 報告書抄録

書名(ふりがな)	宮の前遺跡発掘調査報告書 (みやのまえいせきはくつちようさほうこくしょ)
シリーズ名	上田市文化財調査報告書
シリーズ番号	第51集
編著者名	尾見智志
編集機関	上田市教育委員会
所在地	〒386 長野県上田市天神二丁目4番74号
発行年月日	1995年 3月24日
所収遺跡名(ふりがな)	宮の前遺跡(みやのまえいせき)
所在地(しよざいち)	上田市大字別所温泉字宮の前(うえだしおのおざべっしょおんせんあざみやのまえ)
コード(市町村・遺跡番号)	20203・————
北緯・東経(′′′)	北緯36°21′9″・東経138°10′10″
調査期間	平成4年度(1992; 6/1~11/11) 平成5年度(1993; 4/26~9/18)
調査面積 m ²	10,000 m ²
調査原因	県営ほ場整備事業に伴う事前調査

遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
宮の前遺跡	集落跡	弥生 奈良・平安	竪穴住居跡 52軒 竪立住居跡 約61棟 溝跡 60条 その他 土坑など	弥生土器 土師器・須恵器 石器・刀子	

第二章 遺跡の環境

第一節 自然的環境

上田市の中央部を流れる千曲川を境として西方部は総称して川西地方という。この地域は更に浦野川流域と産川流域に分けられる。両者の間には川西丘陵山地と福田段丘台地がその境をなしている。この産川とその支流域によって形成された楕円形状の盆地を塩田平と呼んでいる。この盆地は、東に小牧山塊、西に夫神岳・女神岳・大明神岳がピラミットあるいは帽子状に岐立している西部山地、南は富士山・独鈷山・富士岳とつらなる急峻な独鈷山脈、北は川西丘陵山地により囲まれている。河川はこの地形から産川を中心にして千曲川に流れ込んでいる。

塩田平は、産川を中軸として、その堆積物がもっとも広大であるが、これが為湯川を西山麓に、尾根川を東山麓に押し、二河川の造った堆積層と裾を合わせている。その縫合線を追開沢川と尻無川が流れている。これは湯川系の強粘土、産川系の砂質壤土、尾根川系の砂礫質壤土と、土質の境界線ともなっている。この堆積層の下に、青木層、別所層が堆積している。青木層は砂岩・礫岩層と、これに貫入したふん岩からなる。別所層はほとんど黒色頁岩（青木層、別所層の頁岩は泥岩と呼んでいるものもある。）からなり固結度も高く、このなかに径10cm内外の石灰岩質の結核を含んでいる。別所温泉は、別所層に貫入したふん岩の岩漿が熱源である。

また、この地域は溜池が表徴するように、内陸性の気候を呈し、雨量が乏しく、年間降水量は1,000mm以下である。

宮の前遺跡のある別所地区は、塩田平の西端に位置し、温泉地としても有名である。西には夫神岳、南には女神岳がそびえている。この二山の麓である別所地区は夫神岳の山腹に源を発する湯川とその支流である腰巻川により押し出し地形を造っている。土質は、強粘土であり、以前にこの土を使って土瓦を焼いていたほどである。

第二節 歴史的環境

塩田平には遺跡が多く存在している。旧石器時代の遺跡は確認されていないが縄文時代から弥生時代・古墳時代、それ以後の遺跡も含め現在発見されている遺跡は200遺跡ほどある。

縄文時代の遺跡は、草創期のものと思われる有舌尖頭器が西前山から出土している。早期の遺跡として湯川最上流に塩水遺跡・比蘭樹遺跡がある。塩水遺跡からは茅山式土器が出土している。前期は同じく湯川流域に堰口ノ一遺跡・北浦遺跡・産川中流域に神戸遺跡が知られている。堰口ノ一遺跡は発掘調査により諸磯C式期の住居跡が確認されている。また、手塚の五反田遺跡及

び富士山の上大郷遺跡からも諸磯C式期の土器が確認されている。中期になるとその遺跡数は急増し、各河川の両岸に沿ったところに分布するようになる。新町の検田見遺跡は産川の段丘上に位置し、発掘調査により勝坂式期から加曾利E式期にかけての遺構・遺物が出土しており塩田平の当該期の代表的な遺跡である。後期になると遺跡も減少する。塩田平では、富士山の木皿遺跡・上大郷遺跡が知られている。上大郷遺跡では、堀の内式期の敷石住居跡をはじめ各種の遺構・遺物が出土している。晩期に至ってはその遺跡の存在は全く不明となっている。

弥生時代の遺跡は、前期・中期の遺跡はほとんど確認されていない。後期の後半になると遺跡数が爆発的に増加し塩田平全域に遺跡が分布するようになる。産川流域では杣木遺跡・西光坊遺跡が調査されている。追開沢川流域では和手遺跡が調査されている。東塩田地区では天神遺跡が調査されている。いずれも河川の自然堤防上に立地した集落跡である。出土土器は千曲川流域を中心に文化圏を形成している箱清水式土器である。

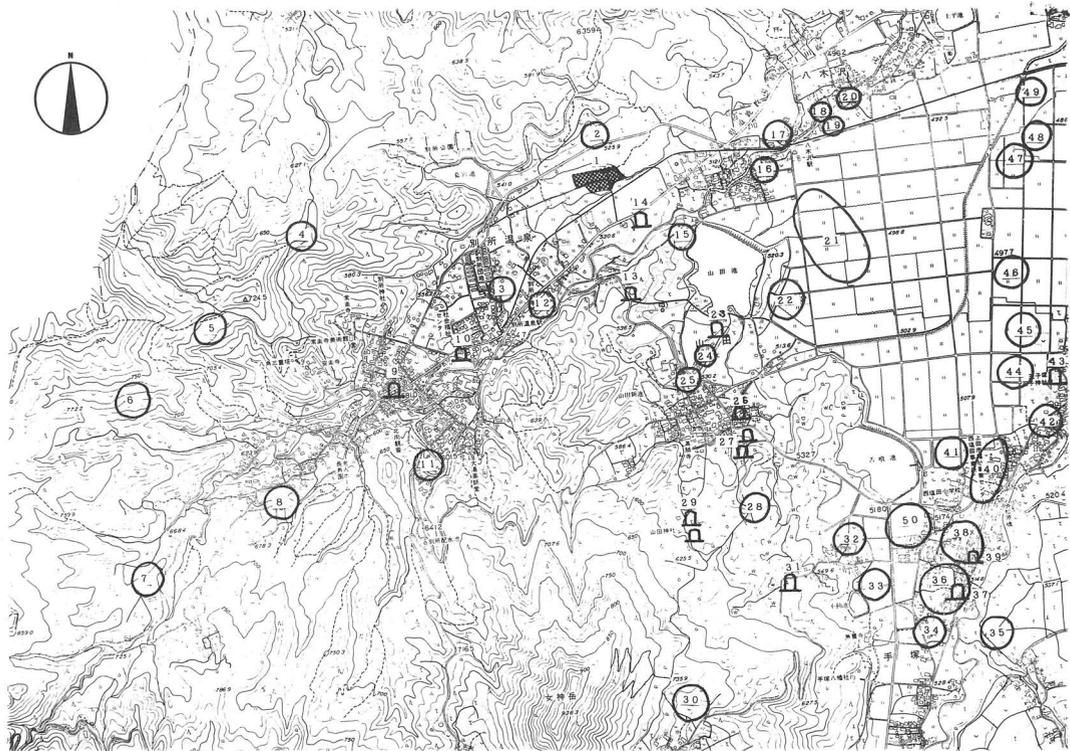
古墳時代の遺跡も数多く確認されている。古墳としては下之郷の他田塚古墳と塚穴原1号墳が調査されている。他田塚古墳は下之郷古墳群の内の1基である。調査の結果、6世紀後半に築造された円墳と考えられている。塚穴原1号墳も下之郷古墳群の内の1基である。円墳である。調査の結果、6世紀後半に築造された下之郷古墳群の盟主的古墳と考えられている。手塚には皇子塚古墳が存在する。円墳である。また、新町には塩田平最大規模の王子塚古墳が存在している。前方後円墳あるいは帆立貝式古墳と考えられている。

奈良・平安時代は上田・小県地方に信濃国府が設置されて信濃国分寺が造営されたこと。また、官道である東山道が整備されていたことにより繁栄していたことが推測される。塩田平においても多くの遺跡が確認されている。東塩田地区では天神遺跡が調査され、約25件の住居跡が確認されている。産川流域では杣木遺跡・西光坊遺跡が調査され、住居跡等が確認されている。保野の中井遺跡では調査の結果、掘立柱建物跡・井戸跡が確認されている。

中世以降は、城館跡・条里的遺構・神社・寺院などが文献資料とあいまって、質・量とも豊富に存在している。特に中世の繁栄は「信州の鎌倉」と言わしめるほどである。城館跡としては前山地区の塩田城跡が知られている。調査の結果、建物跡・敷石遺構等が検出され、土器・陶器・磁器・将棋の駒などが出土している。条里的遺構は各地で確認されている。神社は、下之郷の生島足島神社本殿・前山地区の塩野神社本殿などが知られている。寺院では富士山の西光寺の阿弥陀堂・前山地区の前山寺三重塔・中禅寺薬師堂・別所地区の安楽寺八角三重塔・常楽寺石造多宝塔などが知られている。国宝・重要文化財等の集中する地域となっている。

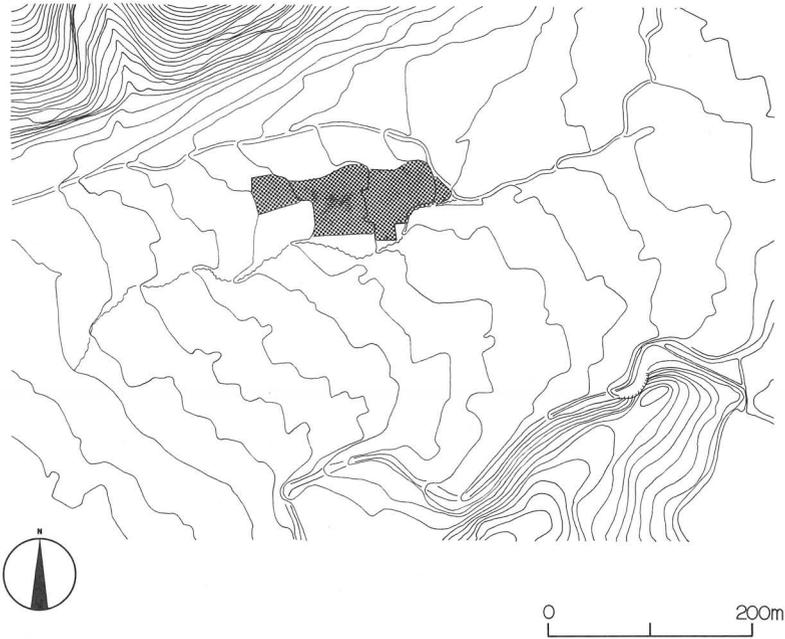
<参考文献>

- ・上田小県誌刊行会「上田小県誌（第四巻自然編）」1963
- ・上田市教育委員会「上田市の原始・古代文化」1977
- ・上田市立博物館「発掘された原始・古代」1992



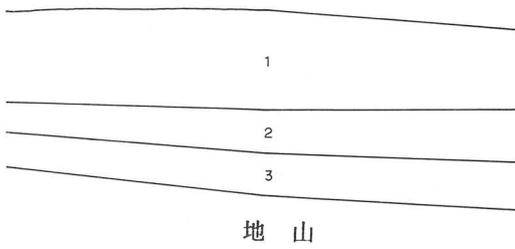
番号	遺跡名	時代	所在地	番号	遺跡名	時代	所在地
1	宮の前遺跡	弥生～平安	別所字宮の前	26	ビワ塚	不明	山田字下打越
2	中曽根遺跡	平安	別所字中曽根	27	上ノ山塚古墳	古墳	山田字下打越
3	比蘭樹遺跡	縄文	別所字比蘭樹	28	上打越遺跡	縄文	山田字上打越
4	北谷遺跡	平安	別所字北谷	29	上平古墳	古墳	山田字上平
5	弁財遺跡	平安	別所字弁財	30	穴平遺跡	奈良～平安	野倉字穴平
6	北浦遺跡	縄文	別所字北浦	31	皇子塚古墳	古墳	手塚字王子塚
7	塩水遺跡	縄文	別所字塩水	32	金井遺跡	弥生	手塚字金井
8	日影遺跡	平安	別所字日影	33	滝沢遺跡	平安	手塚字滝沢
9	上塚古墳	古墳	別所字東町	34	樋ノ口遺跡	縄文～平安	手塚字樋ノ口
10	將軍塚古墳	古墳	別所字將軍塚	35	東馬場遺跡	縄文～平安	前山字東馬場
11	西大湯遺跡	古墳～平安	別所字大湯	36	東紺屋村遺跡	縄文～平安	手塚字東紺屋
12	欠下遺跡	縄文	別所字欠下	37	クチアケ塚古墳	古墳	手塚字堰口ノ一
13	北ノ沢古墳	古墳	山田字北ノ沢	38	立石遺跡	縄文～平安	手塚字立石
14	大塚古墳	古墳	別所温泉字大塚	39	東紺屋村古墳	古墳	手塚字東紺屋
15	池田口遺跡	平安	八木沢字池田口	40	堰口ノ一遺跡	縄文～平安	手塚字堰口ノ一
16	馬場遺跡	弥生～平安	八木沢字馬場	41	五反田遺跡	縄文～弥生	手塚字五反
17	砂畑遺跡	弥生～平安	八木沢字砂畑	42	王子遺跡	弥生～平安	新町字王子
18	表田中遺跡	古墳～平安	八木沢字表田中	43	王子塚古墳	古墳	新町字王子
19	上丸田遺跡	縄文	八木沢字上丸田	44	堰口ノ二遺跡	縄文～平安	手塚字堰口ノ二
20	中丸田遺跡	縄文	八木沢字中丸田	45	縄手遺跡	平安	手塚字縄手
21	塚田遺跡	平安	八木沢字塚田	46	東長畑遺跡	縄文・平安	手塚字東長畑
22	原田遺跡	弥生～平安	山田字原田	47	加坂遺跡	弥生～平安	手塚字加坂
23	横山塚	不明	山田字竹ノ裏	48	西沖遺跡	平安	十人字西沖
24	竹ノ裏遺跡	縄文・平安	山田字竹ノ裏	49	加生遺跡	縄文～弥生	十人字加生
25	西村遺跡	平安	山田字西村	50	西紺屋村遺跡	縄文～平安	手塚字西紺屋

第1図 宮の前遺跡位置図



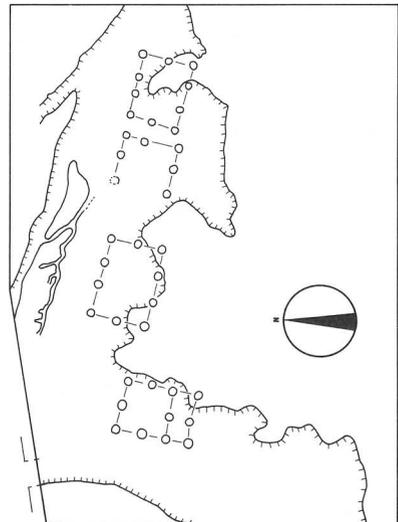
第2図 宮の前遺跡地形図

A



- 1 : 表土
- 2 : 黄褐色土層 (粘土質)
- 3 : 黒褐色土層

B



第3図 層序模式図

第三章 遺跡の調査

第一節 遺跡の概要

宮の前遺跡は、塩田平の西端に位置しており、湯川とその支流である腰巻川によって押し出し地形を造っている。当該遺跡はこの河川間の微高地上に立地している。(第2図) 遺跡の北側は腰巻川が流れており、南側は旧河川と思われる低地であり、現在は小河川が流れている。東側はこの二つの河川が合流している。このことから遺跡の範囲は自ずと限定されてくる。即ち、これらの河川に囲まれた範囲が宮の前遺跡である。トレンチ調査の結果もこれを裏付けるものとなっている。また、西側もトレンチ調査により調査範囲よりわずかに西方に広がる程度と思われる。

遺跡地の遺構までの土層は薄く、基本層序(第3図)は3つに別けられる。Ⅰ層は表土で現耕作土である。Ⅱ層は黄褐色土で粘土質の強い水田耕作土である。Ⅲ層は黒褐色土で遺物の包含層を形成している。調査地区は水田整地の為の削平が激しく、このⅢ層は僅かに残るのみで、Ⅱ層の下は地山となっていることが多かった。

調査地区(第4図)は、河川間の微高地の地区と河川跡と思われる低地の地区とに別けられる。微高地の調査地区は、戦前の水田の整地の為に削平されており遺構(特に竪穴住居跡)の遺存状態は悪かった。しかし、竪穴住居跡内の遺物の出土位置はそのほとんどが床面上であった。調査地区南側の低地は、河川跡と考えられる。その全体を調査するには至らなかったが、何度かにわたり陸地になったり、河川になったりしていることがうかがえた。

主な遺構は竪穴住居跡52件・掘立柱建物跡61件・溝跡60条・その他土坑等があった。掘立柱建物跡についてはその数が増える可能性があり、溝跡は溝跡どうしがつながる可能性がある。特に掘立柱建物跡の数の多さは注目すべきものである。竪穴住居跡と掘立柱建物跡ともに調査地区全体に分布している。

遺跡の主な時代は出土遺物より、弥生時代後期後半から古墳時代初頭の時代と奈良時代から平安時代にかけての時代に別けることができる。遺構もほとんどがこの二つの時期のものと思われる。特に、掘立柱建物跡のほとんどは奈良時代から平安時代にかけての時代のものと思われる。溝跡は、その検出面より掘立柱建物跡と奈良時代から平安時代にかけての遺物が出土しており、その頃は、陸地化していたと思われる。河川跡の河床からは弥生時代後期後半から古墳時代初頭の遺物が出土している。この頃は河川が機能していたと思われる。その間の地層にも、柱穴などの生活の痕跡があるが時期は不明である。

また、縄文時代晩期の土坑1と土器1個体があった。近世の遺跡で地元では「すばこ様」として信仰されていた立石が調査地区内の水田の畦上に存在しており、発掘調査後に移転となった。



第4図 宮の前遺跡全体図

第二節 遺構

検出された遺構は、竪穴住居跡51件・掘立柱建物跡54棟・溝跡53条の他に土坑・ピット等が上げられる。

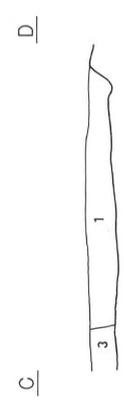
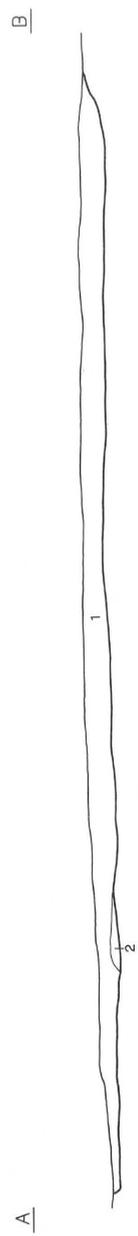
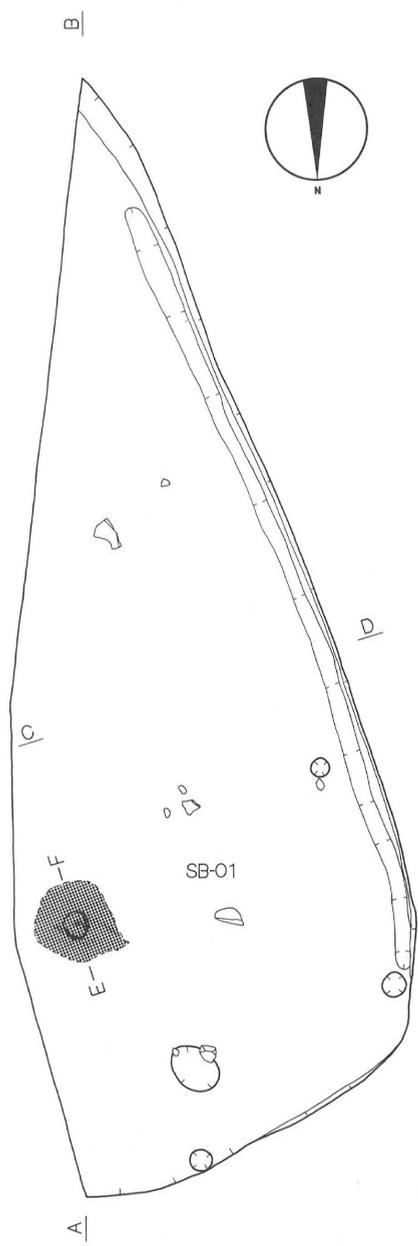
竪穴住居跡については、①弥生時代後期から古墳時代初頭と②奈良から平安時代の二時期に別けることができる。①の時代の主な住居跡は1, 10, 17, 18, 20, 25, 41, 43, 46号住である。平面形態は、1, 43, 46号住は隅丸長方形となり、18, 20, 25号住は隅丸方形である。炉はいづれも地床炉であり、1号住は炉胎土器を持つ。43号住には炉胎土器と共に炉縁石も持つ。②の時代の主な住居跡のうち、奈良時代の住居跡は8, 9, 22, 29, 35, 36, 37, 39, 40, 44, 45号住である。平安時代の住居跡は2, 7, 19, 26, 27, 28, 31号住である。出土土器より奈良時代から平安時代にかけての住居跡が中心となる。いずれもカマドを持つと思われる。

掘立柱建物跡は大型の建物から小型のものまで様々であるが、2間×3間の建物が多い。1間×1間、2間×2間の建物や総柱の建物も存在する。この建物の所属時期については19, 20, 21, 22号掘立柱建物跡の土層が比較的厚く、安定しており、その検出面からは平安時代の土器を中心として出土していることから、平安時代の掘立柱建物跡と考えられる。その他の掘立柱建物跡についてもほとんどがこの時期と思われる。掘立柱建物跡の方位については概ね東西か南北のどちらかであり、その中間の方角を向いている建物跡はほとんどない。なお、掘立柱建物跡の数は柱穴の集中する地区の見直しにより増加する可能性があることを断っておく。

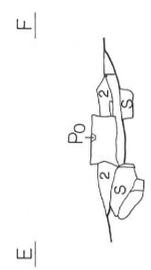
溝跡については、主なもののみについて説明する。1, 4, 51号溝跡は同一の河川跡と考えられる。奈良時代のころには陸地化していたと思われるが、弥生時代後期の頃は河川として機能していたと思われる。川岸跡には多量の土器が出土している。20号溝跡は方形に巡ると思われる溝跡である。幅は1m程で断面形はV字形となる。南西角付近には、溝を堀り残して橋としてある部分がある為、水路としてではなく区画の機能をもつものと思われる。平安時代の溝跡と思われる。36号溝跡は幅が2m程あり、断面形はV字形となる。当初は弥生時代後期に造られたと思われるが、奈良時代には半分ほど埋まった状態で機能していたと思われる。また、27, 29, 32, 48号溝跡のように竪穴住居跡や掘立柱建物跡を囲むように巡る溝跡もある。

土坑には皿状のものと深く堀下げられたものがある。103号土坑などは皿状土坑の代表的なものである。ほとんどは平面形が円形で深く掘り下げられている。特に36, 115, 116, 176号土坑などは土坑の内部に土器が置かれていた。115号土坑から出土した土器は縄文時代晩期の氷式期のものと思われる。

その他、8号竪穴住居跡の上層の水田の畦上には道祖神のような立石があり、地元では「スバコの神様」・「スバコ道祖神」などと呼んで奉っていたようである。(第72図)これは、平安時代後期の書物から登場し始める病氣の名前である「寸白」と同一のものと思われる。



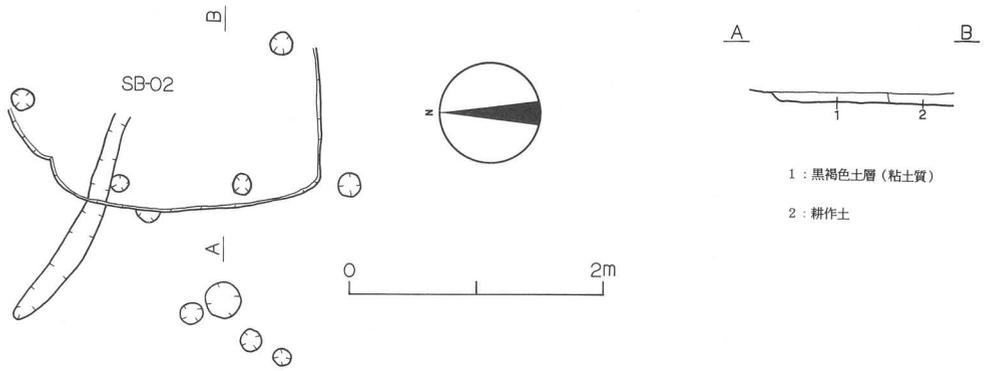
- 1: 黒褐色土層 (粘土質、小礫混じる)
- 2: 黒褐色土層 (炭が多く混じる)
- 3: 耕作土



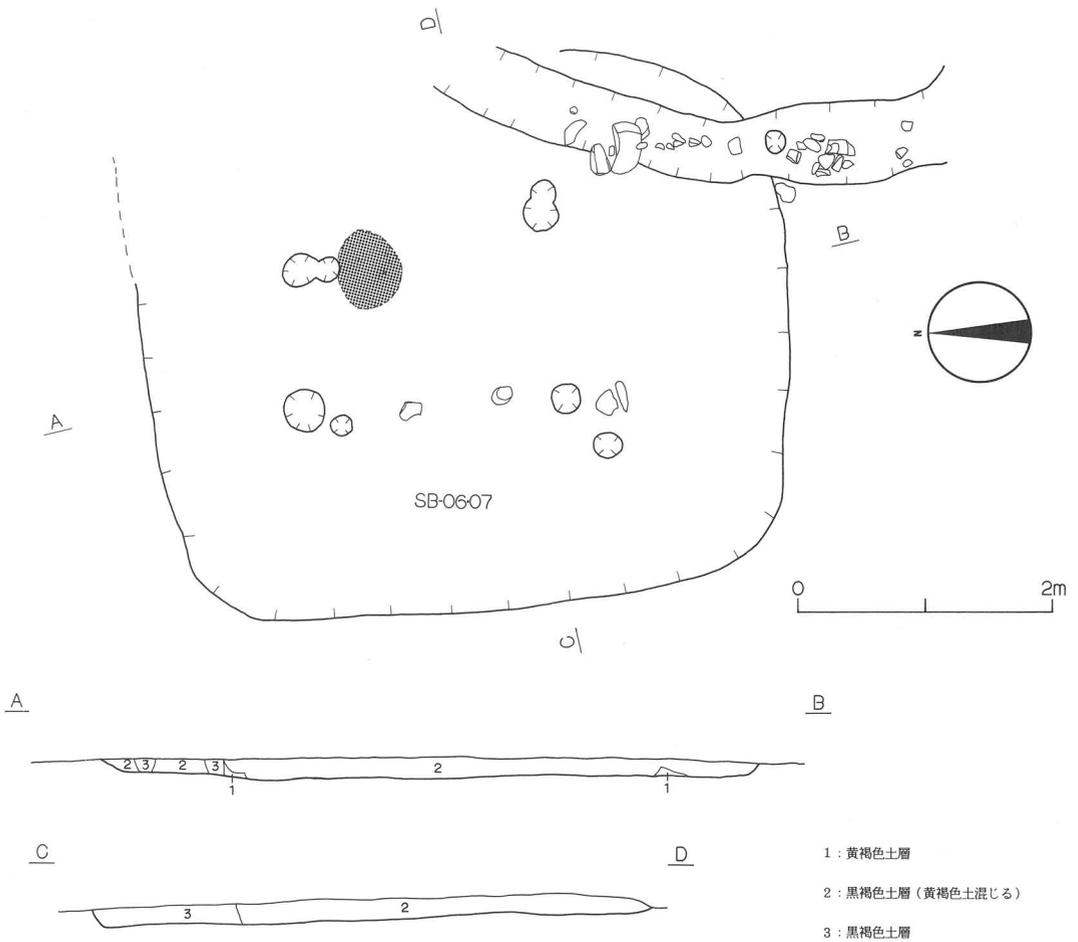
- 1: 灰色土層
- 2: 赤灰色土層 (焼土・炭を含む)



第5図 1号住居跡



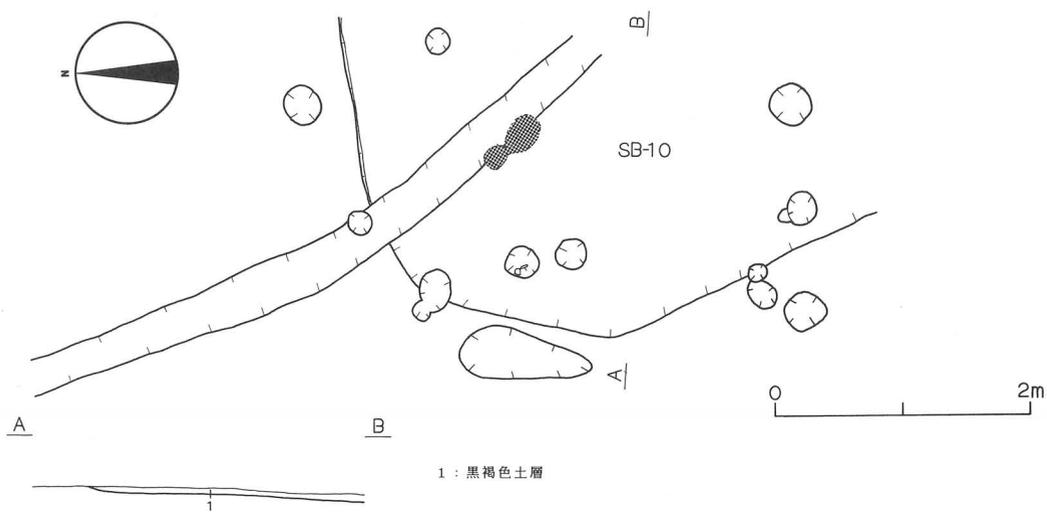
第6図 2号住居跡



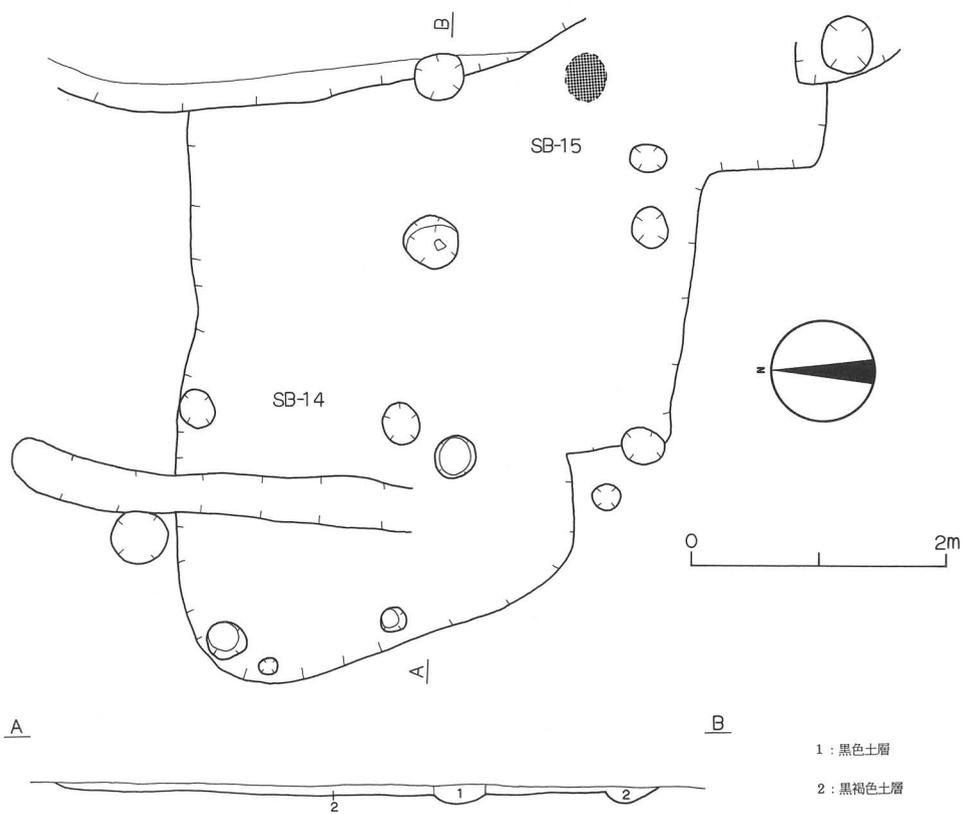
第7図 6・7号住居跡



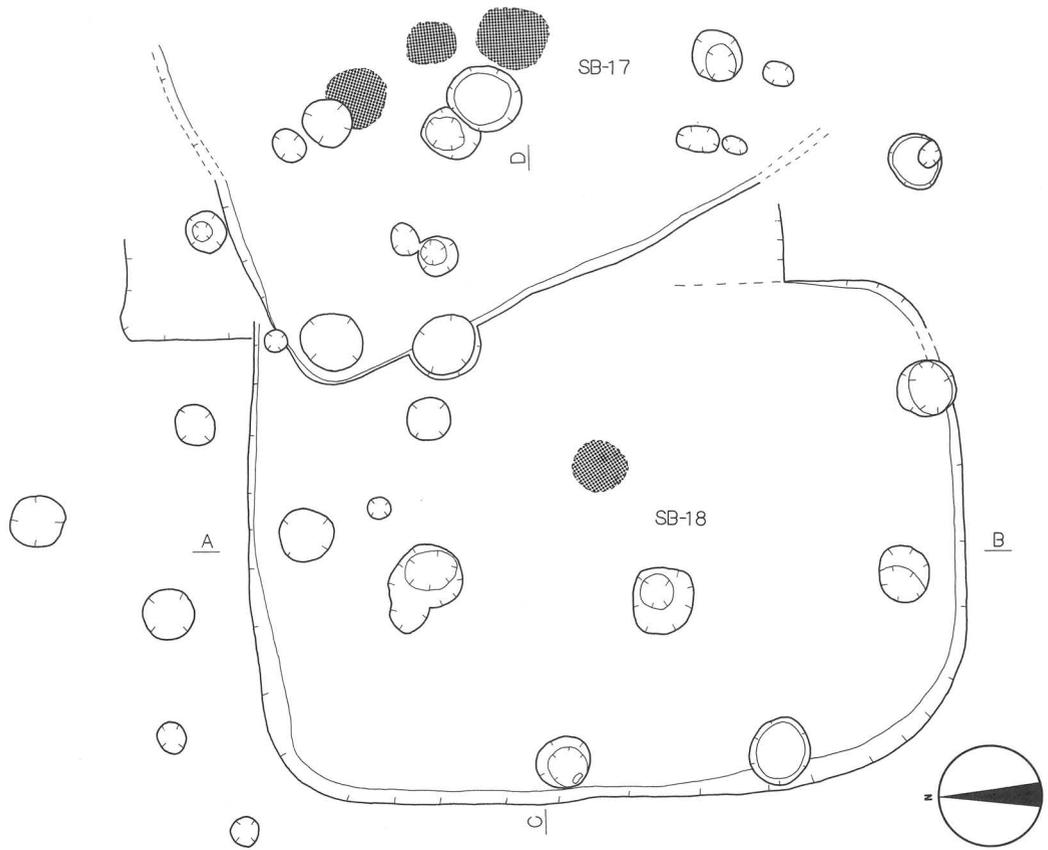
第8図 8・9号住居跡



第9图 10号住居跡



第10图 14・15号住居跡



A B



C D

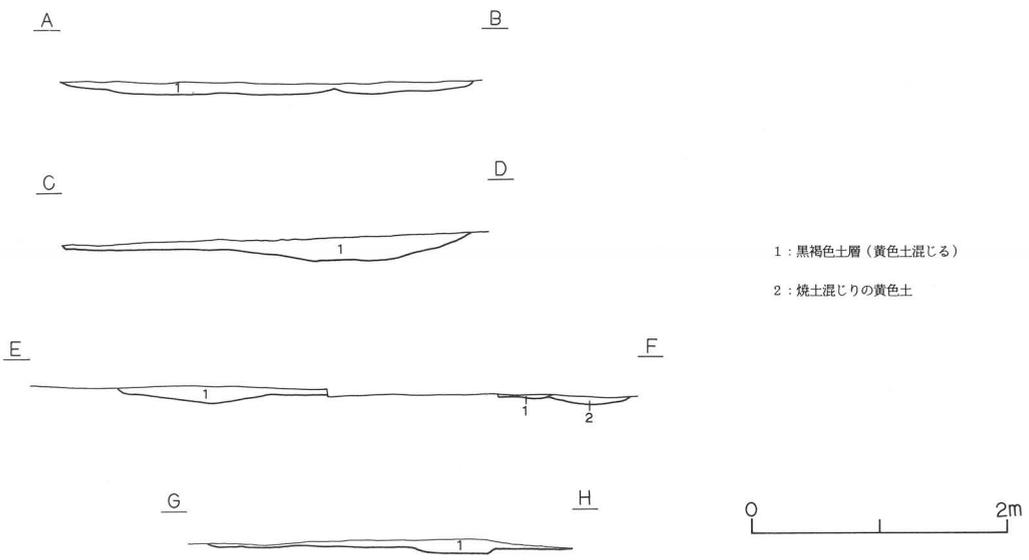
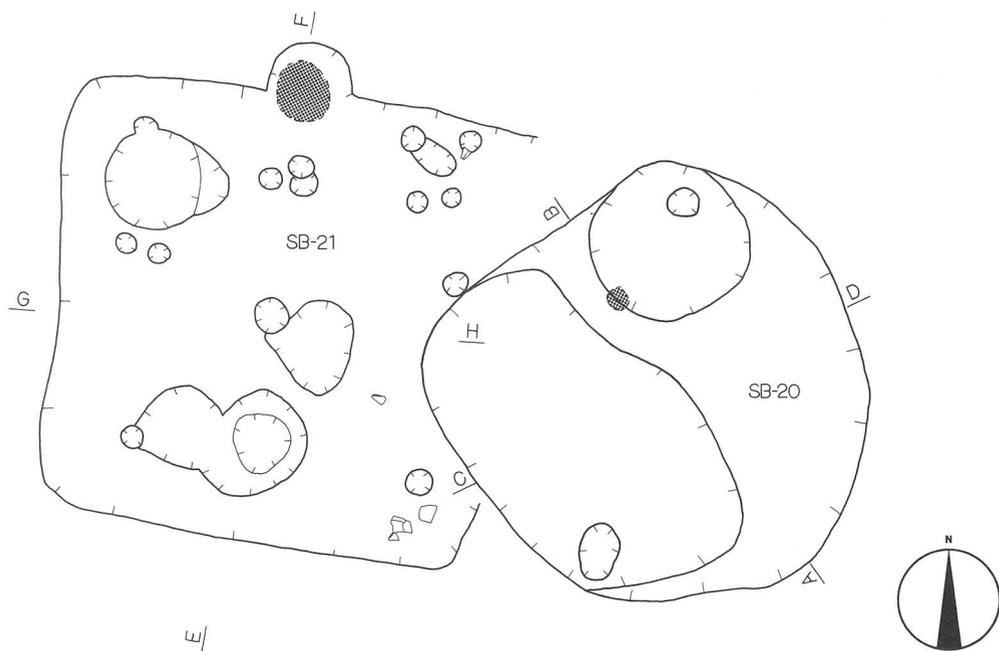


1 : 黑茶褐色土層 (黄色土を含む)

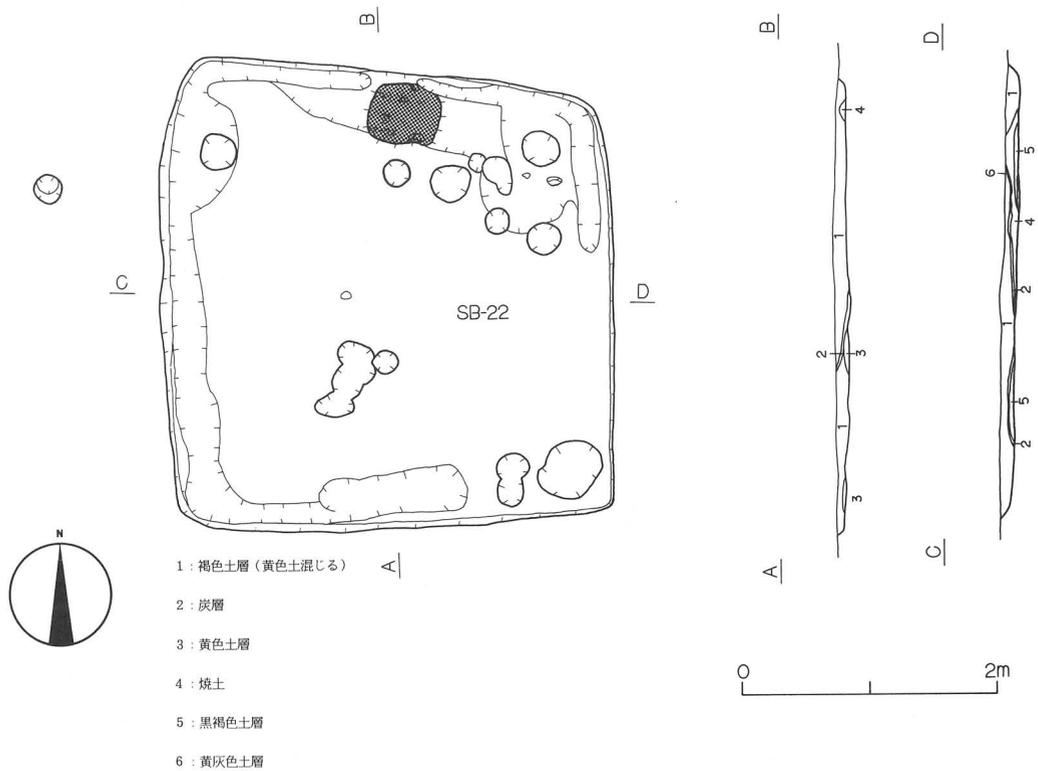
2 : 黑褐色土層



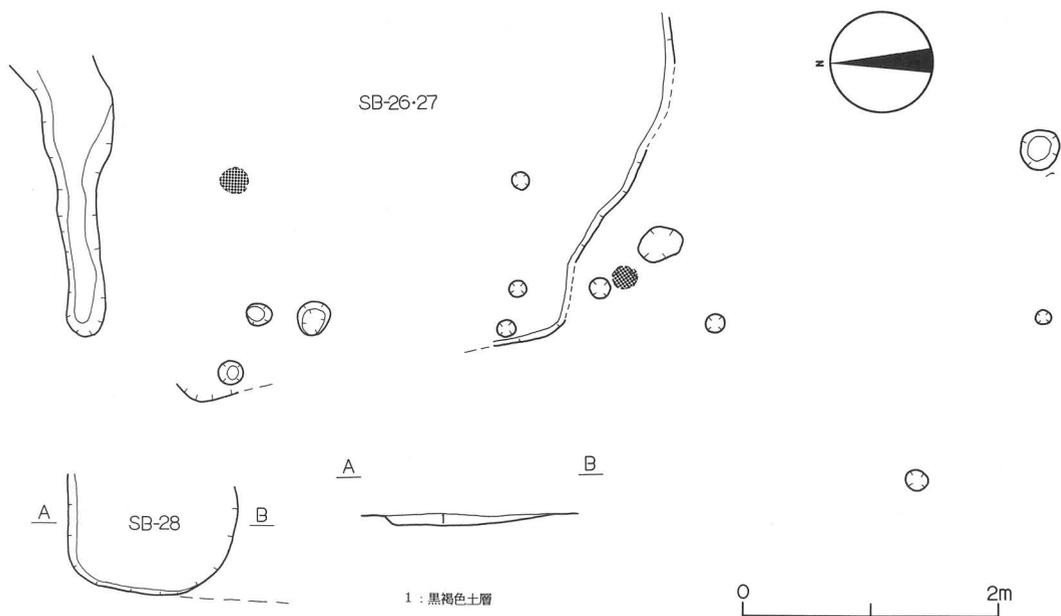
第 1 1 図 1 8 号住居跡



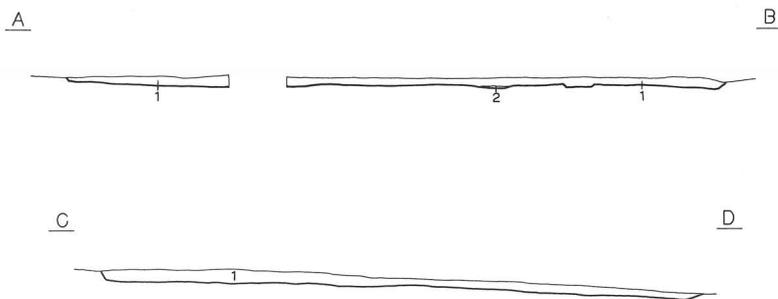
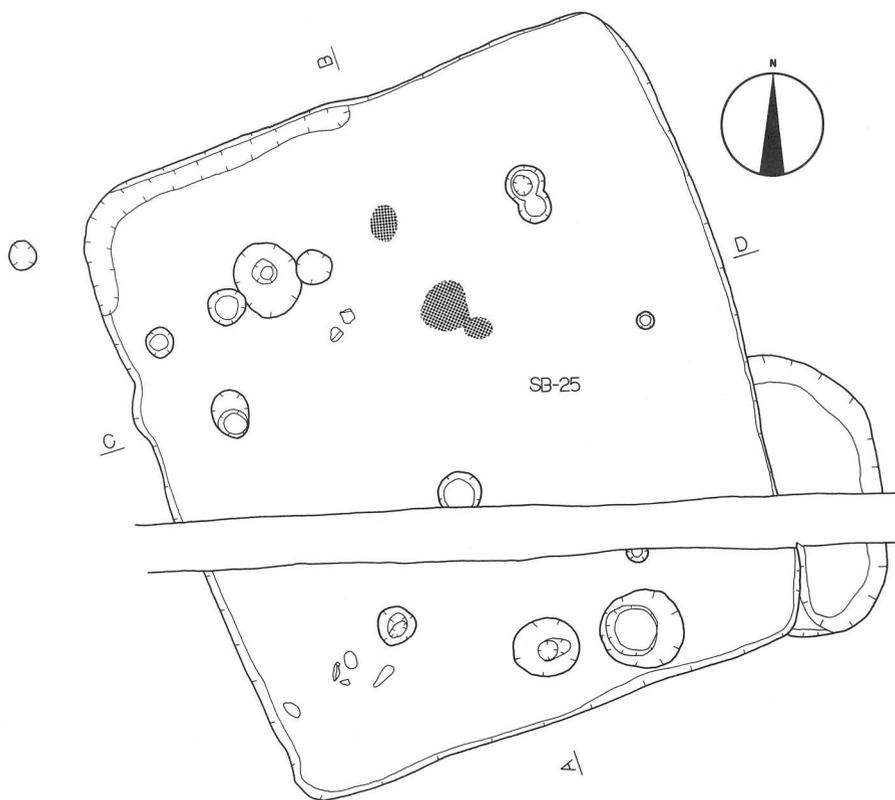
第12図 20・21号住居跡



第13図 22号住居跡



第14図 26・27・28号住居跡

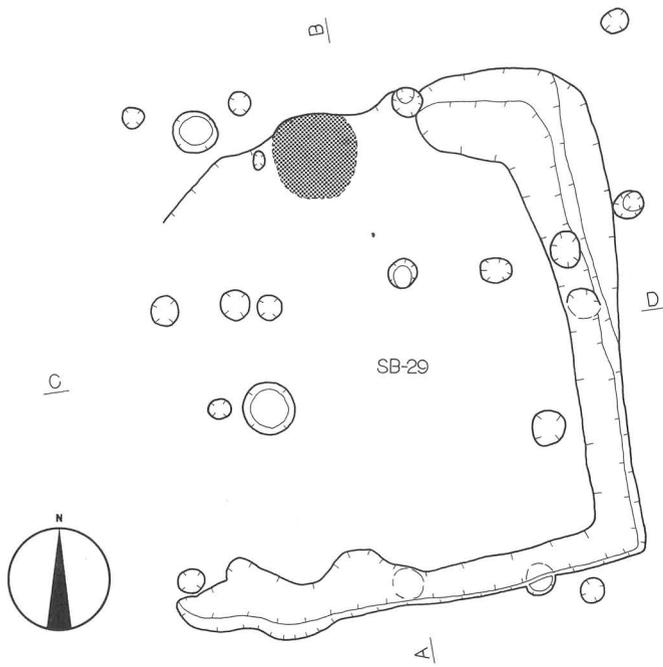


1: 黒褐色土層 (黄色土粒を含む)

2: 焼土



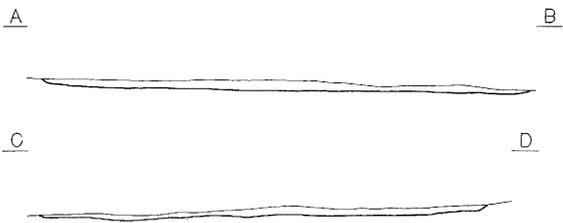
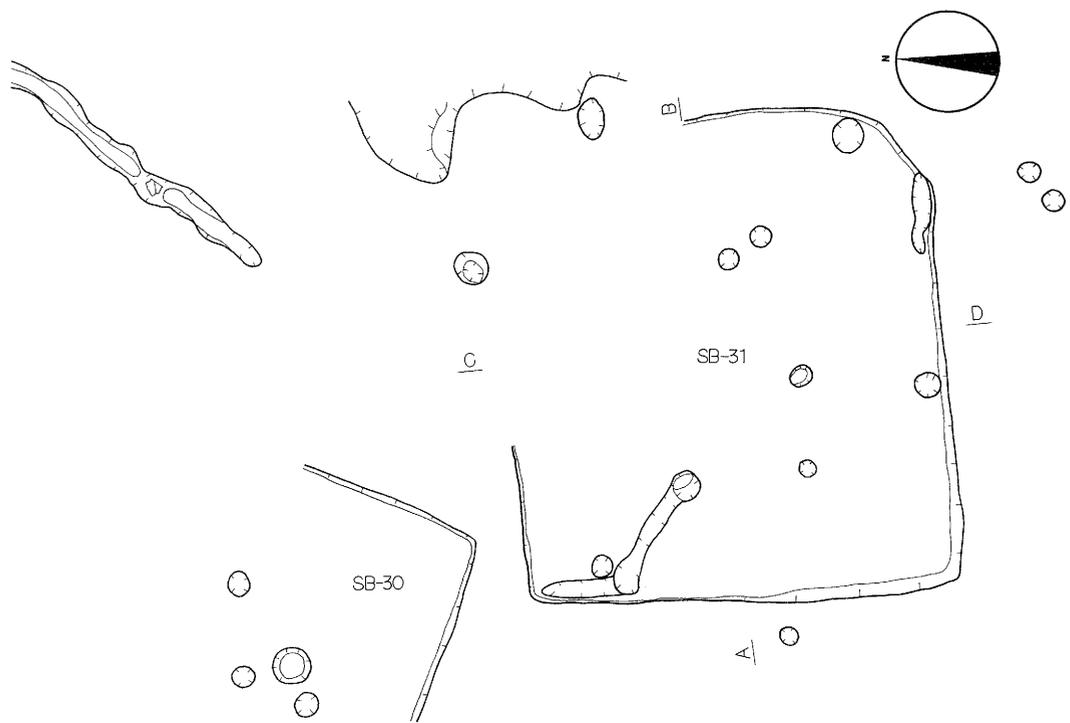
第15図 25号住居跡



1: 黒色土層 (黄色土を含む)



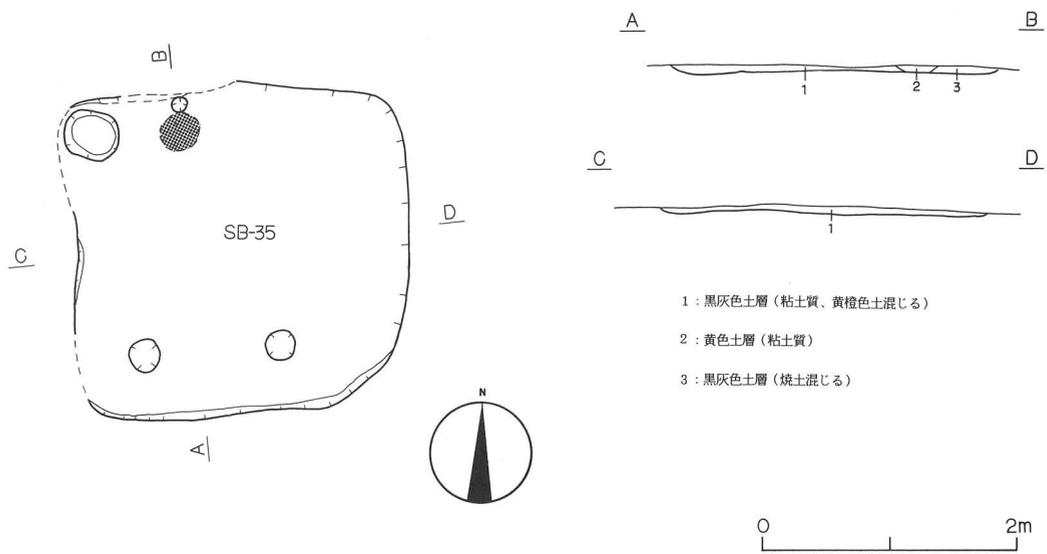
第16図 29号住居跡



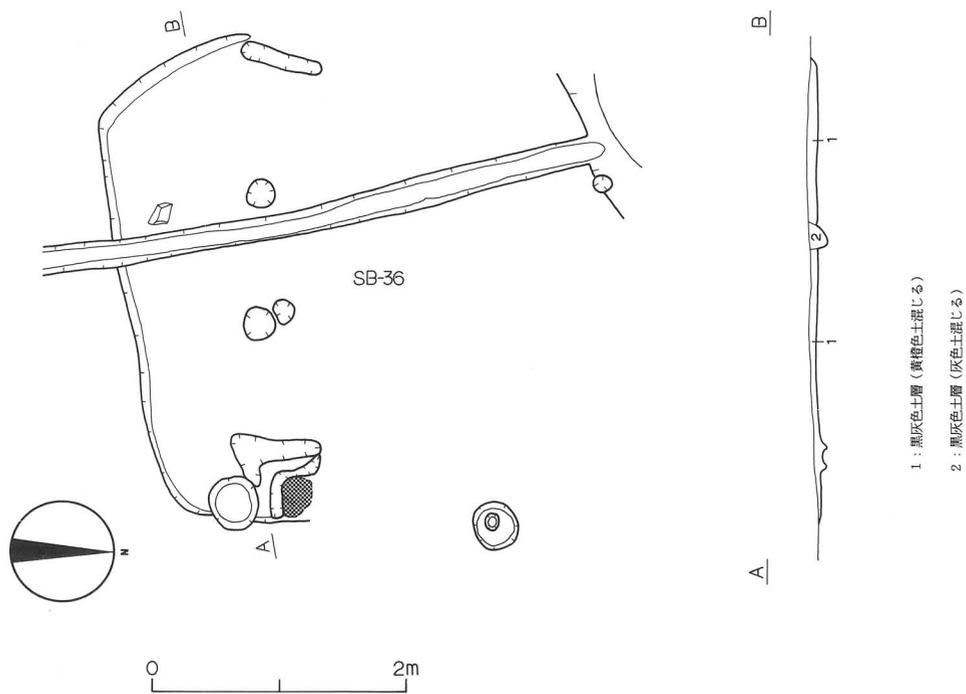
1: 黑色土層



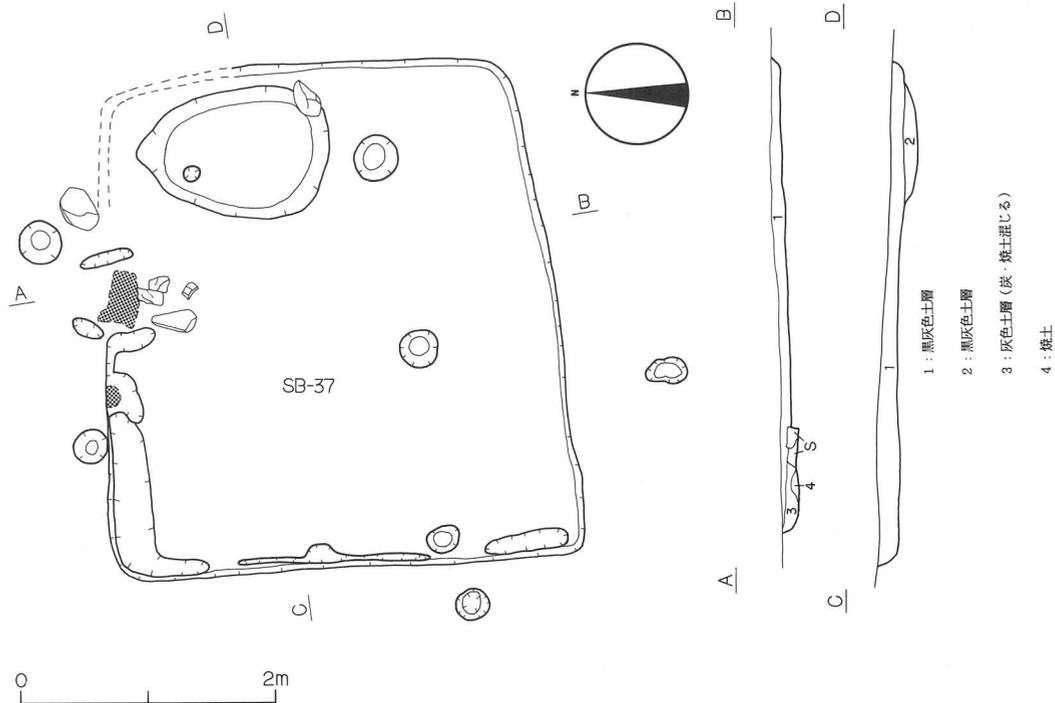
第17图 31号住居跡



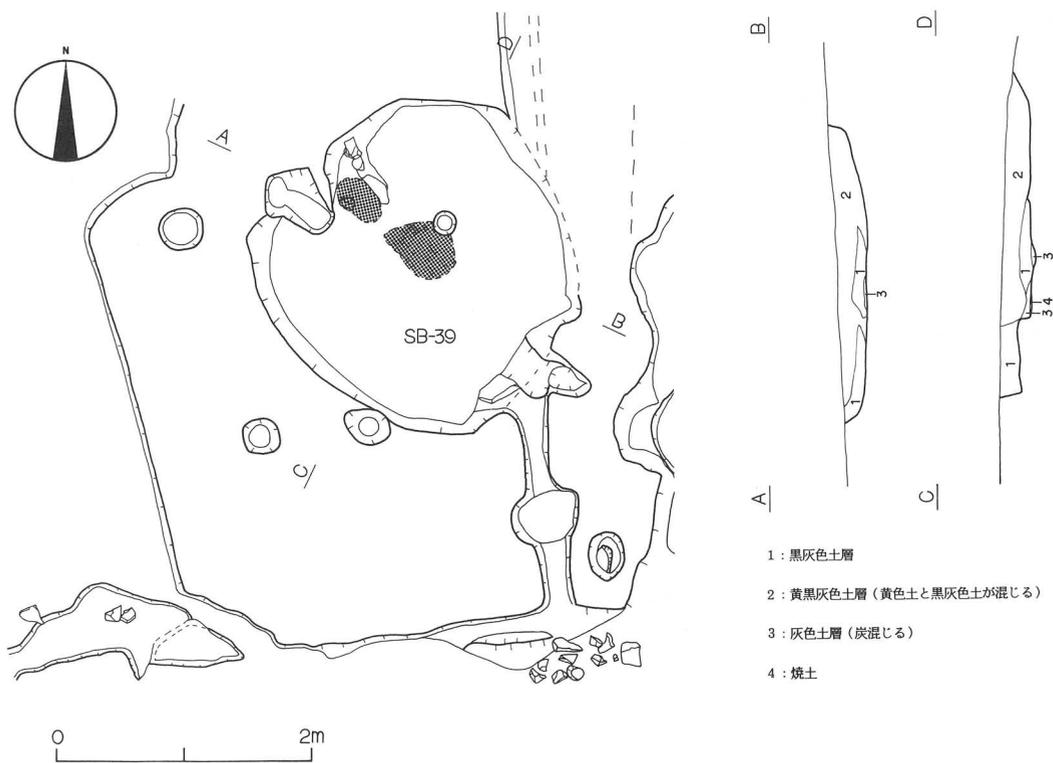
第18図 35号住居跡



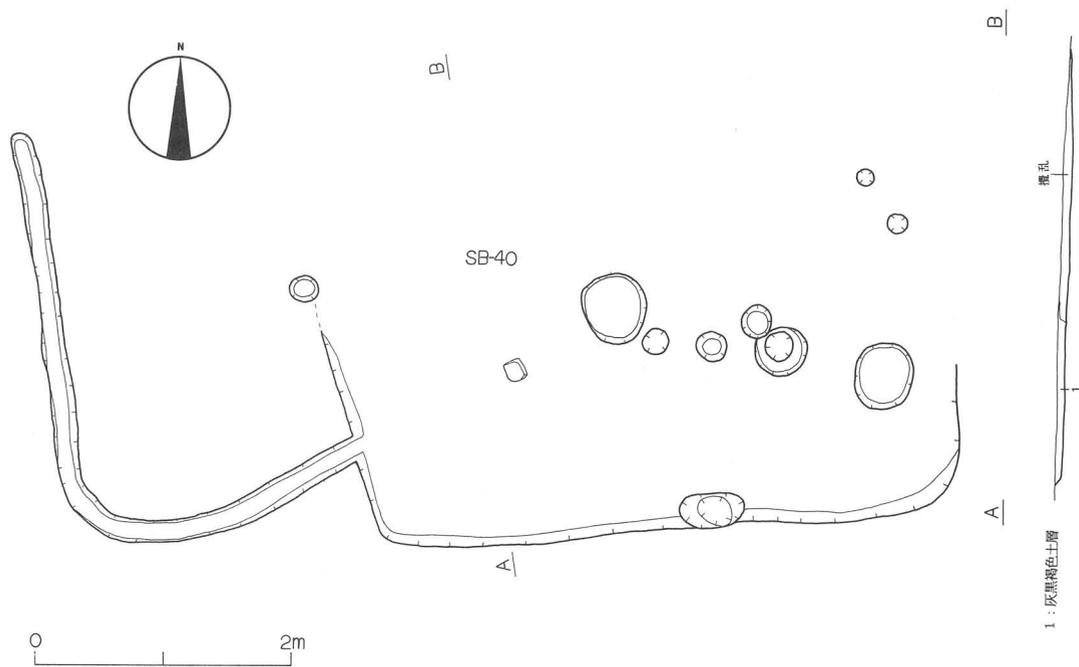
第19図 36号住居跡



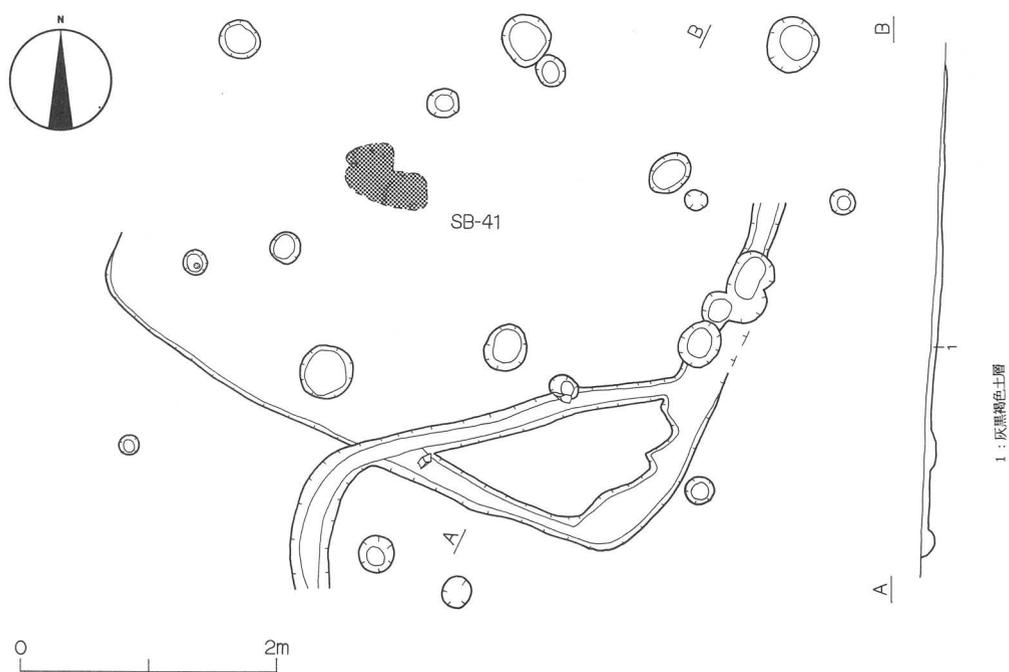
第20図 37号住居跡



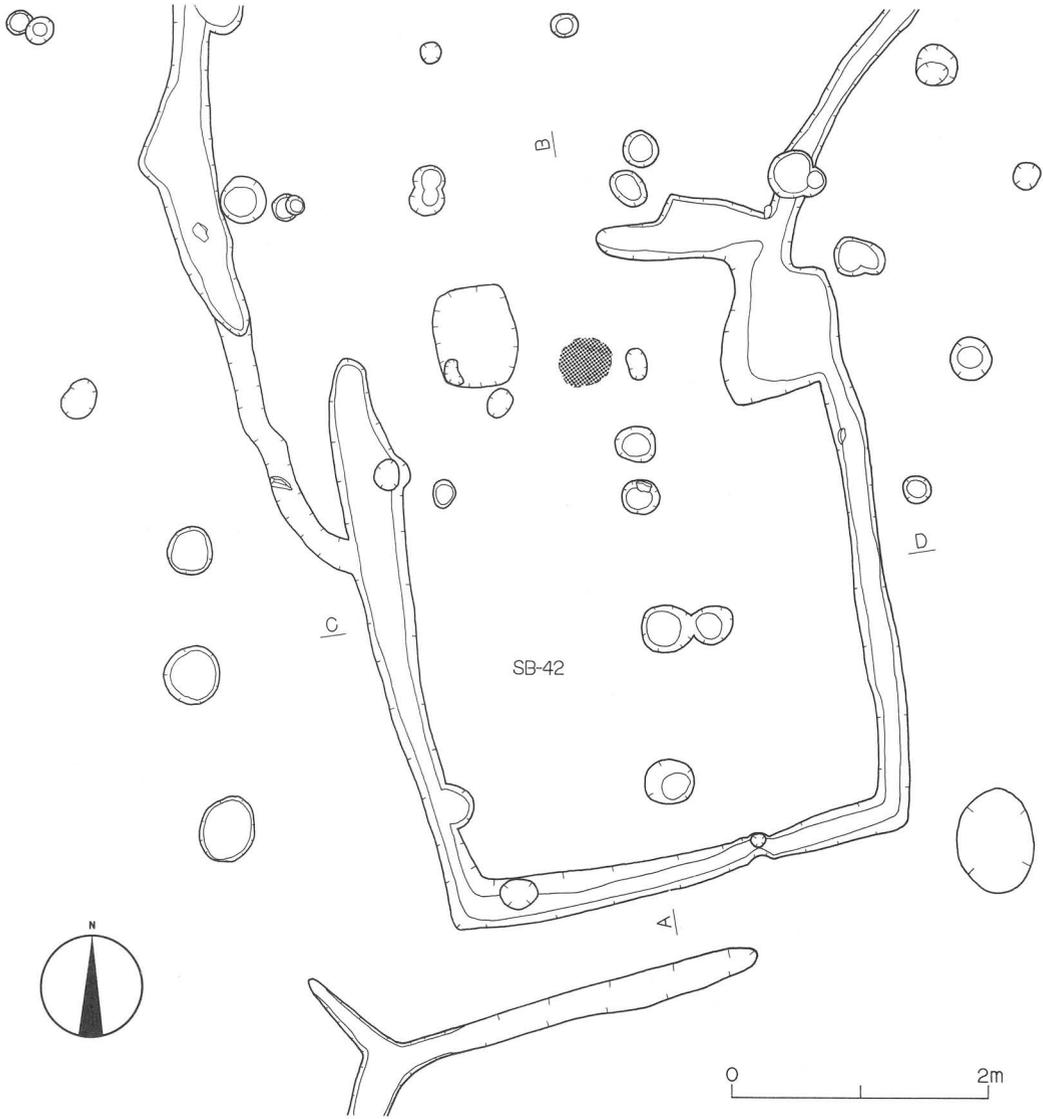
第21図 39号住居跡



第 2 2 图 4 0 号住居跡



第 2 3 图 4 1 号住居跡



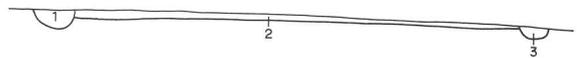
A



B

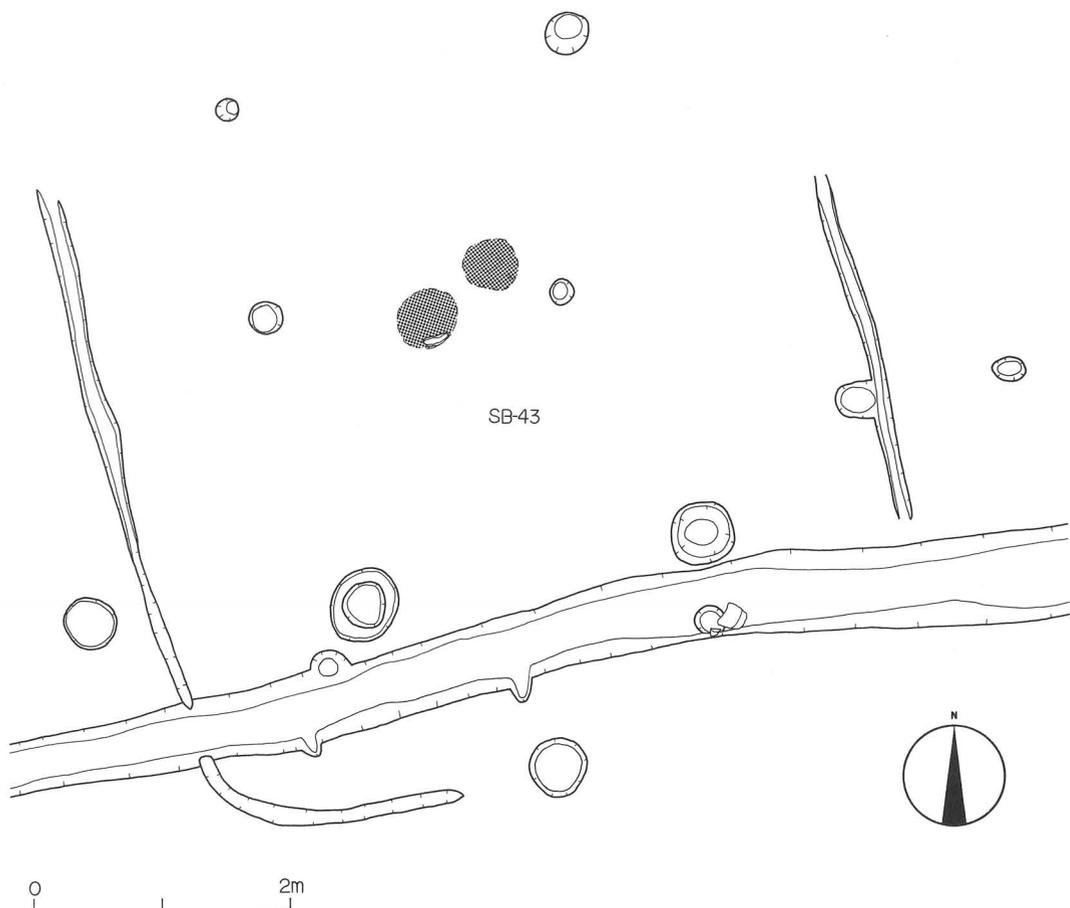
- 1: 黒褐色土層 (黄色土混じる)
- 2: 黄灰色土層 (黒褐色土混じる)
- 3: 黒褐色土層 (黄色土・炭混じる)

C

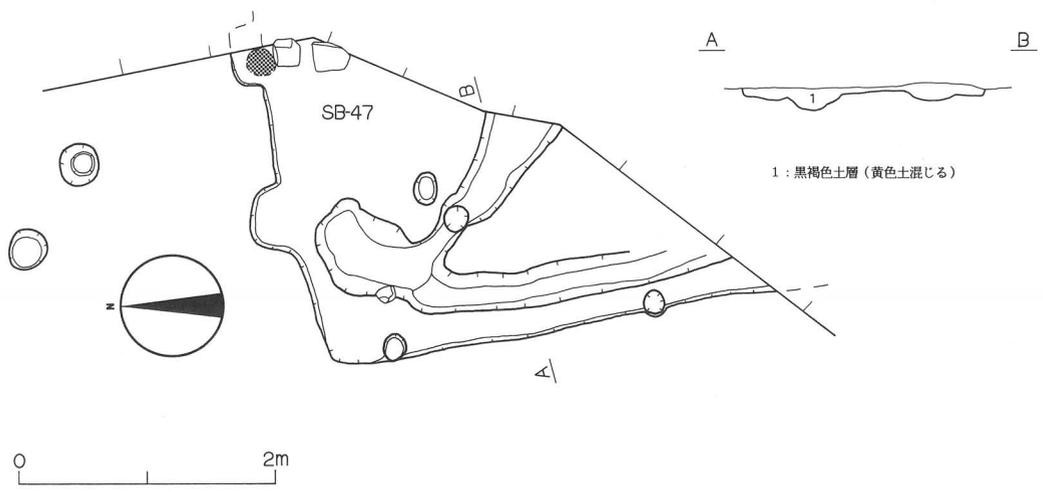


D

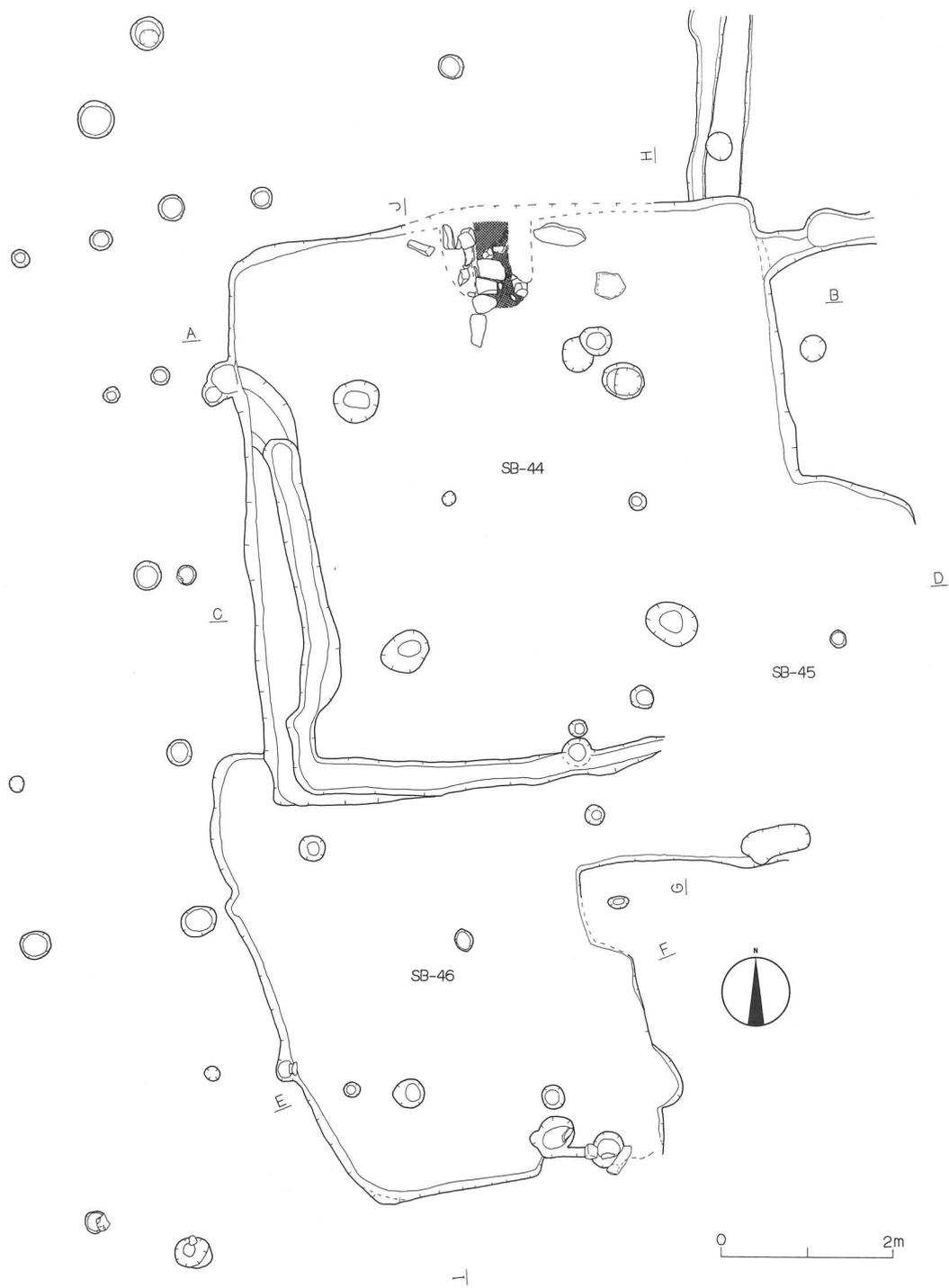
第24図 42号住居跡



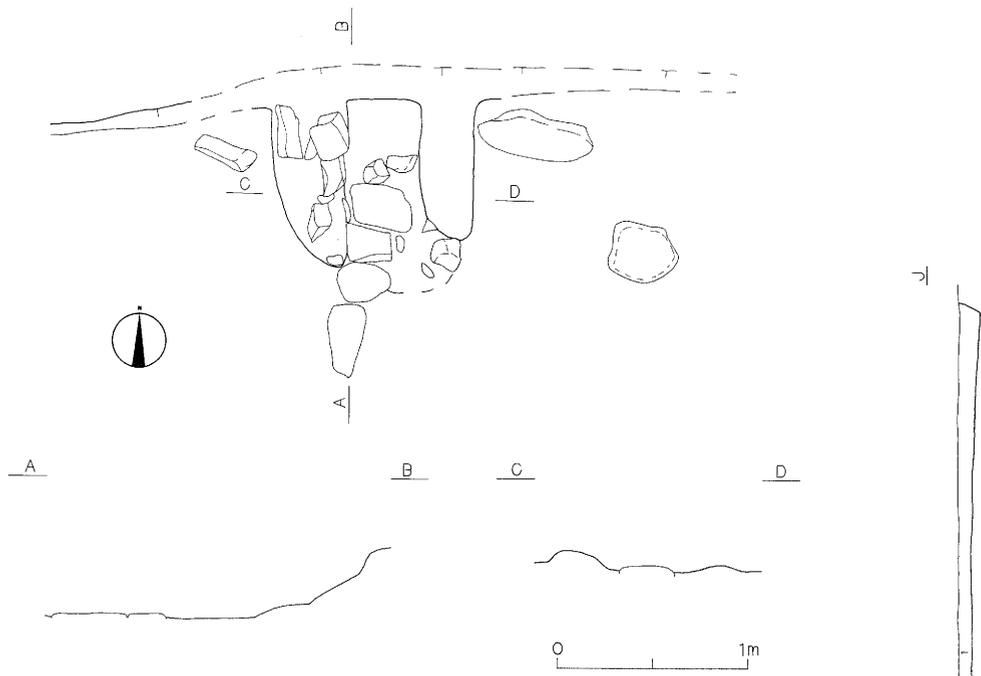
第 2 5 図 4 3 号住居跡



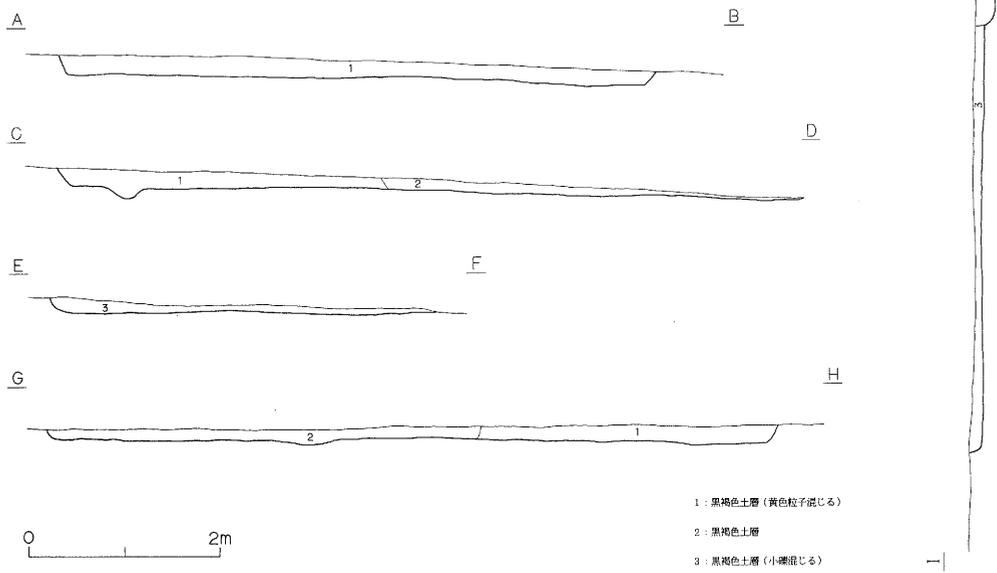
第 2 6 図 4 7 号住居跡



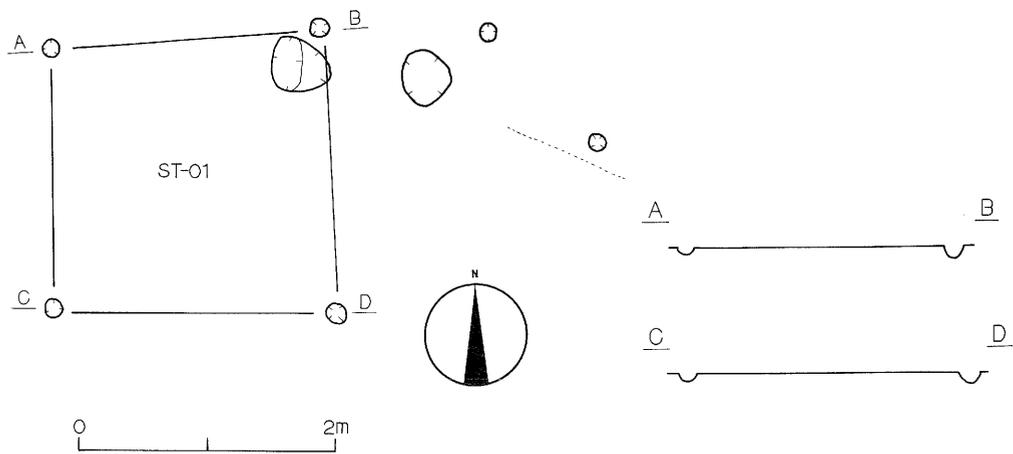
第27图 44・45・46号住居跡



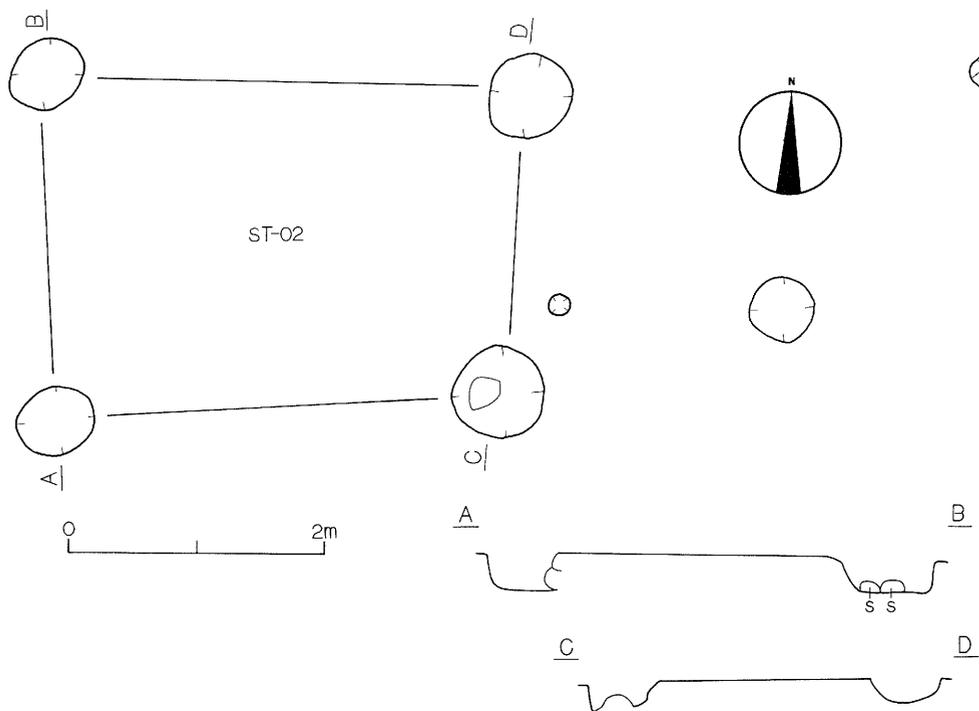
第28図 44号住居跡カマド



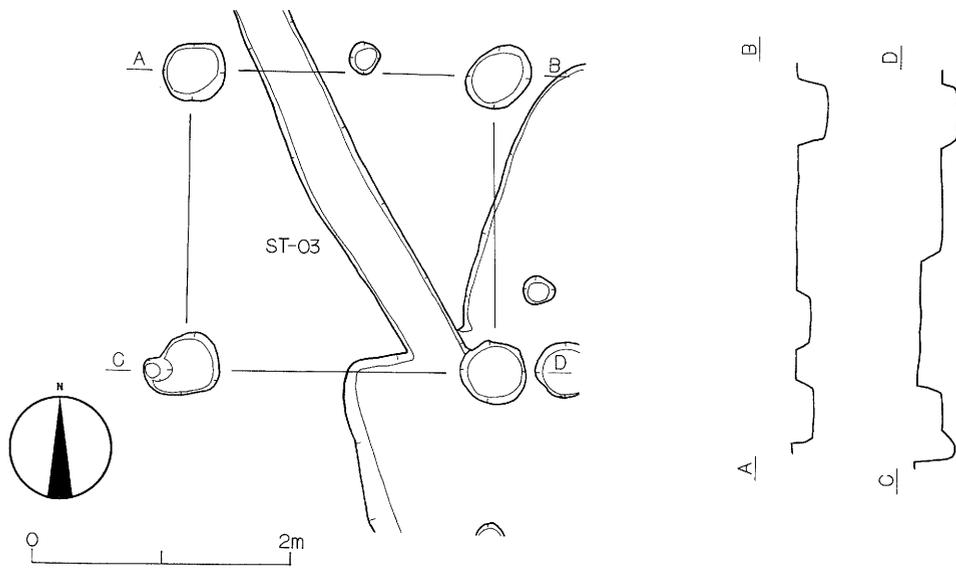
第29図 44・45・46号住居跡断面図



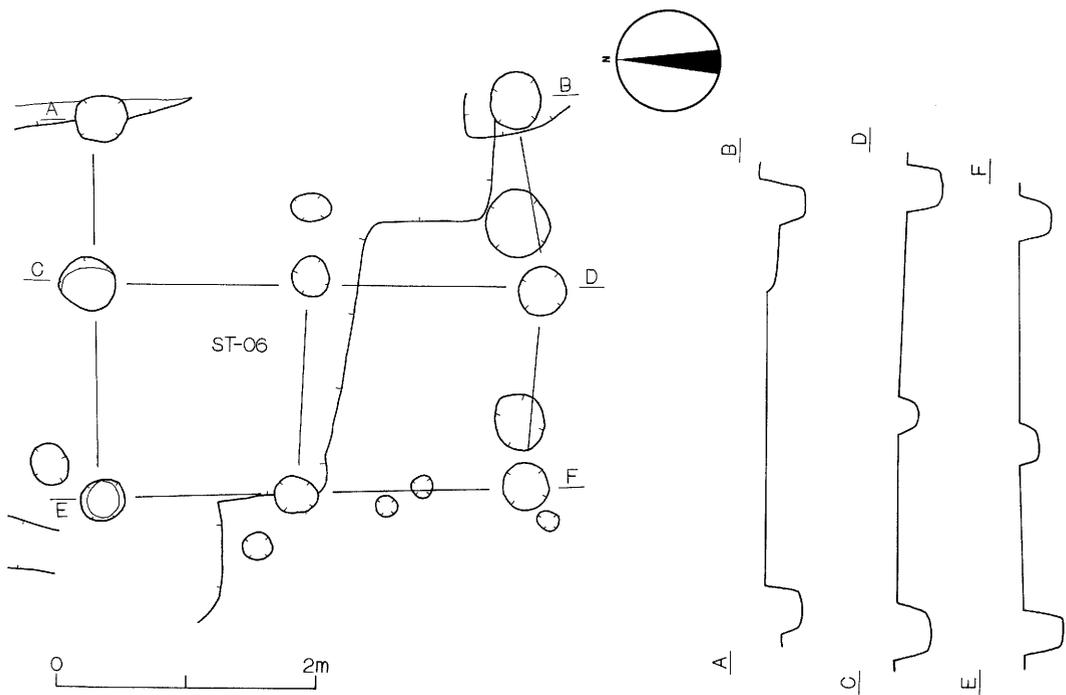
第30图 1号掘立柱建物跡



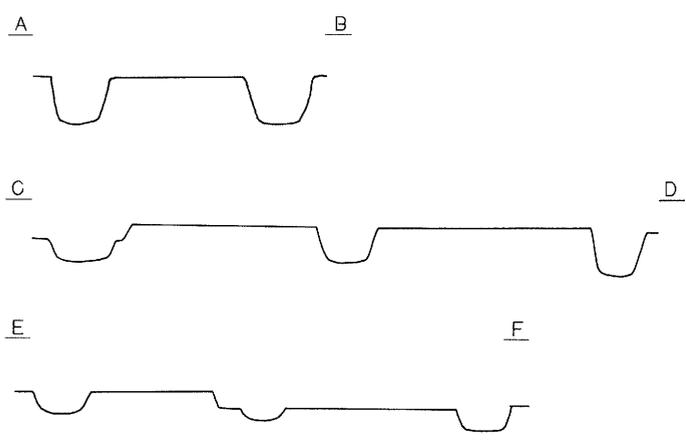
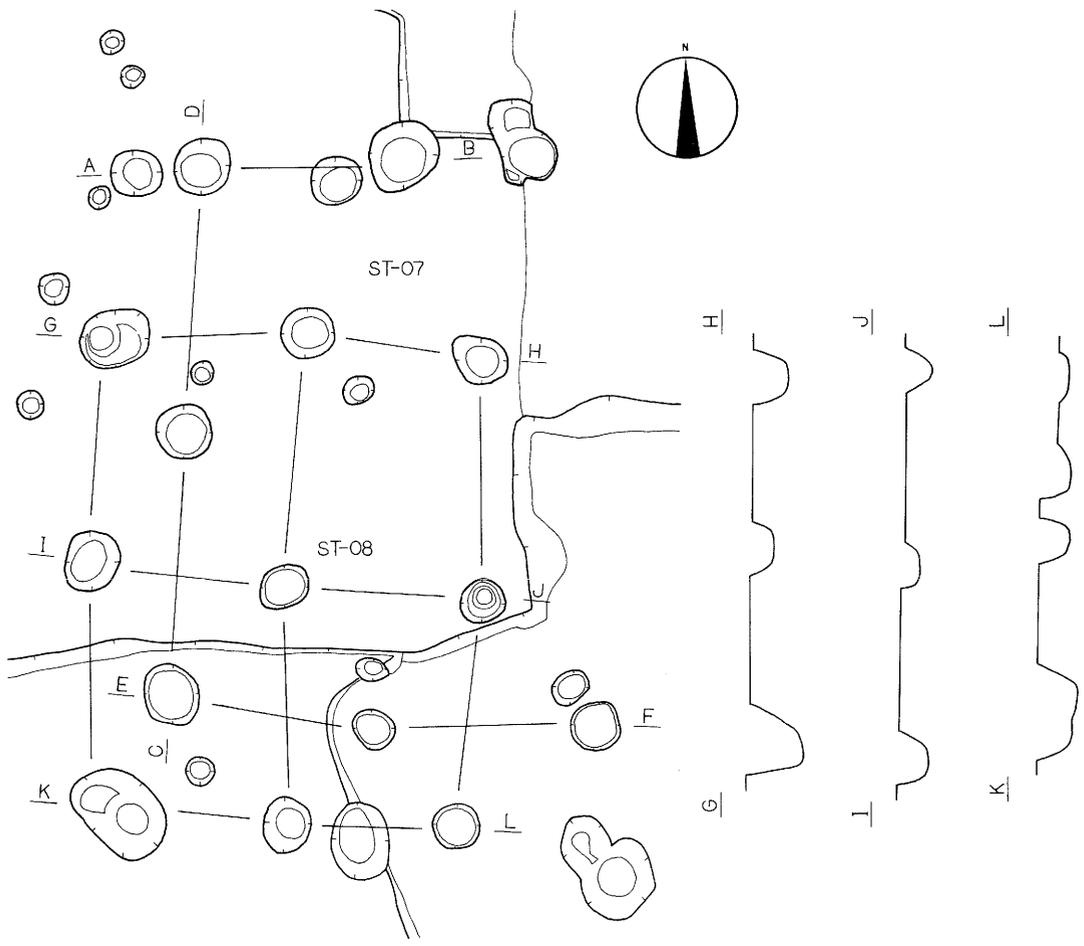
第31图 2号掘立柱建物跡



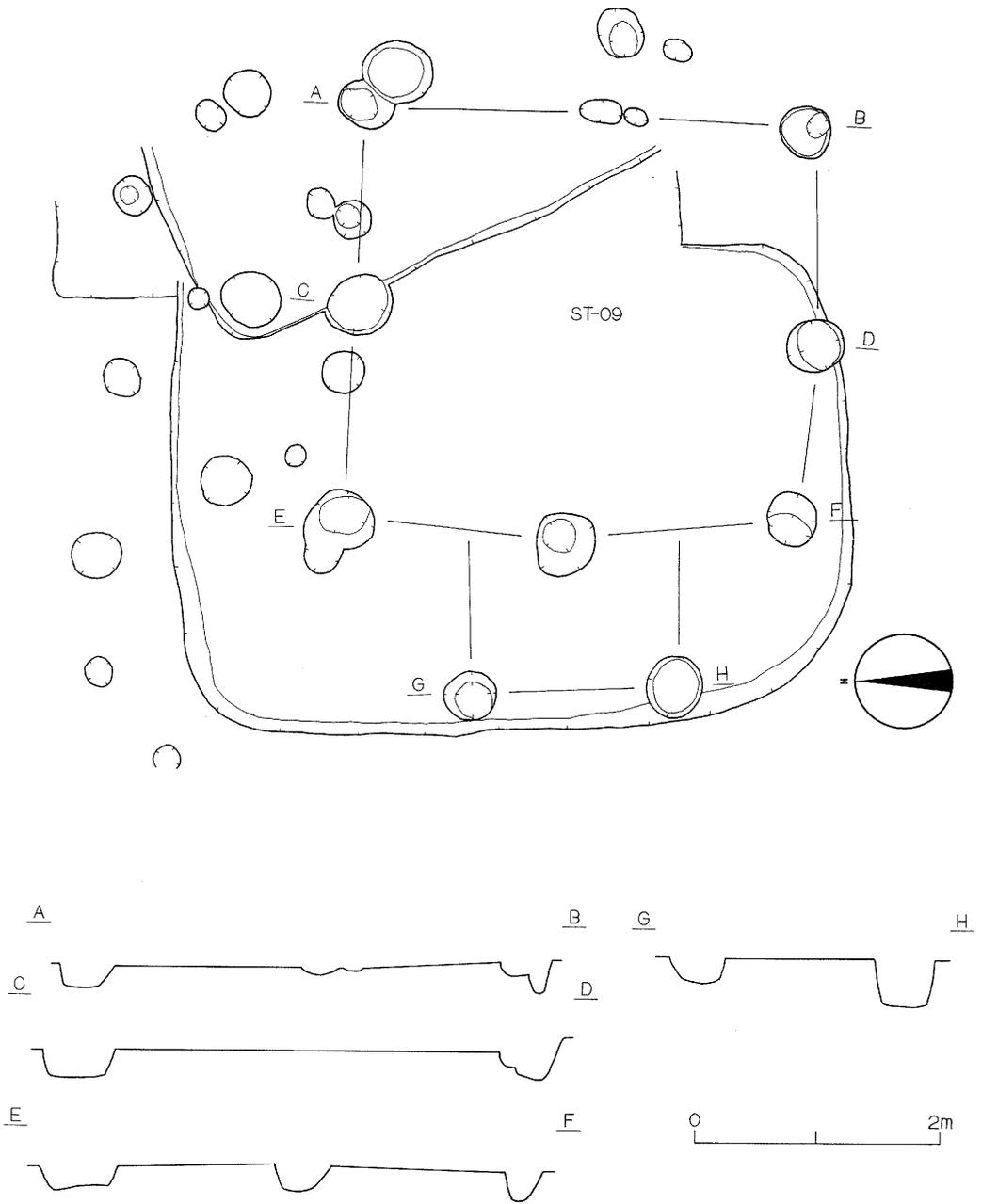
第32图 3号掘立柱建物跡



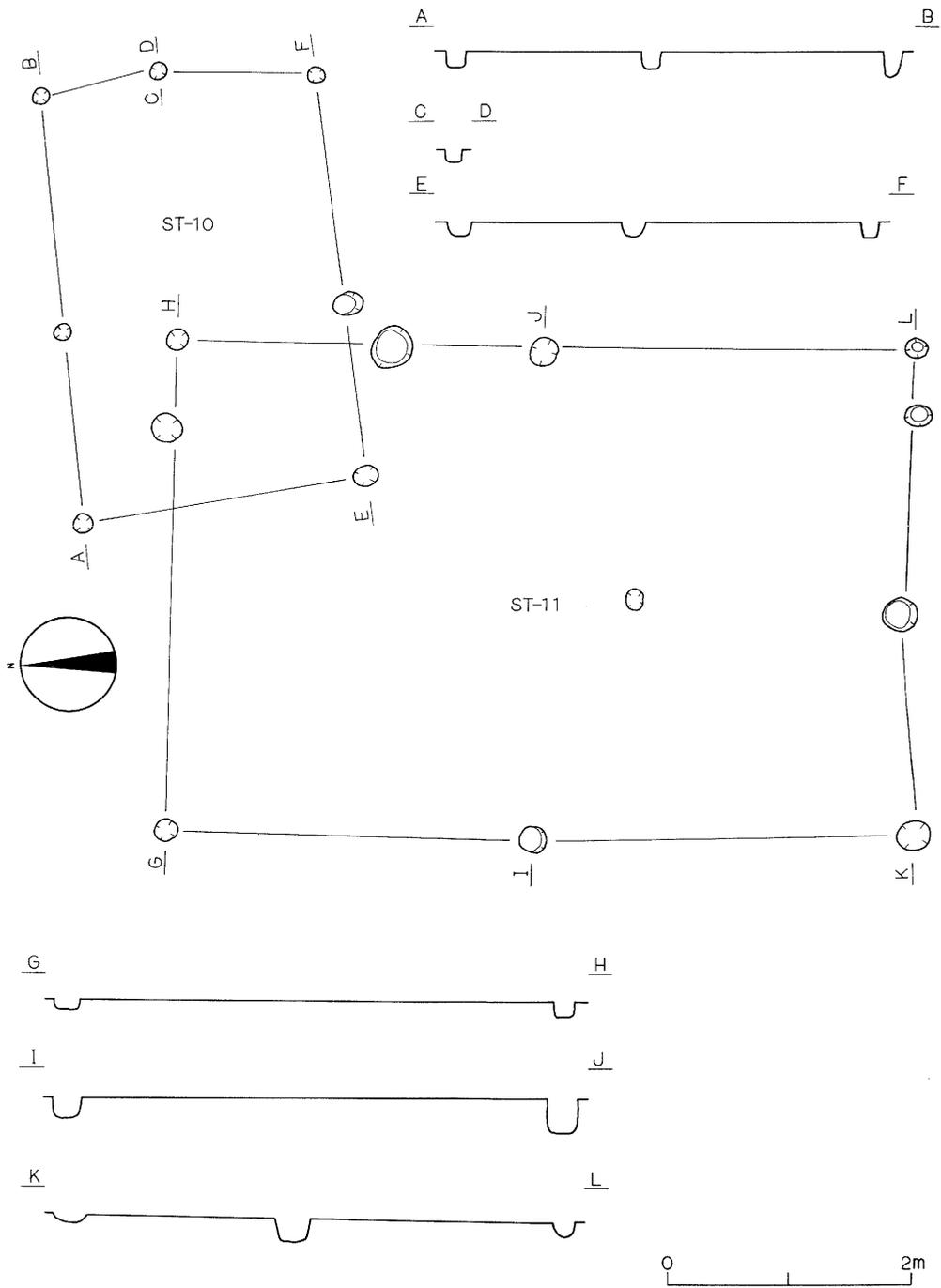
第33图 6号掘立柱建物跡



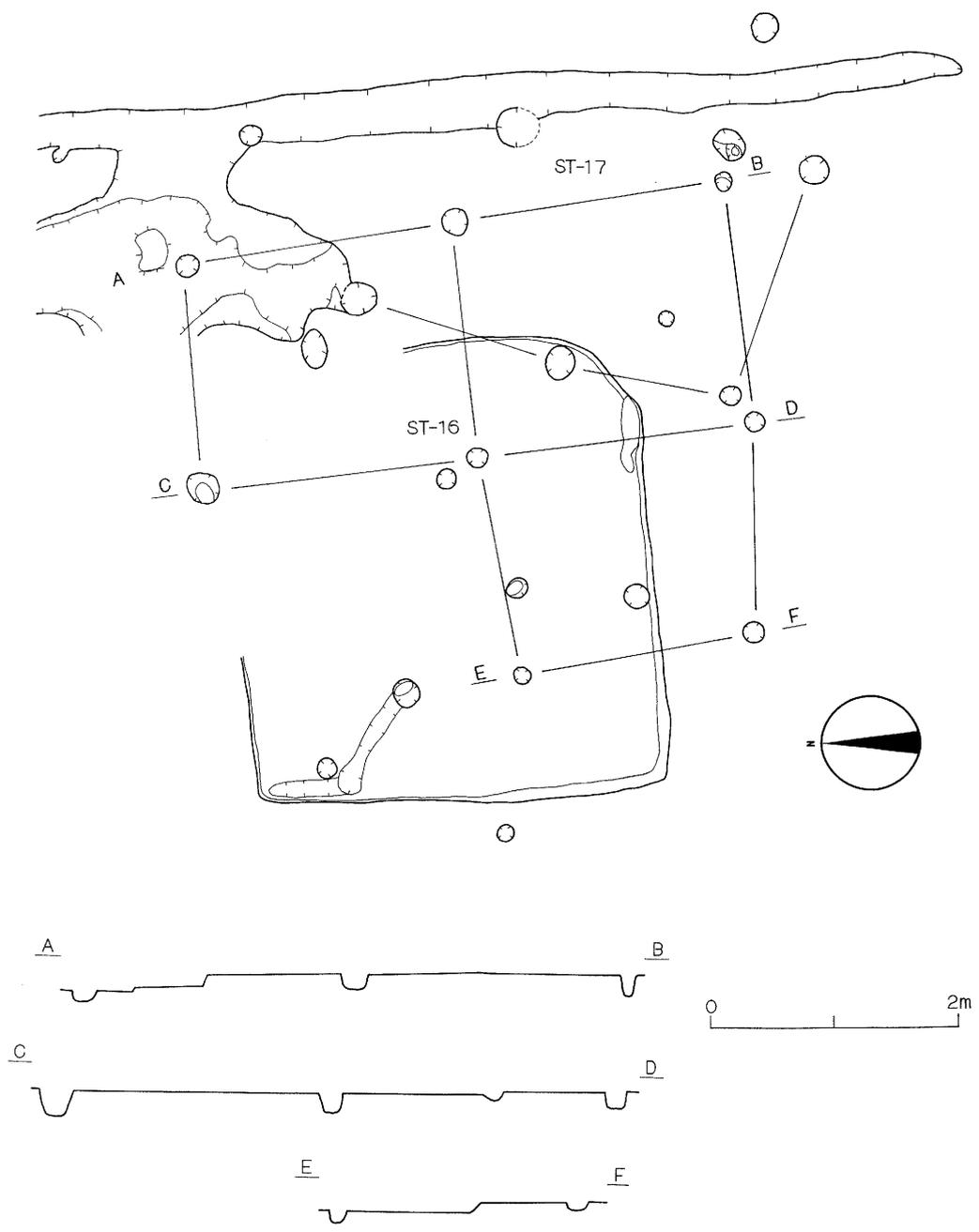
第34图 7·8号掘立柱建物跡



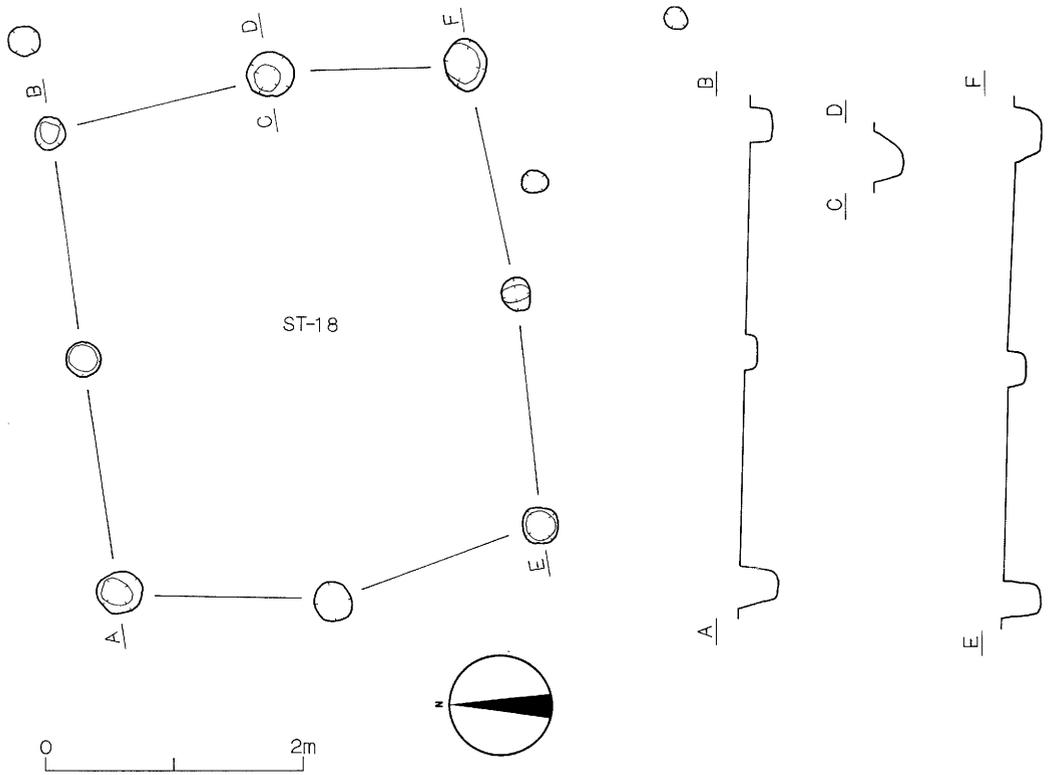
第35图 9号掘立柱建物跡



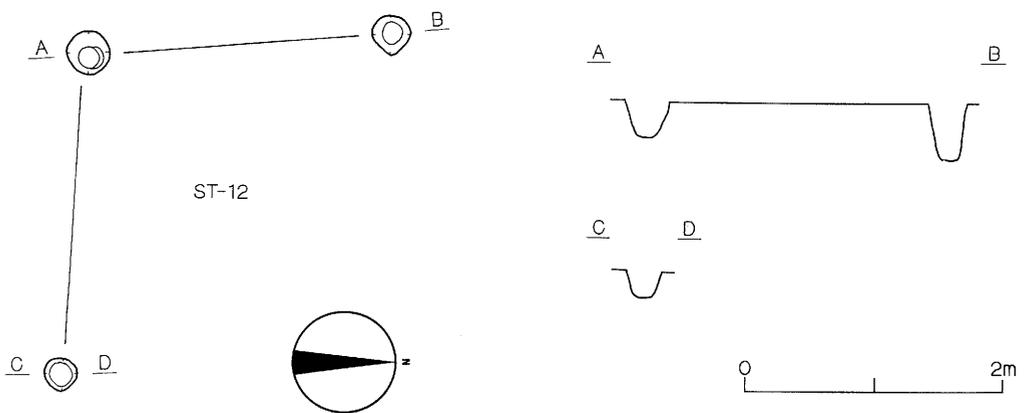
第36图 10·11号掘立柱建物跡



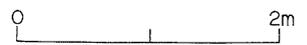
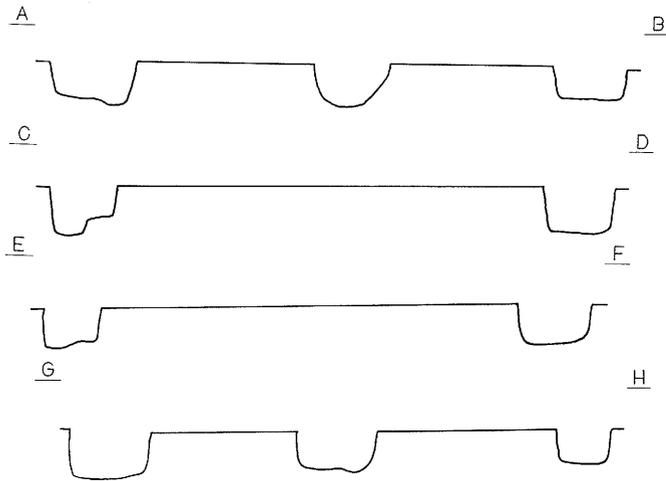
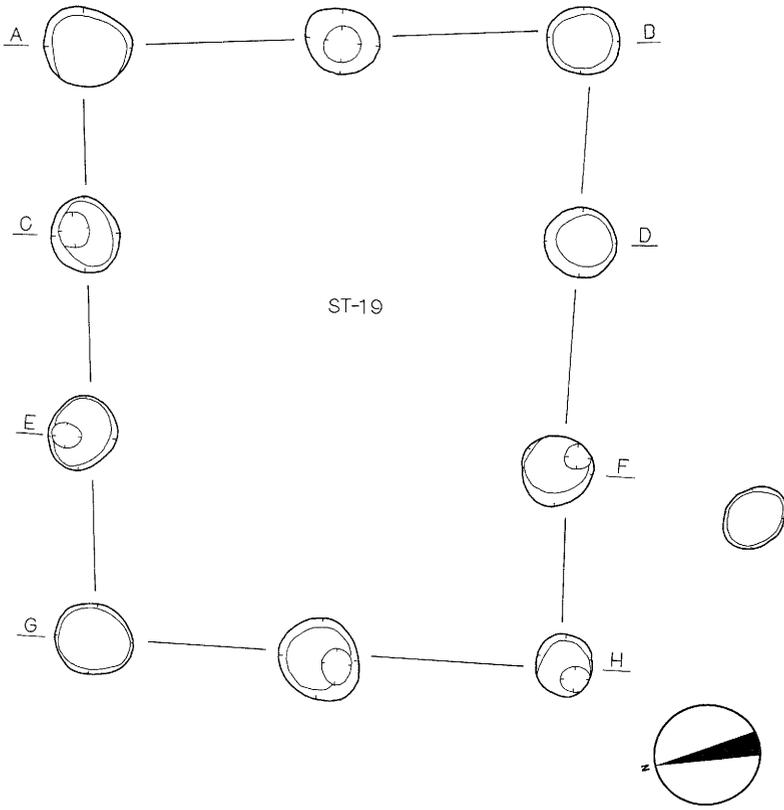
第37图 16号掘立柱建物跡



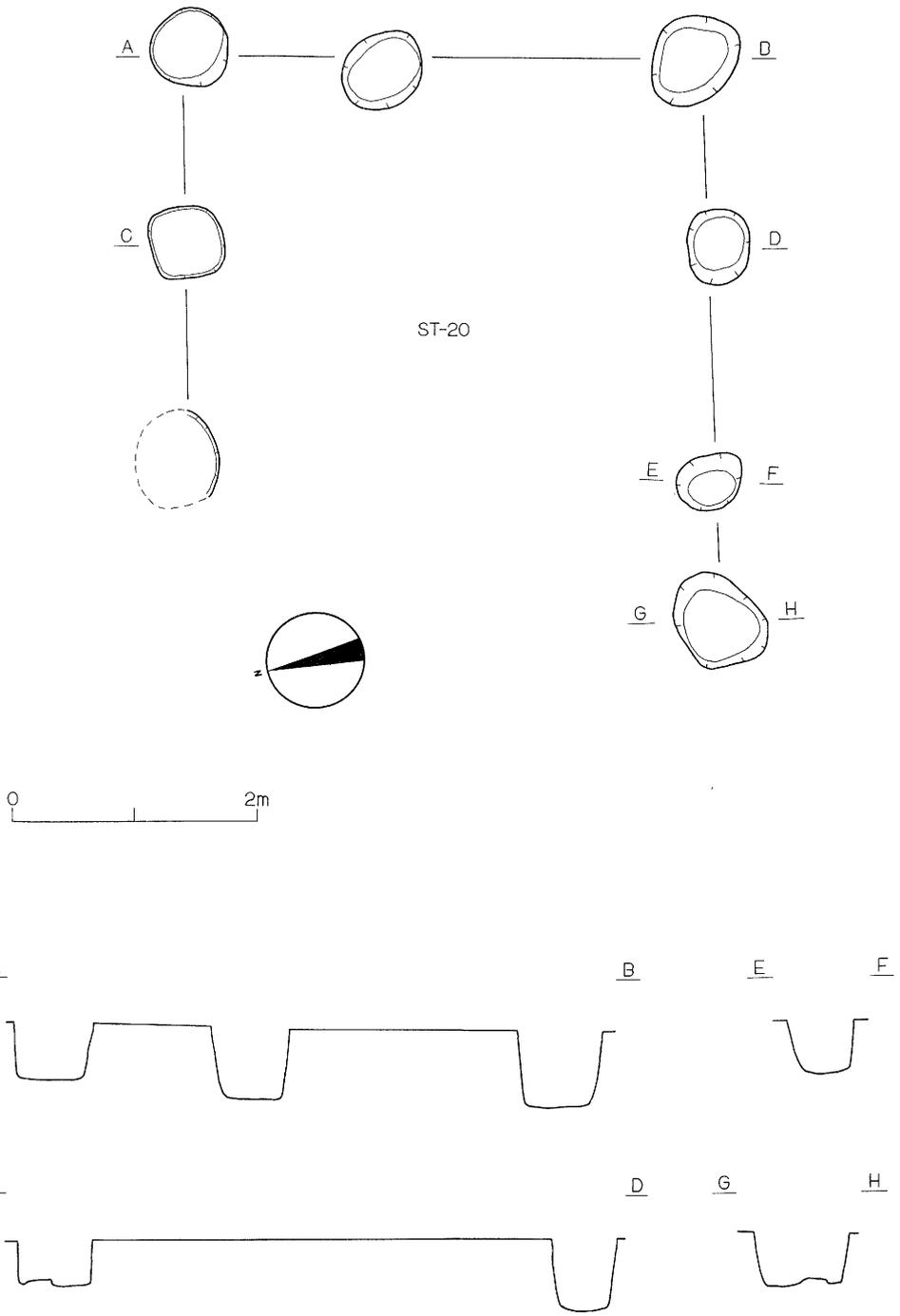
第38图 18号掘立柱建物跡



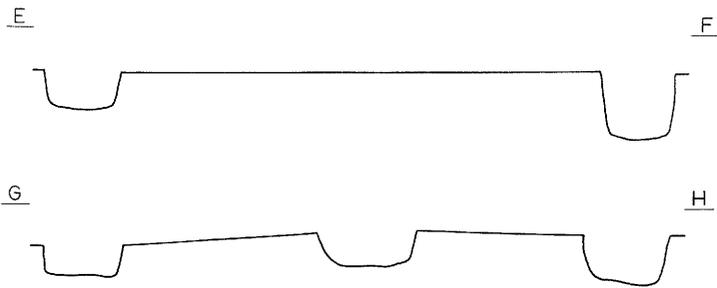
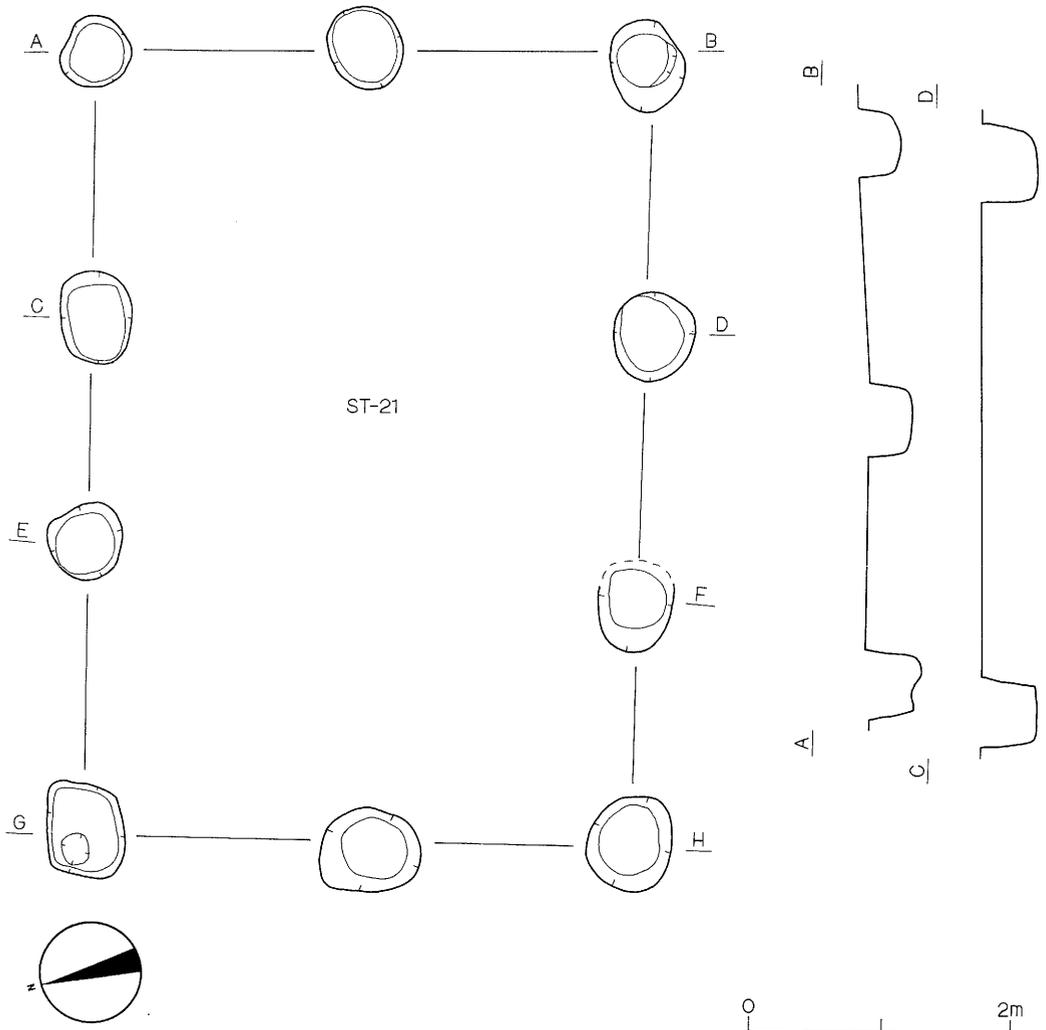
第39图 12号掘立柱建物跡



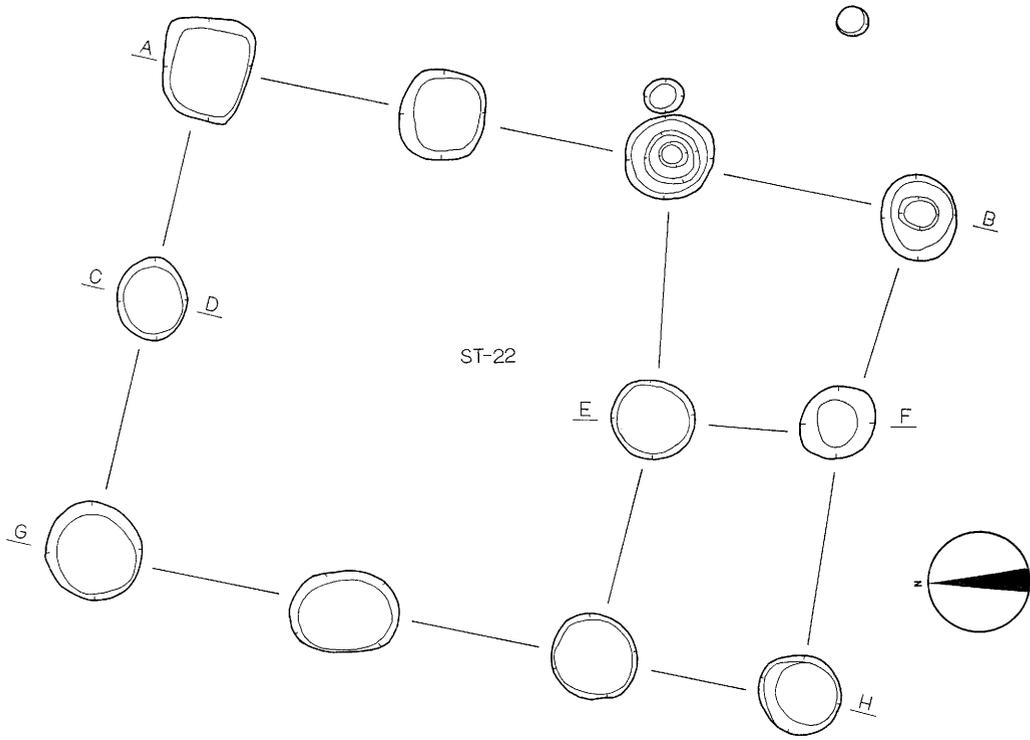
第40图 19号掘立柱建物跡



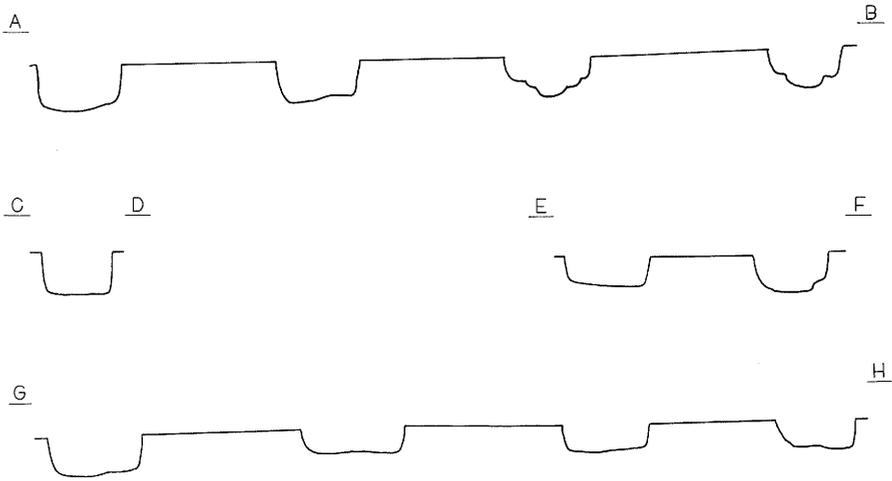
第 4 1 图 20号掘立柱建物跡



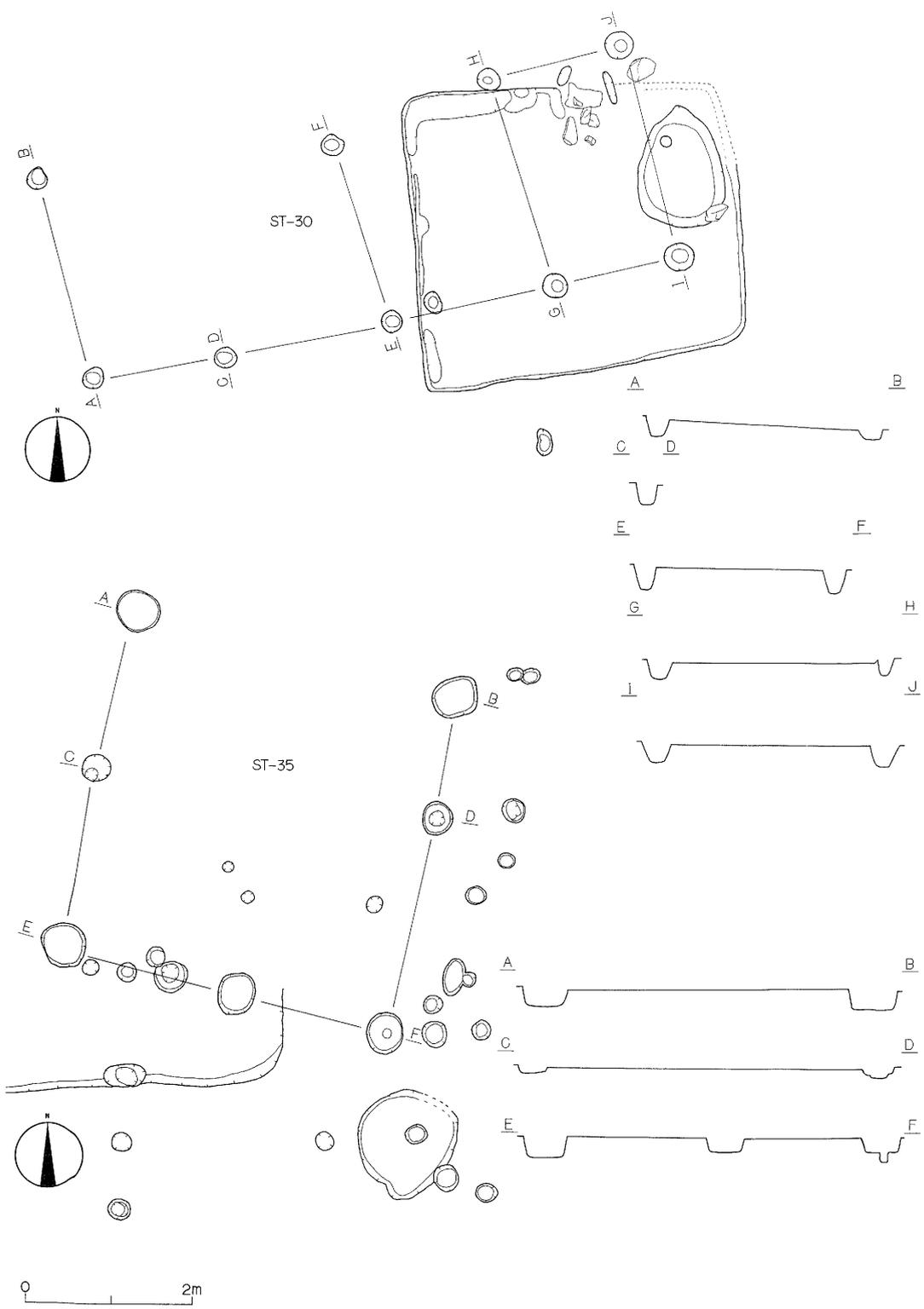
第42图 21号掘立柱建物跡



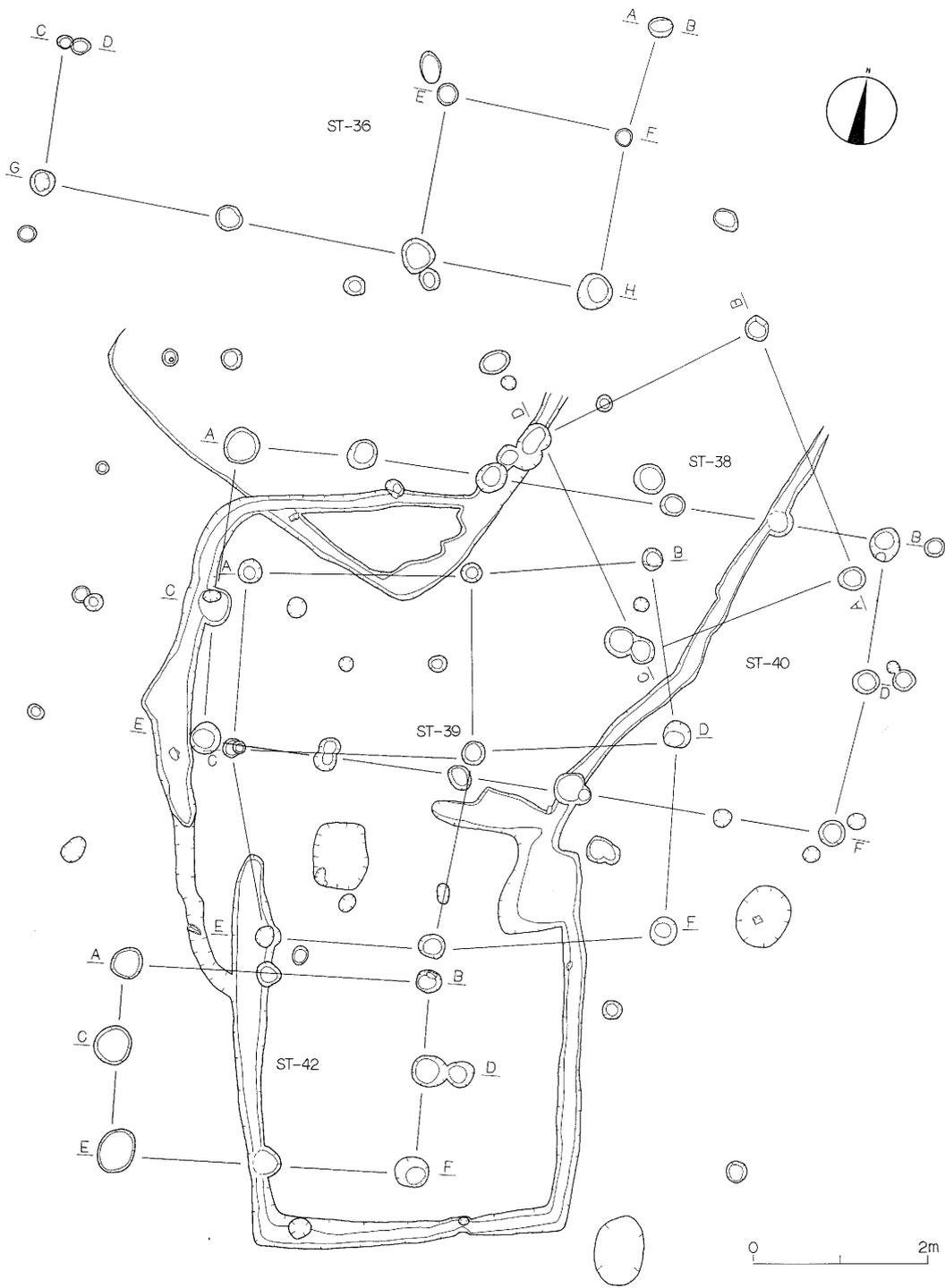
0 2m



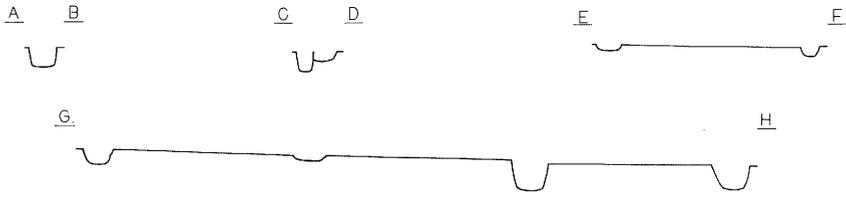
第43图 22号掘立柱建物跡



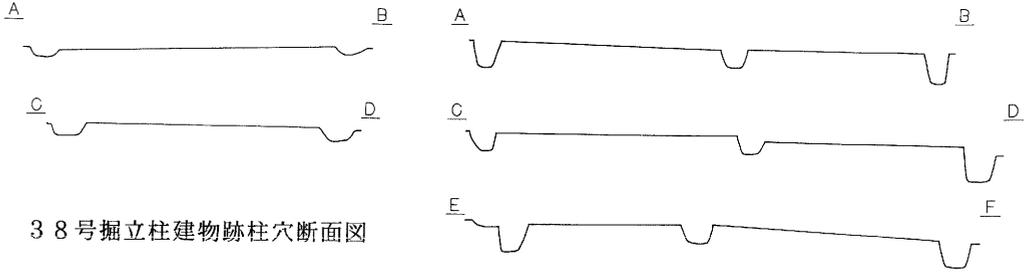
第44图 30・35号掘立柱建物跡



第45图 36·38·39·40·42号掘立柱建物跡

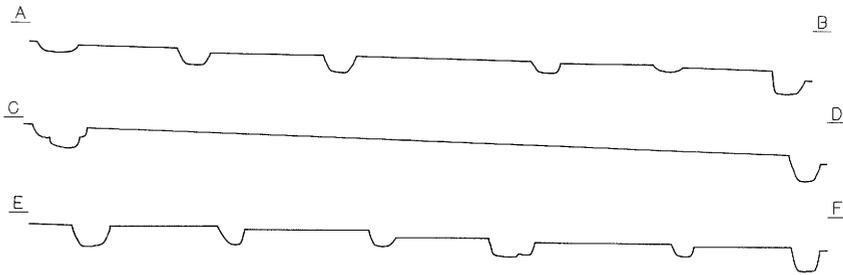


36号掘立柱建筑物迹柱穴断面图

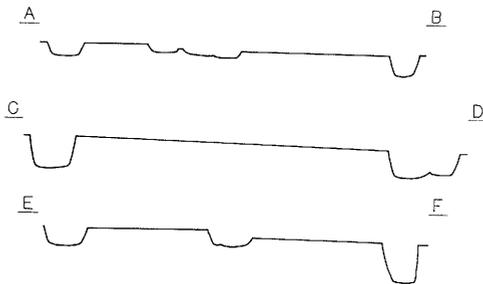


38号掘立柱建筑物迹柱穴断面图

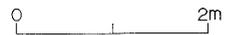
39号掘立柱建筑物迹柱穴断面图



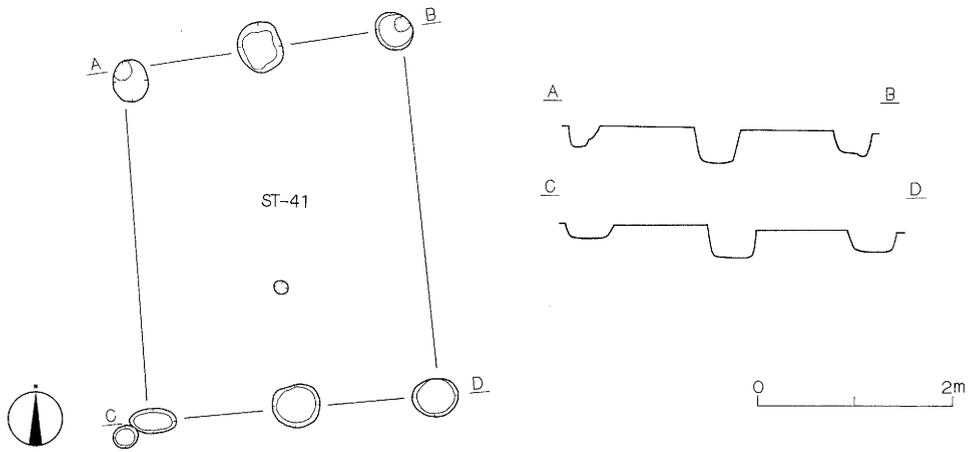
40号掘立柱建筑物迹柱穴断面图



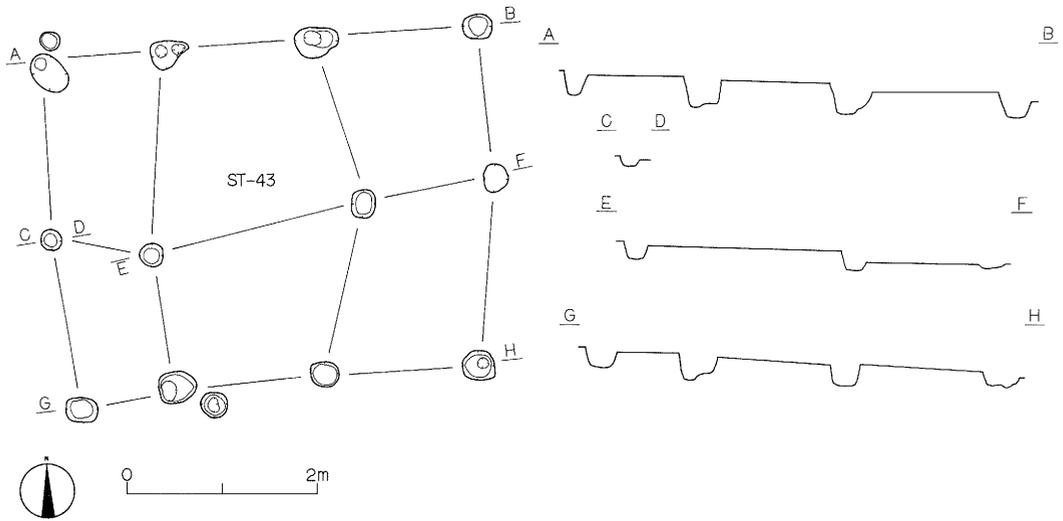
42号掘立柱建筑物迹柱穴断面图



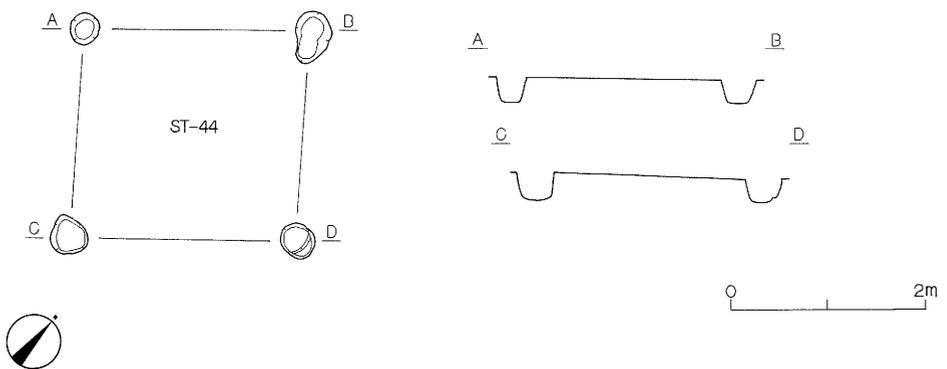
第46图 36·38·39·40·42号掘立柱建筑物迹



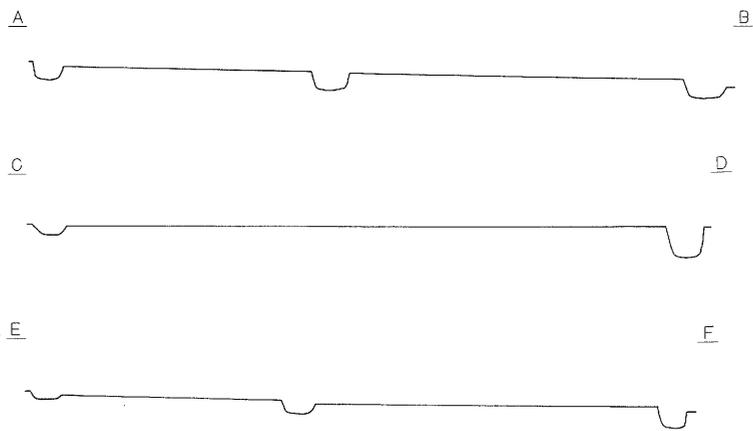
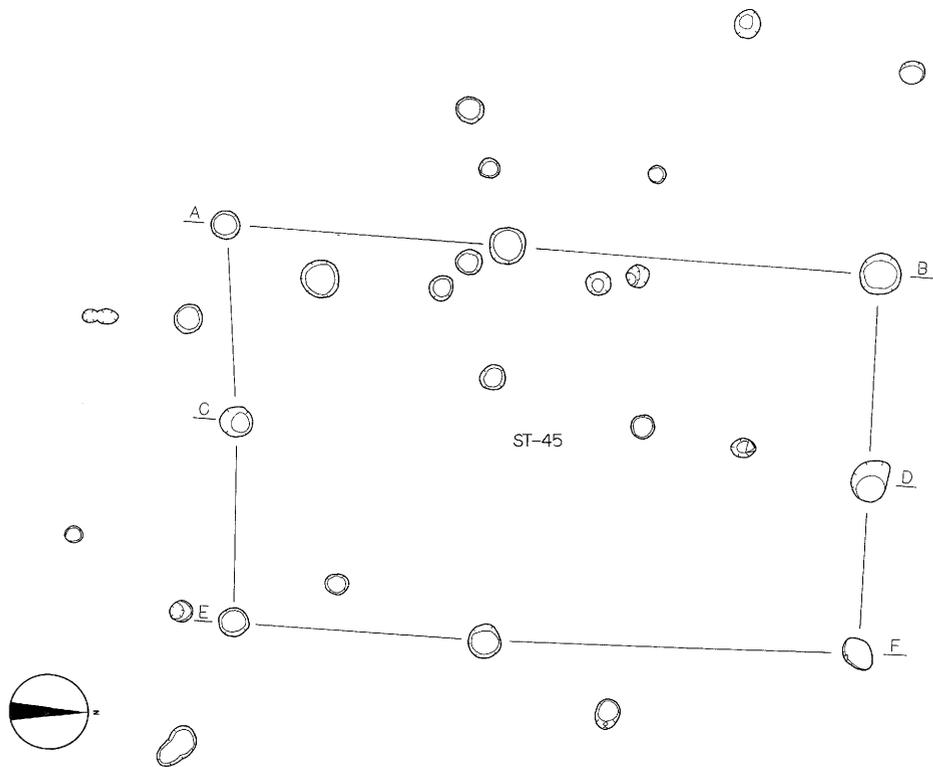
第 4 7 图 4 1 号掘立柱建物跡



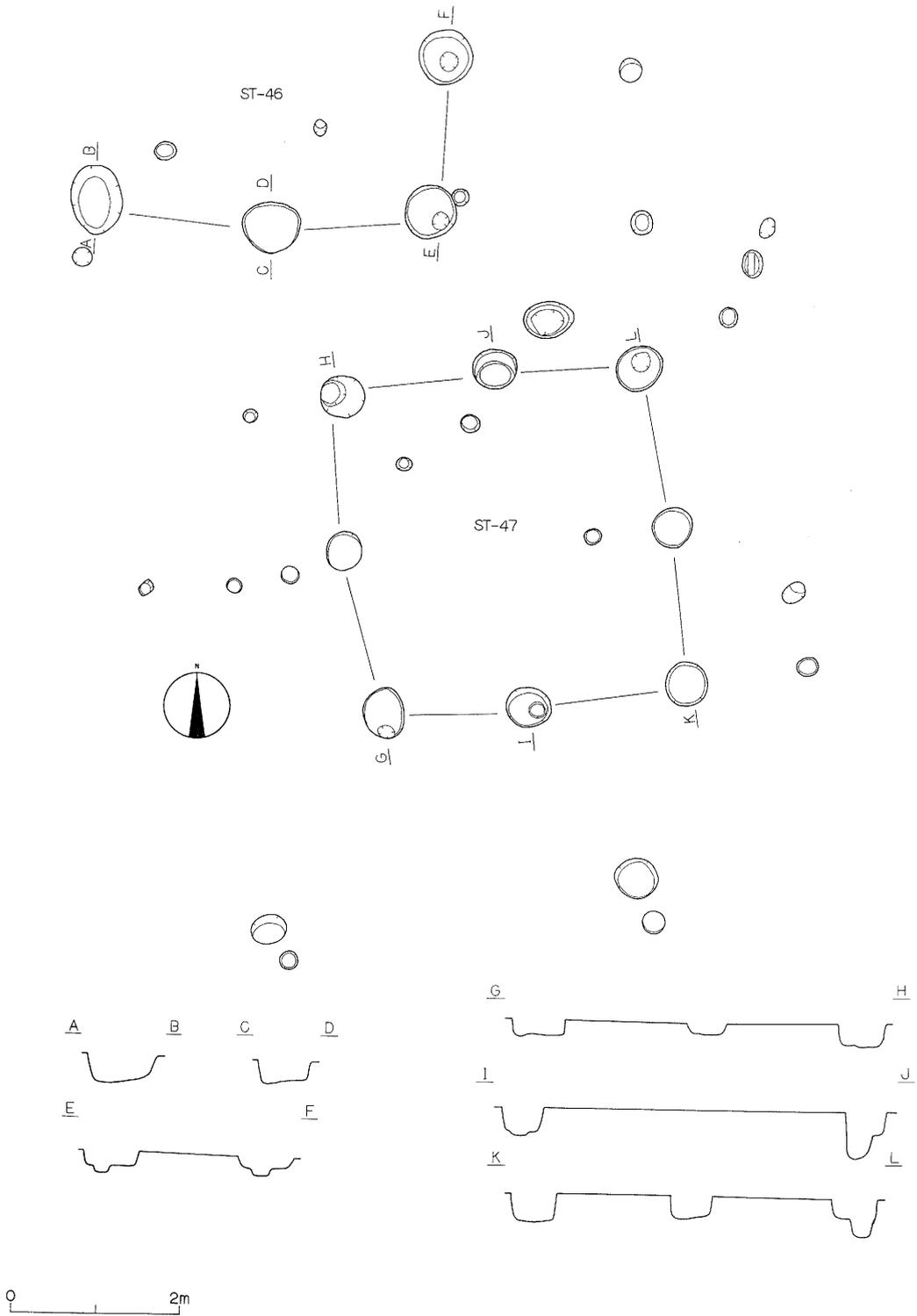
第 4 8 图 4 3 号掘立柱建物跡



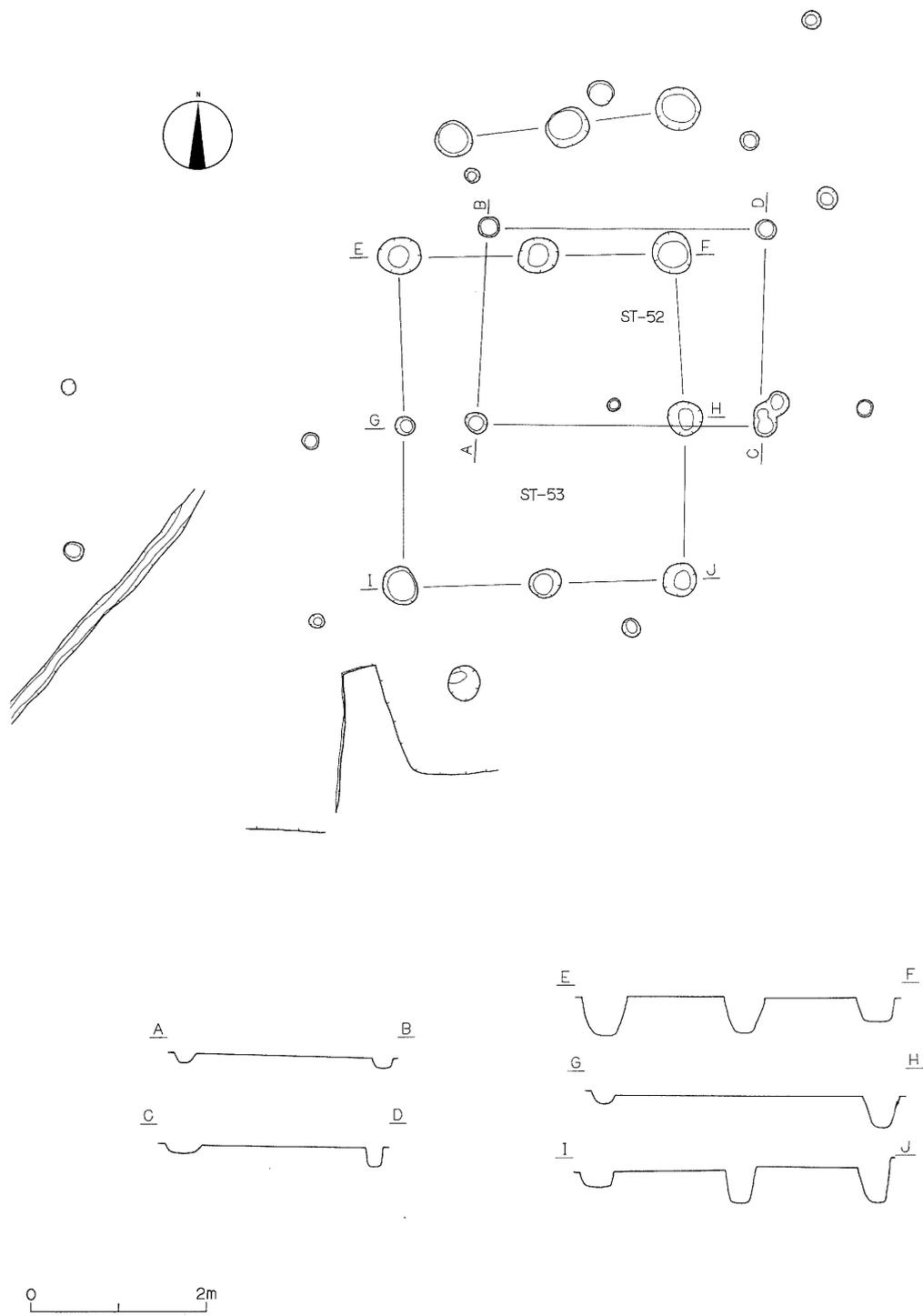
第 4 9 图 4 4 号掘立柱建物跡



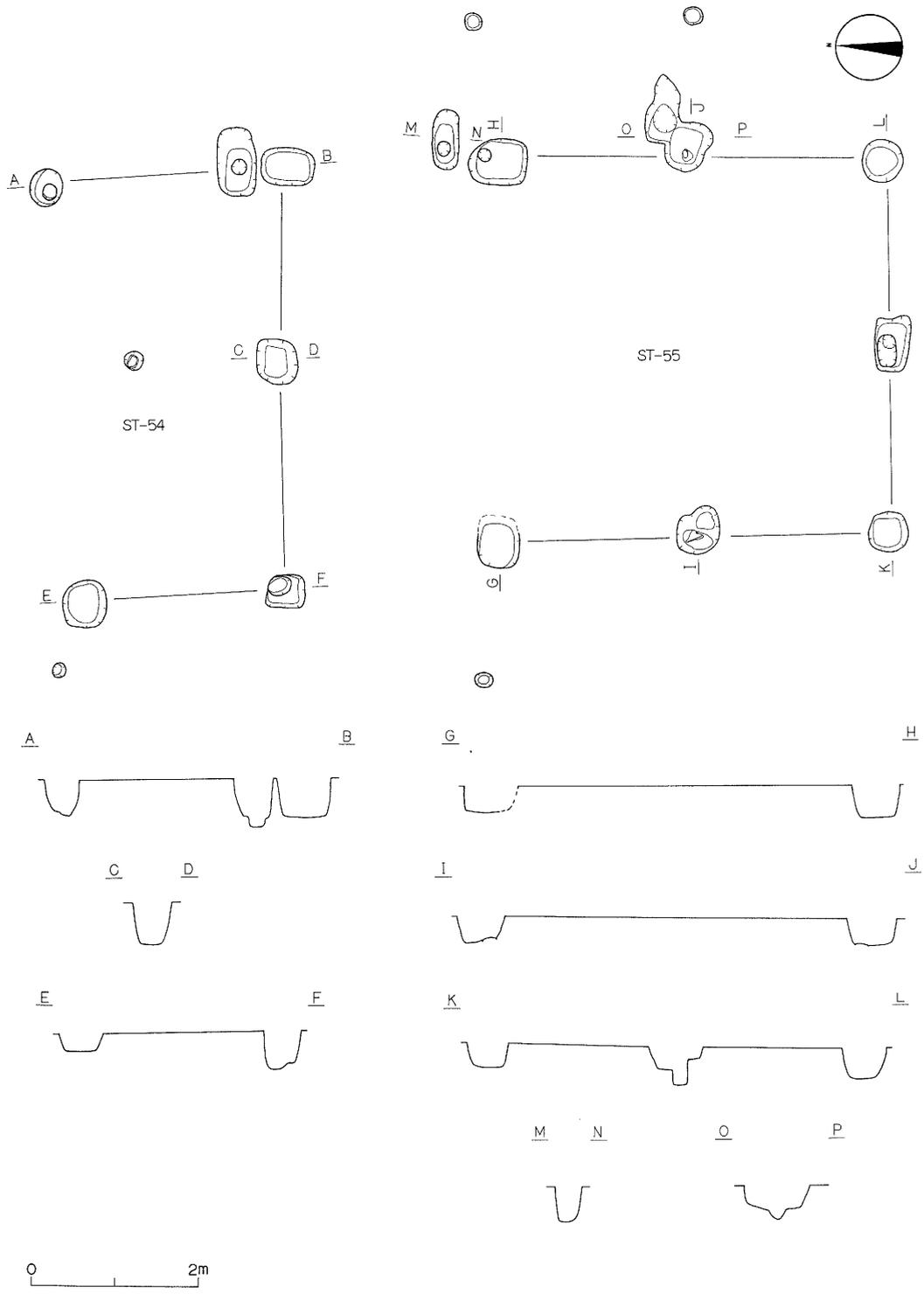
第50图 45号掘立柱建物跡



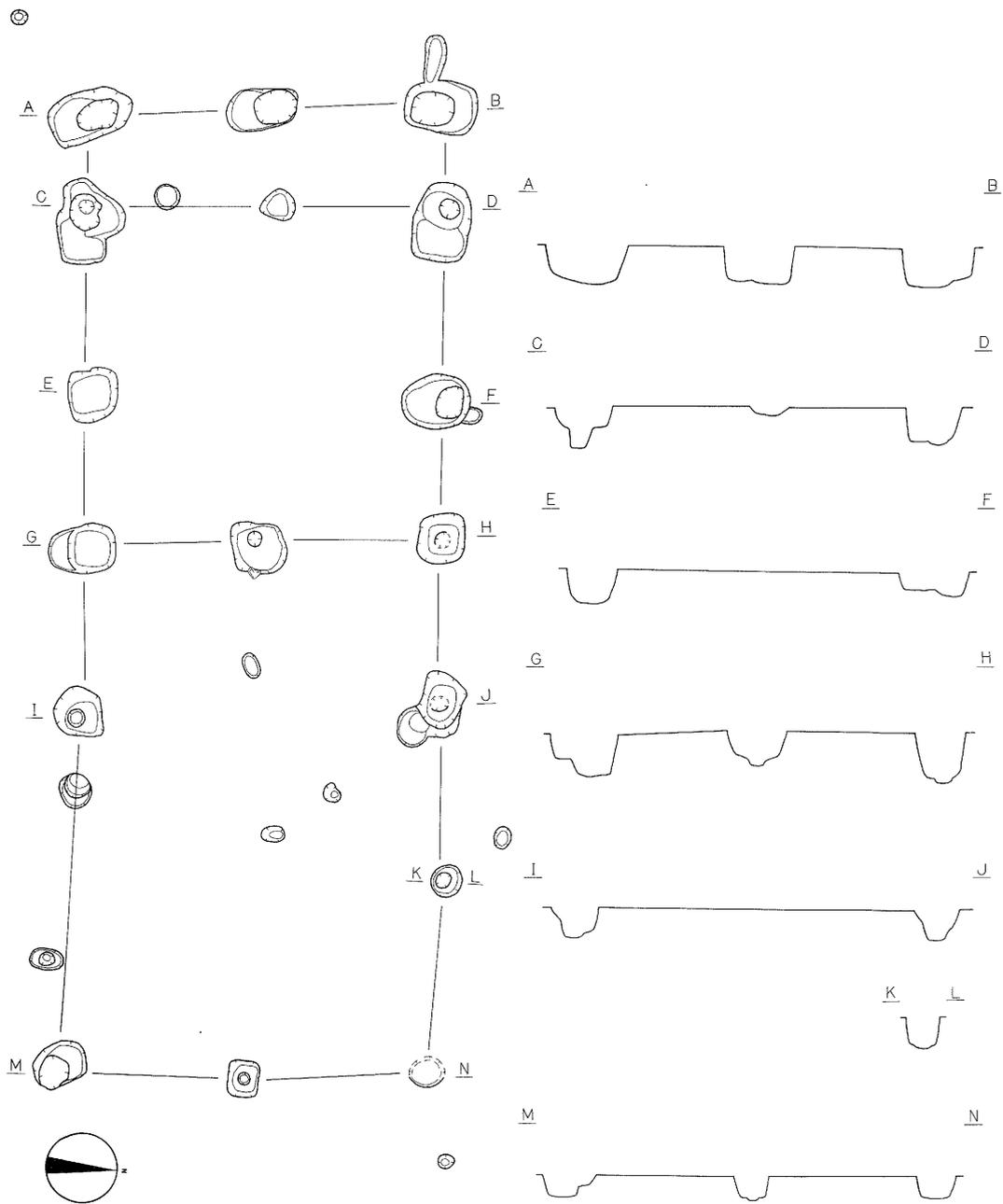
第51图 46・47号掘立柱建物跡



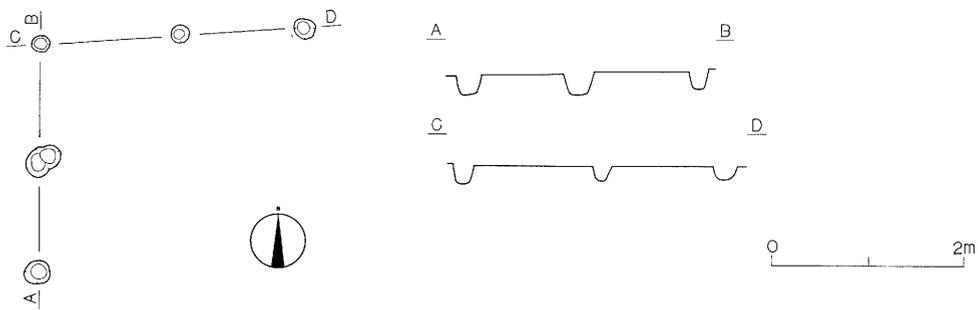
第52图 52·53号掘立柱建物跡



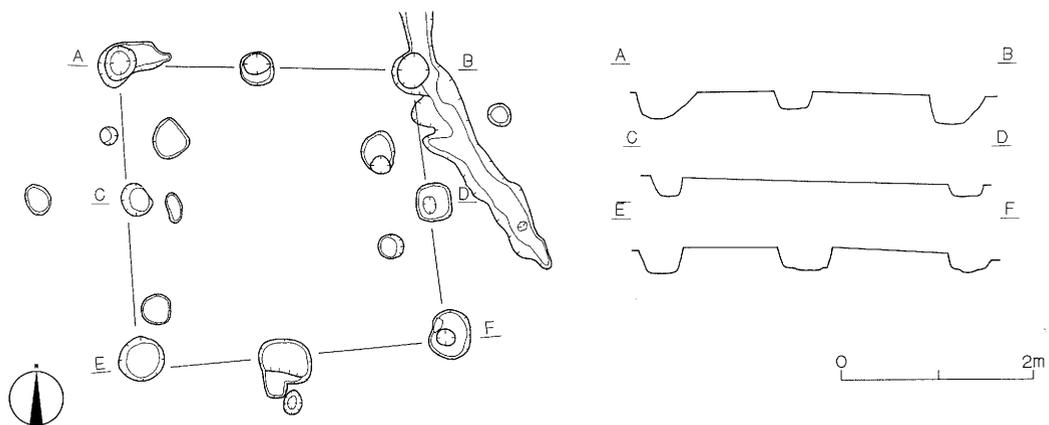
第53图 54·55号掘立柱建筑物迹



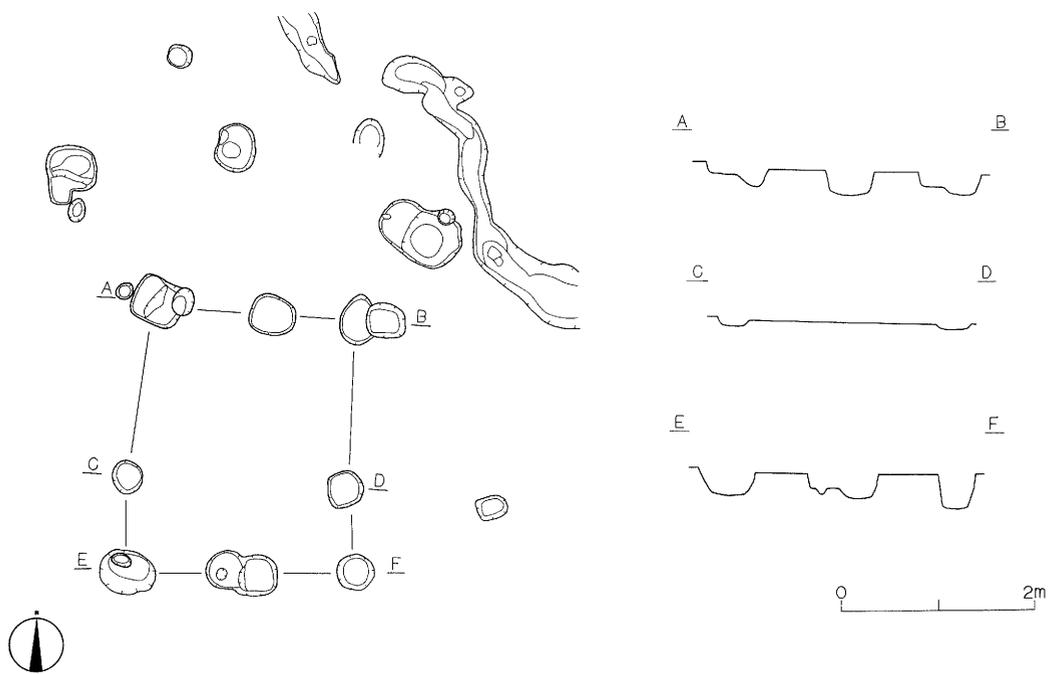
第54图 56号掘立柱建物跡



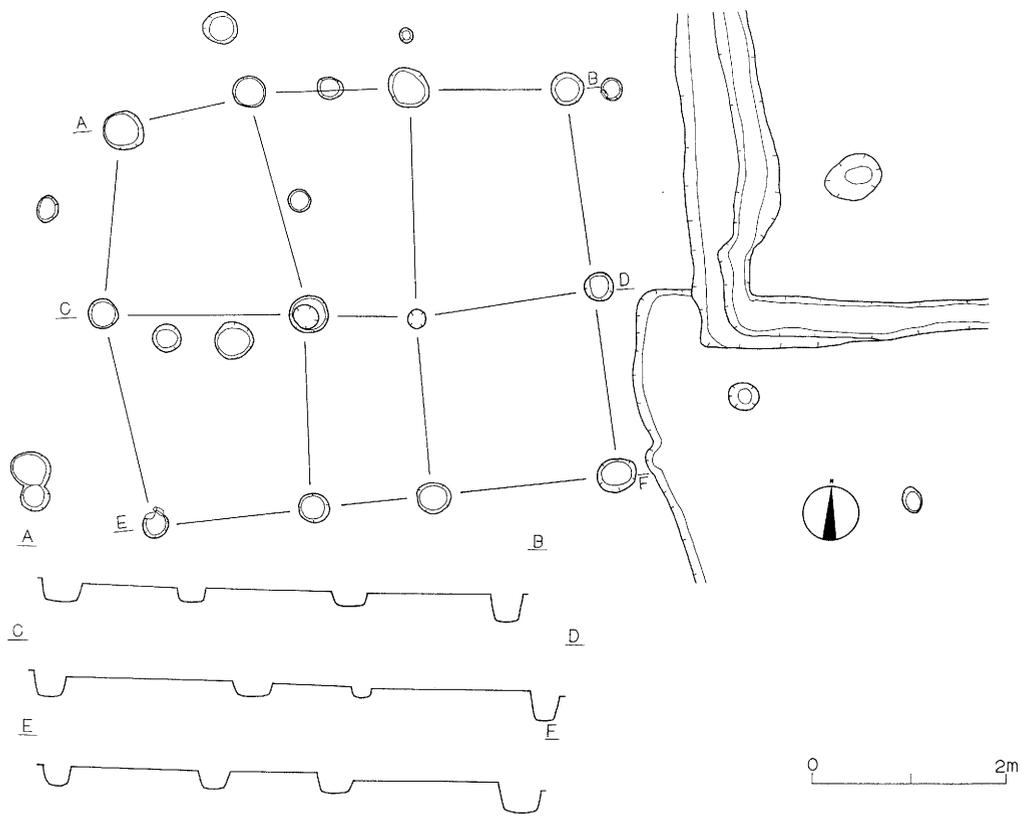
第55图 57号掘立柱建物跡



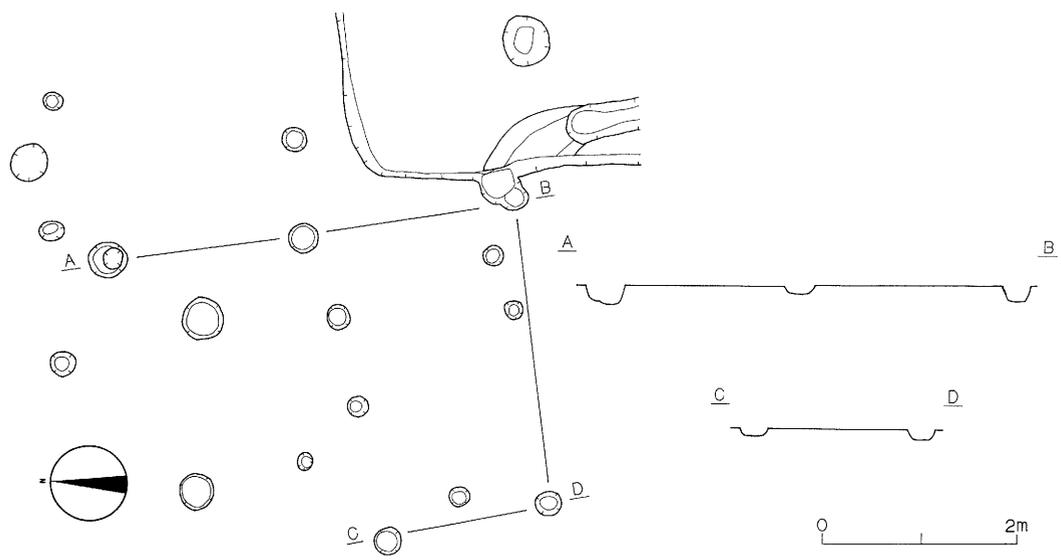
第56图 59号掘立柱建物跡



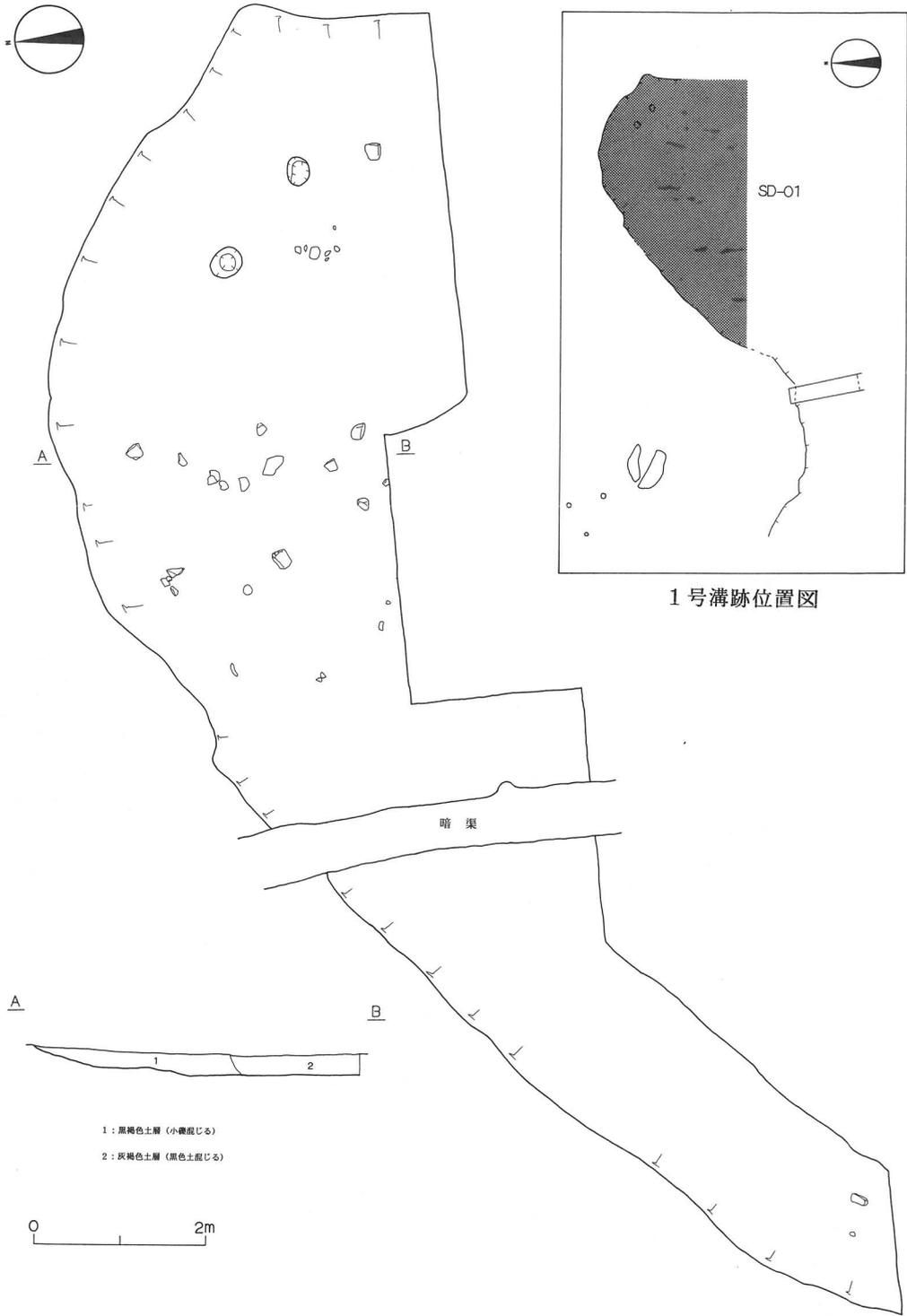
第57图 60号掘立柱建物跡



第58图 61号掘立柱建物跡

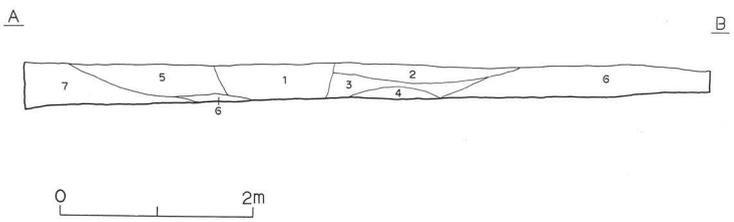
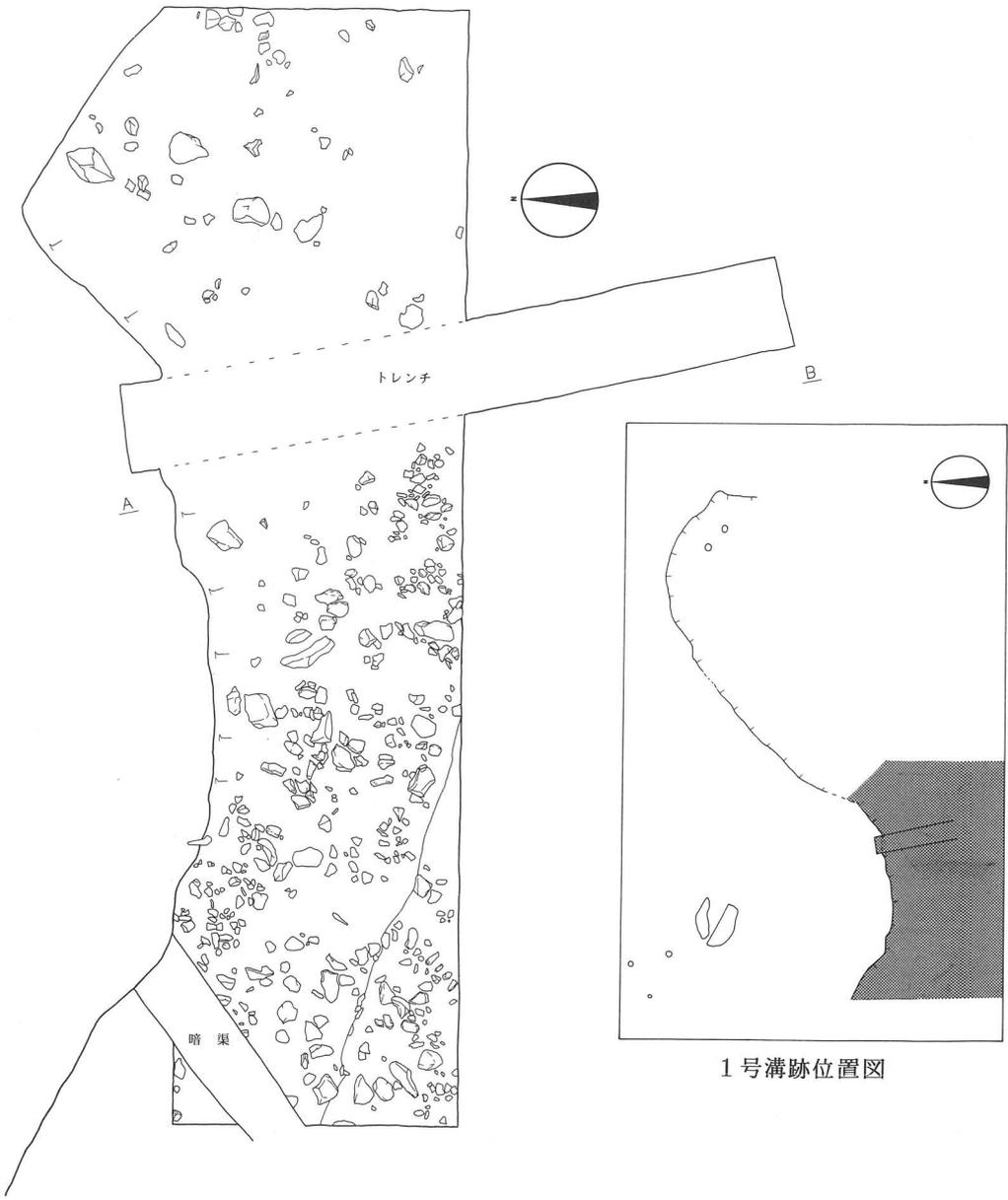


第59图 62号掘立柱建物跡



1号溝跡位置图

第60图 1号溝跡



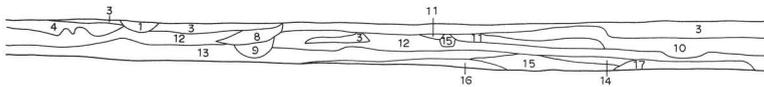
- 1: 灰褐色土層 (粘土質・黒色土混じる)
- 2: 灰黒褐色土層
- 3: 黒褐色土層 (赤褐色土混じる)
- 4: 赤褐色土層
- 5: 黒褐色土層 (小礫・土器破じる)
- 6: 黒褐色土層 (地山の赤褐色土が混じる)
- 7: 地山 (小礫混じりの赤褐色土)

第61図 1号溝跡



4号溝跡位置図

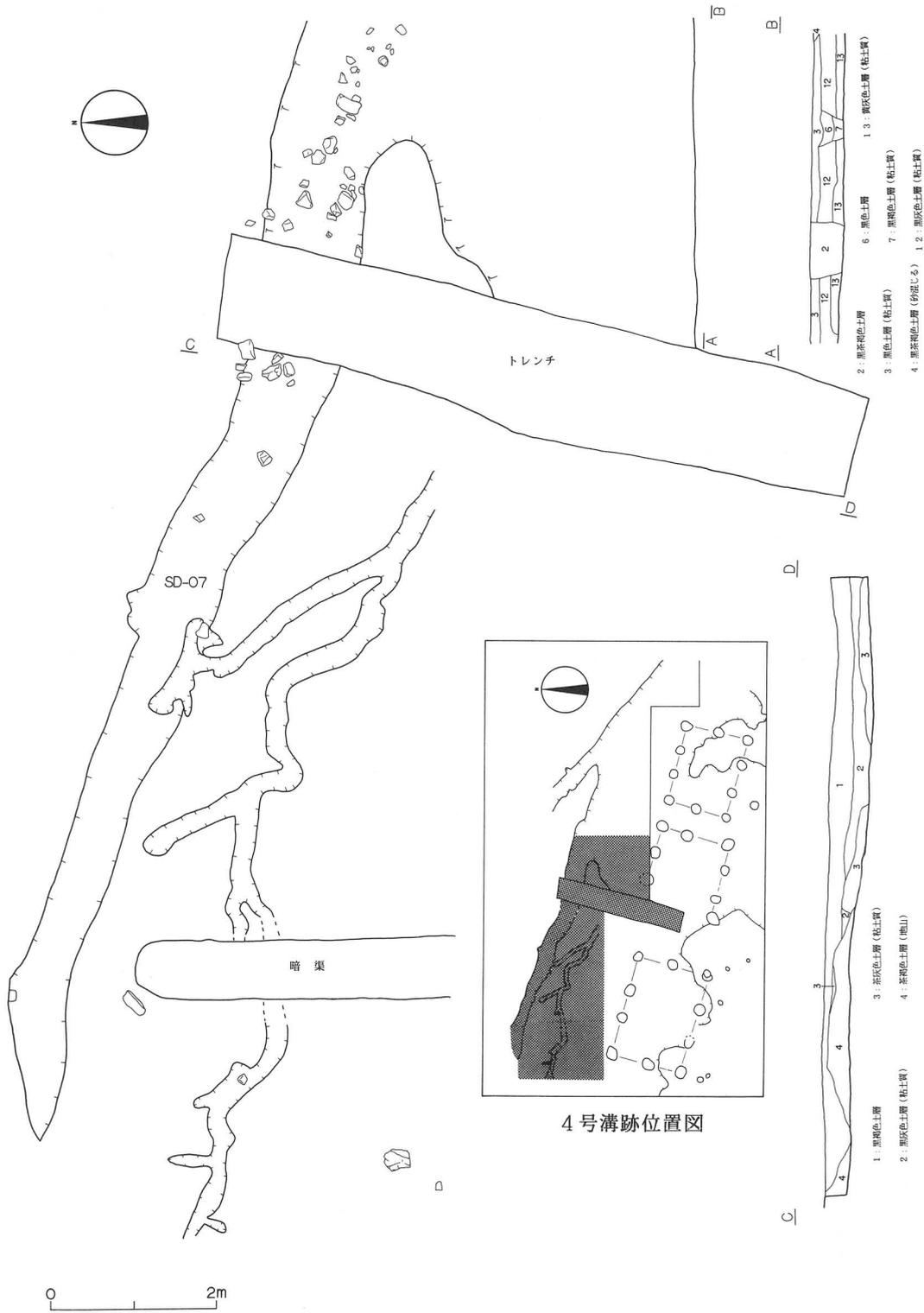
A



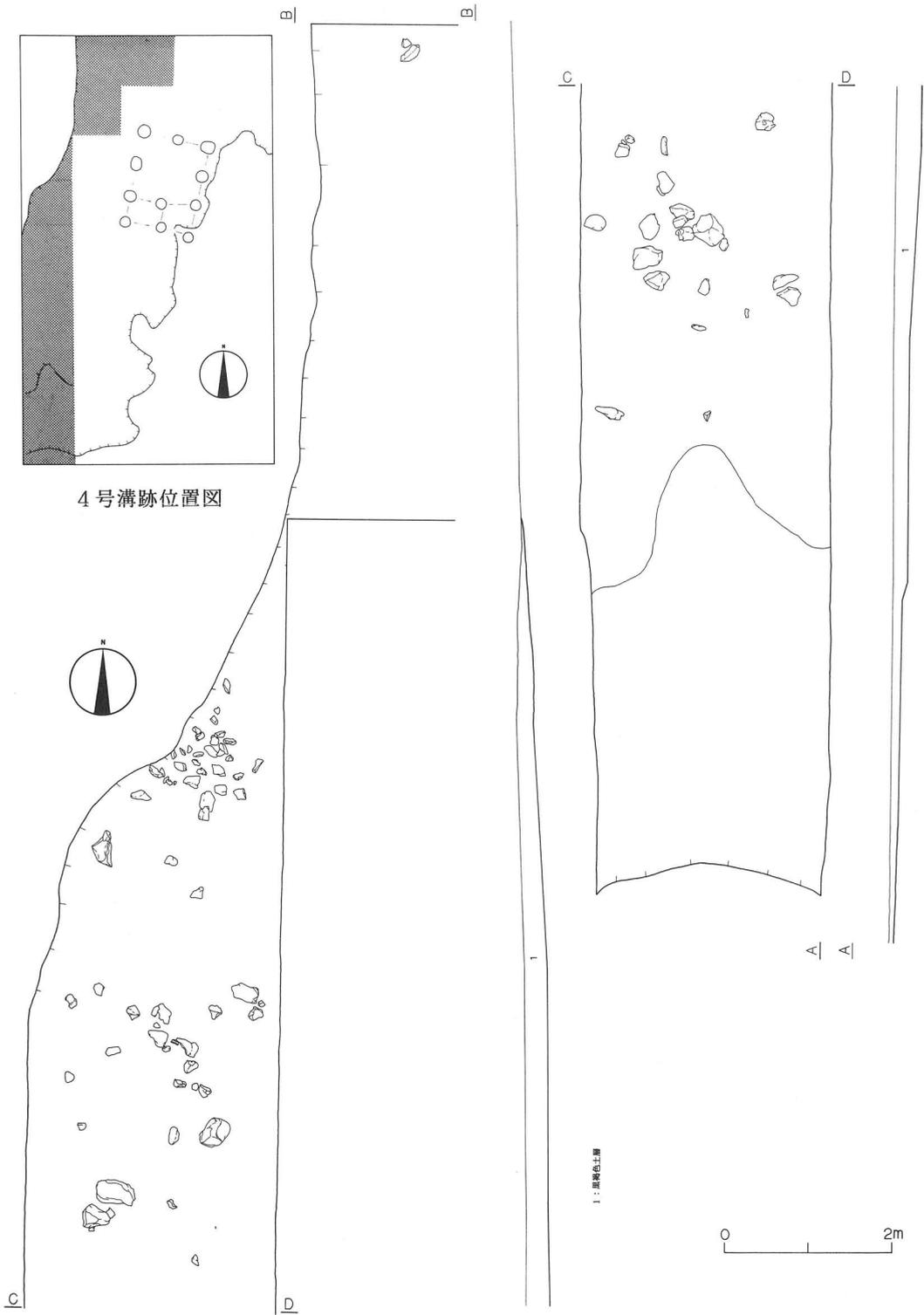
B

- | | | | |
|------------------|------------------------|----------------------------|-----------------|
| 1: 暗黒 (黒色土・粘土質) | 6: 黒色土層 | 11: 灰白色土層 (黄色土・炭化物混じる・粘土質) | 15: 黒灰色土層 (粘土質) |
| 2: 黒茶褐色土層 | 7: 黒褐色土層 (粘土質) | 12: 黒灰色土層 (粘土質) | 16: 灰色土層 (粘土質) |
| 3: 黒色土層 (粘土質) | 8: 黒褐色土層 (黄褐色土混じる・粘土質) | 13: 黄灰色土層 (粘土質) | 17: 茶褐色土層 (粘土質) |
| 4: 黒茶褐色土層 (砂混じる) | 9: 黒褐色土層 (強い黒色土・粘土質) | 14: 黒灰色土層 (黄色土混じる・粘土質) | |
| 5: 黒灰色土層 (砂混じる) | 10: 茶褐色土層 (粘土質) | | |

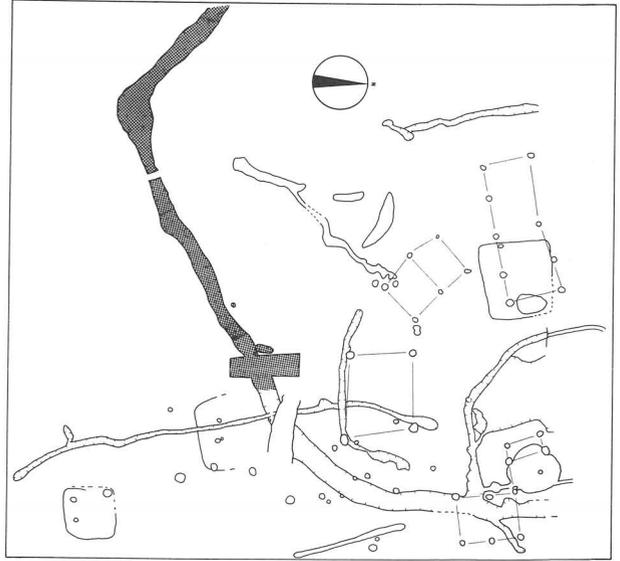
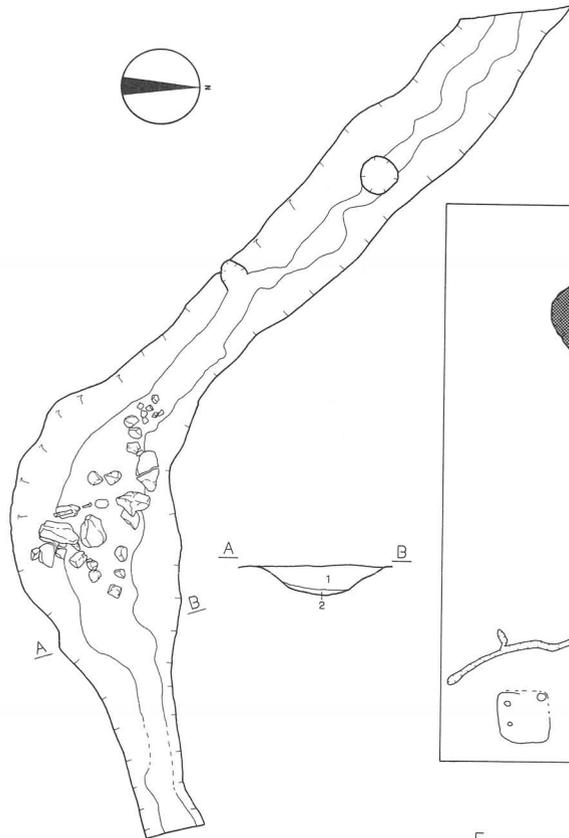
第62図 4号溝跡



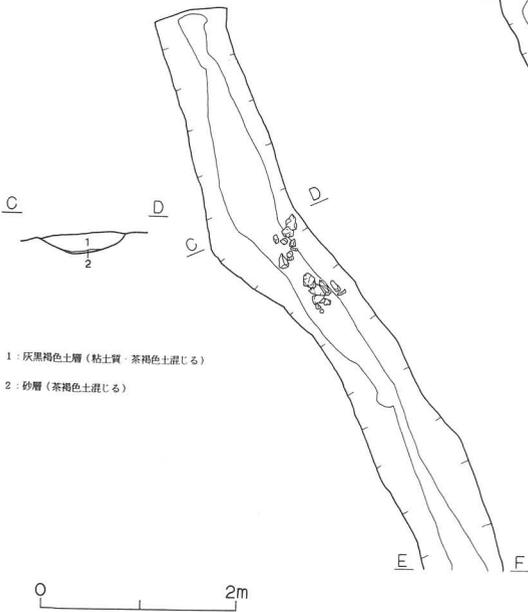
第63図 4号溝跡



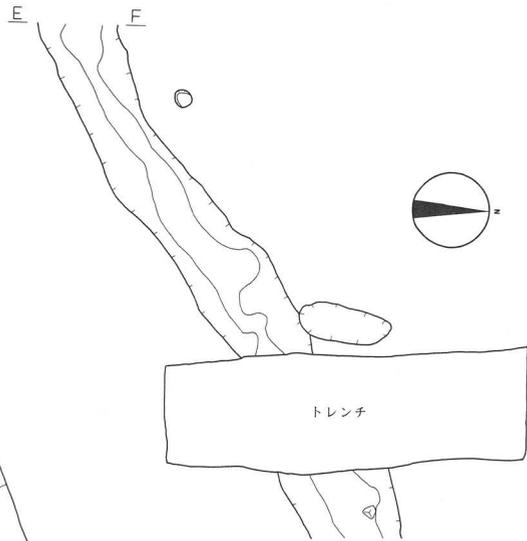
第64图 4号沟迹



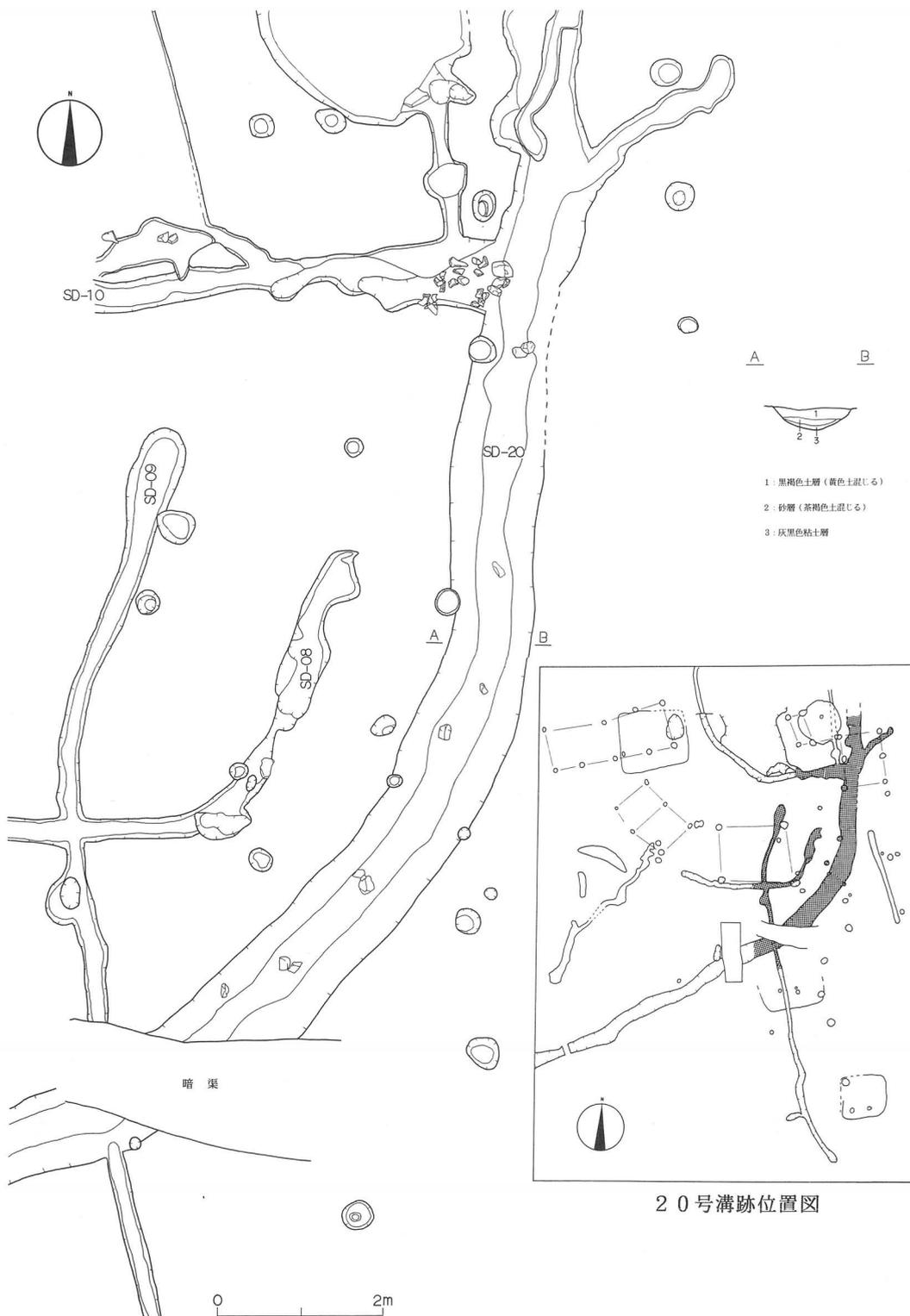
20号溝跡位置図



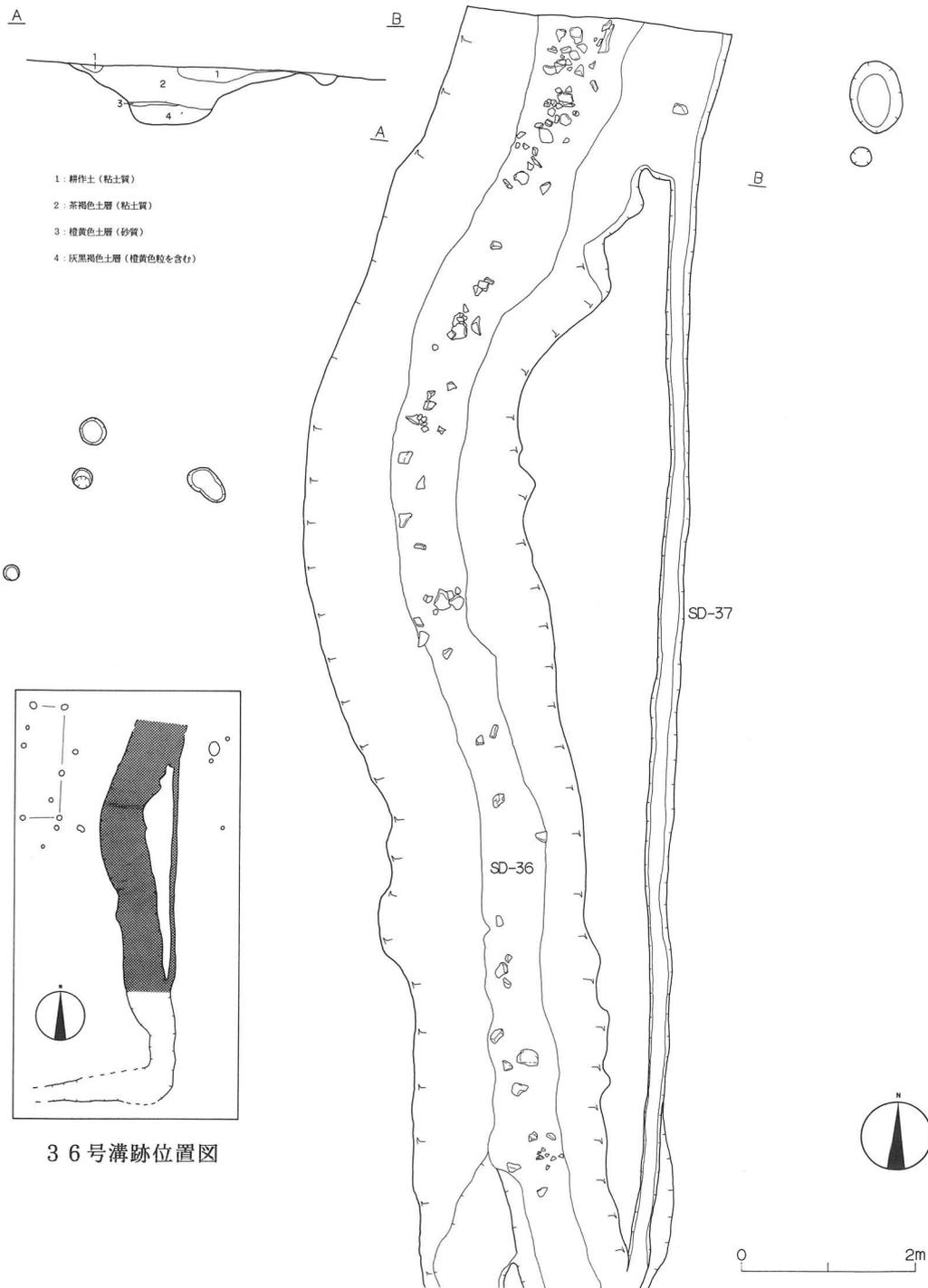
- 1: 灰黒褐色土層 (粘土質・茶褐色土混じる)
- 2: 砂層 (茶褐色土混じる)



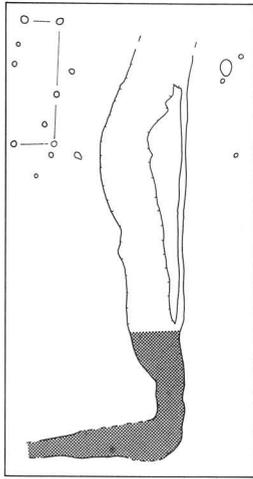
第65図 20号溝跡



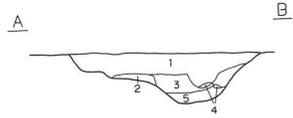
第66図 20号溝跡



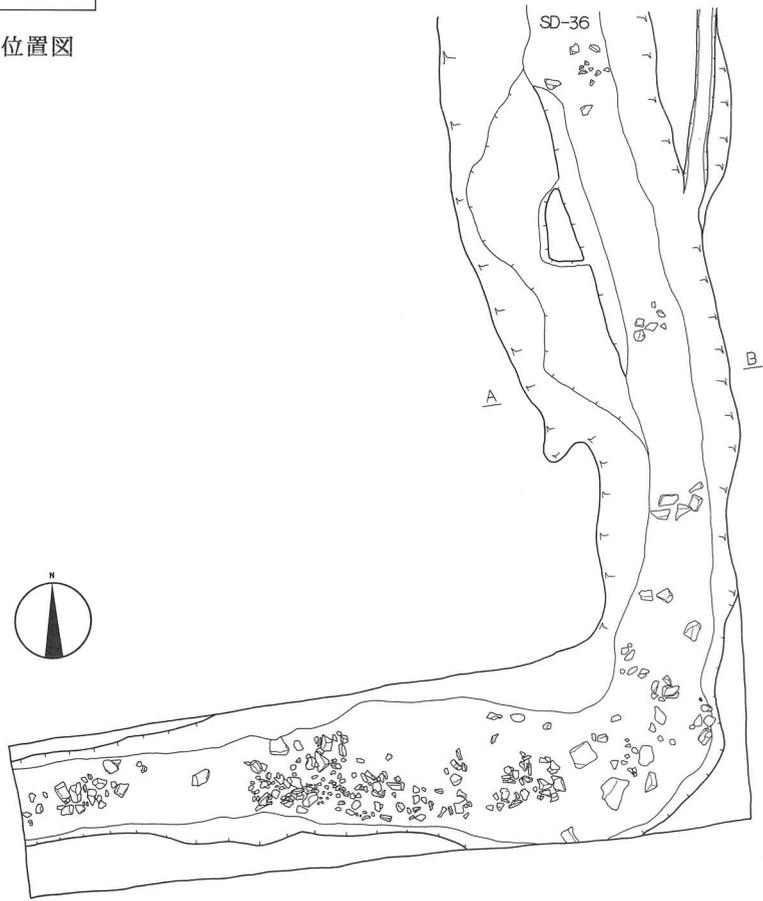
第67图 36号溝跡



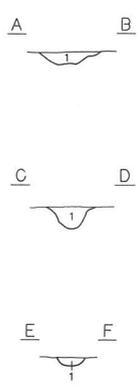
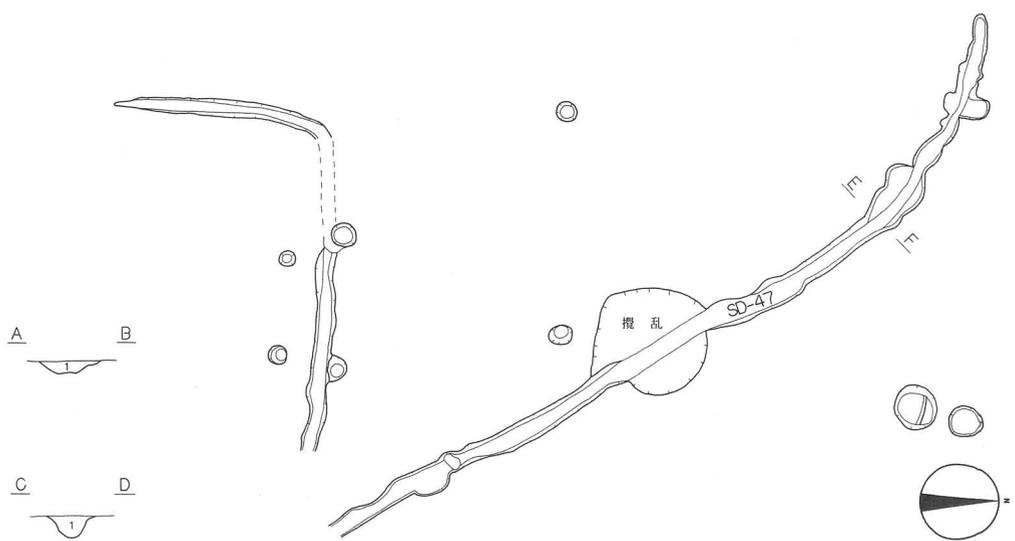
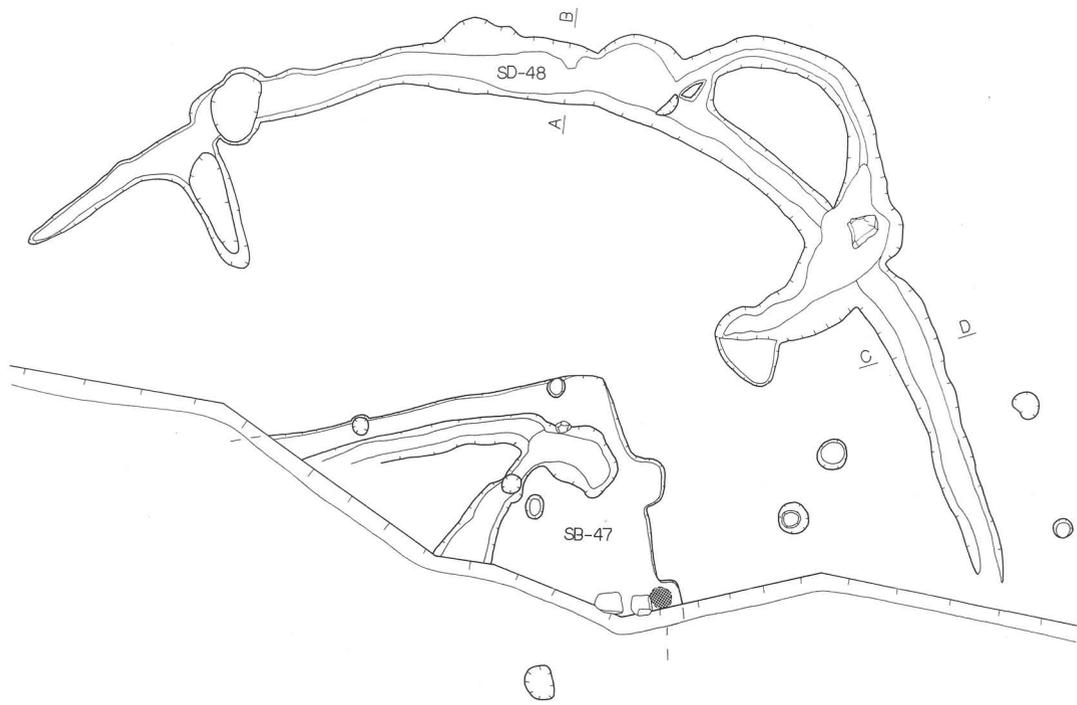
36号沟迹位置图



- 1: 茶褐色土層
- 2: 灰色土層 (粘土質)
- 3: 灰色土層 (黄色土混じる)
- 4: 橙黄色土層 (砂質)
- 5: 黑灰色土層



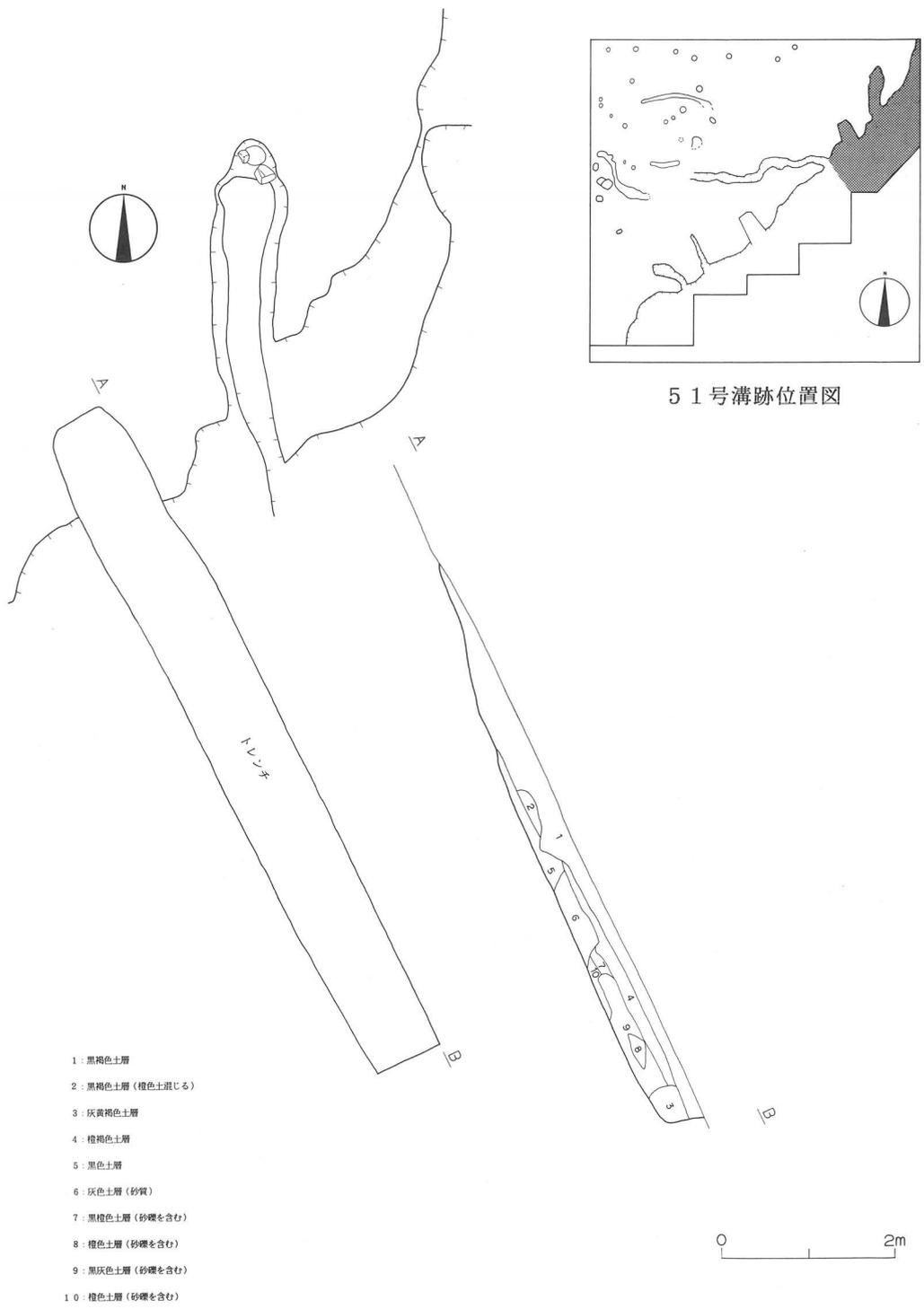
第68图 36号沟迹



1: 黑褐色土層 (黄色土混じる)

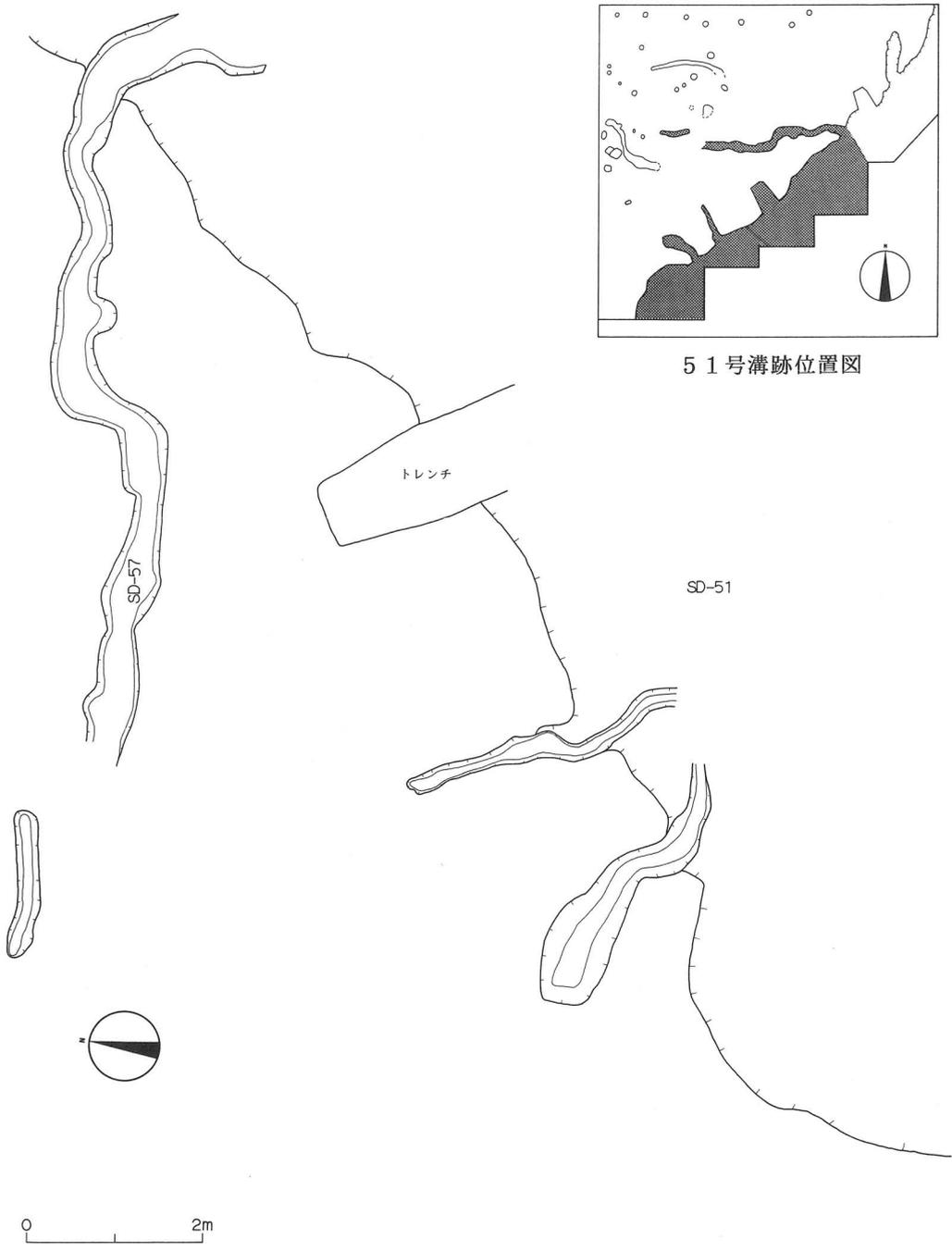


第69图 47・48号溝跡

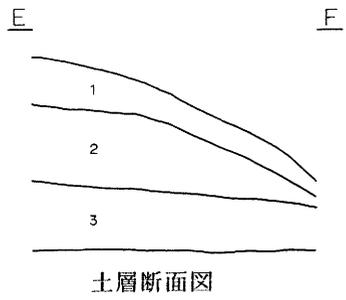
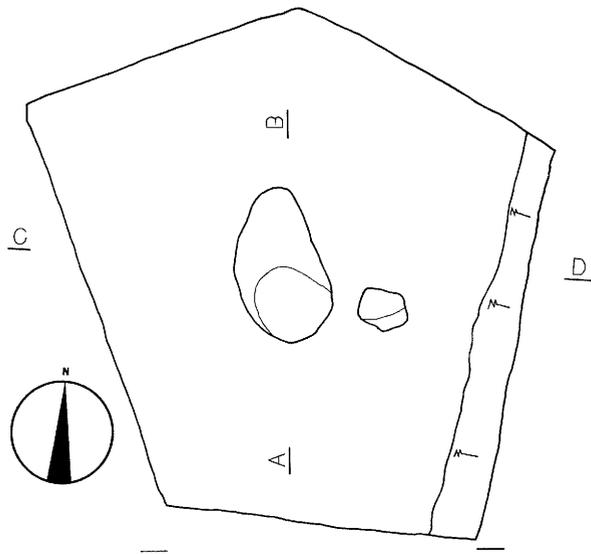


51号溝跡位置図

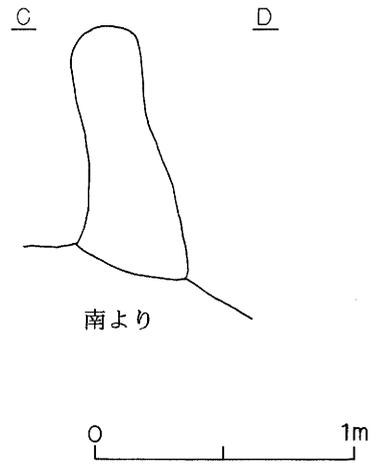
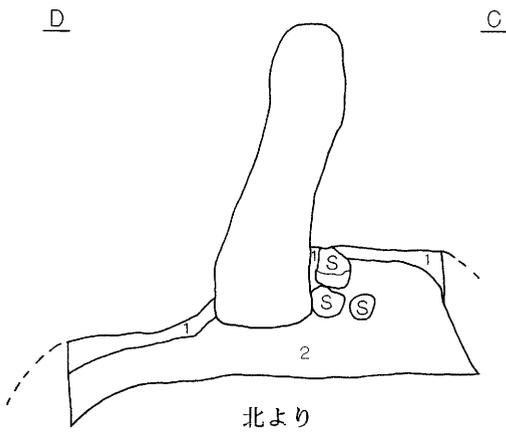
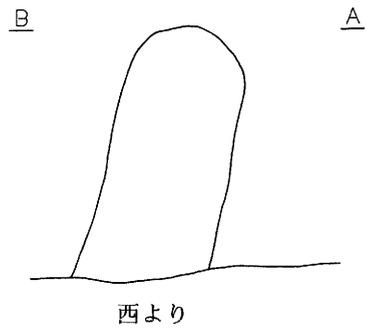
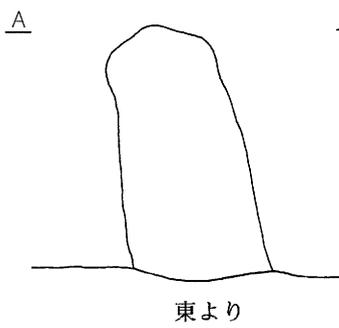
第70図 51号溝跡



第71図 51号溝跡



- 1: 表土
- 2: 赤褐色土層 (よう脱層)
- 3: 黒褐色土層



第72図 すばこ様

(1) 遺構一覽表

① 竪穴住居跡

住居名	平面形	主軸方向	カマド・炉の状況	出土遺物番号	備考
1号住居跡	隅丸長方形	N-20°-W	中央より長軸北西寄りに地床炉が存在し地床炉内には炉胎土器がある。	・土器(1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12) ・石器その他(9, 60)	東半分は水田整地の為に破壊されており不明である。主柱穴は確認できなかった。壁際には、小柱穴が存在する。また、西側の壁に沿って、溝が掘られている。出土遺物から弥生時代後期、箱清水式期の住居跡と考えられる。
2号住居跡	方形	N-1°-W	不明	・土器(13, 14) ・石器その他(10)	東半分は河川により削られており不明である。出土遺物から平安時代と思われる。
3~5号住居跡				・土器(15) ・石器その他(40)	当初は住居跡と考えていたが、平面形が不明確であり、炉・カマドの痕跡もはっきりしないので住居跡から除いておきたい。
6・7号住居跡	方形	N-5°-W	中央よりやや北寄りに地床炉を持つ(7号住居跡)。	・土器(16, 17, 18, 19) ・石器その他(56)	断面図及び柱穴の検出状況から2件の住居跡が重複していると思われる。出土遺物から弥生から古墳時代にかけての住居跡と思われるが、土師器や須恵器の破片もかなり出土しており、平安時代の住居跡との重複も考えられる。
8・9号住居跡	方形?		不明	・土器(20, 21, 22, 23) ・石器その他(11, 12, 26, 32, 51, 52, 62, 63, 66, 67, 70)	8・9号住居跡の東側は水田整地の為に破壊されている。両住居跡の重複関係は不明である。この住居跡の上にスパコ様と呼ばれる立石があった。その下は浅い土壌状の凹地となっており、石器及び剥片・原石などが散乱していた。住居跡は、出土土器より奈良時代の住居跡と思われる。
10号住居跡	不明		地床炉	・土器(24, 25)	遺物はわずかであり、そのほとんどが弥生時代後期の箱清水式土器である。
11号住居跡	不明		不明	・土器(26)	住居跡は削平されてほとんど残っていないが、出土土器のほとんどが弥生時代後期の箱清水式土器の破片である。ただし、図示できたのは灰釉陶器である。

12・13号住居跡					住居跡は削平されてほとんど残っていないが、出土土器は弥生時代後期の箱清水式土器の破片がほとんどである。
14・15・16号住居跡			地床炉(1ヶ所)	・土器(27)	住居跡は削平されており、詳細は不明である。出土土器は弥生時代後期の箱清水式土器や須恵器の破片が出土している。
17号住居跡	隅丸長方形	N-30°-W	地床炉		住居跡のほとんどを道路によって破壊されているため詳細は不明である。出土遺物より弥生時代後期の箱清水式期の住居跡と思われる。
18号住居跡	隅丸長方形	N-0°	地床炉	・土器(28, 29, 30, 31, 32)	主柱穴は確認できなかった。出土土器から弥生時代後期の箱清水式期の住居跡と思われる。
19号住居跡	不明		不明	・土器(33, 34) ・石器その他(53)	住居跡のほとんどが水田整地により破壊されており、わずかに南側壁部が残るのみである。柱穴は住居跡の壁に沿って通っているようである。出土土器より平安時代の住居跡と思われる。
20号住居跡	隅丸方形	N-30°-W	地床炉		削平が激しく、図示できる土器はないが、出土土器のほとんどが弥生時代後期の箱清水式土器であった。
21号住居跡	方形	N-10°-E	住居跡北壁にカマドが存在する。ほとんど壊されている。		削平が激しく、図示できる土器はなかった。
22号住居跡	方形	N-0°	住居跡北壁にカマドが存在する。削平が激しくほとんど壊されている。	・土器(35, 36, 37)	壁際に溝を持つ。柱穴は、北側の2ヶ所は確認できた。出土土器から奈良時代から平安時代にかけての住居跡と考えられる。
23・24号住居跡					遺構検出時には住居跡と考えられたが、掘り下げてみると住居跡とは考えることができなかった。
25号住居跡	隅丸長方形	N-10°-W	地床炉	・土器(38, 39, 40, 41, 42, 43, 44, 45, 46, 47) ・石器その他(34)	主柱穴は4本確認されている。北西壁際には溝が掘ってある。出土ときは住居跡の南西隅を中心に出土している。これらの土器から弥生時代後期の箱清水式期の住居跡と考えられる。

26・27号住居跡	不明	不明	地床炉	・土器(49, 50, 51)	遺構検出時には、2つの住居跡が重複しているものと考えられていたが、調査結果より必ずしも2件である必要がないと思われる。出土土器より平安時代の住居跡と考えられる。
28号住居跡	不明	不明		・土器(52, 53, 54, 55, 56, 57, 58, 59, 60, 61, 62)	僅かに南西の角の部分のみが残存していた。出土土器は、集中しており平安時代の住居跡と考えられる。
29号住居跡	方形	N-15-W	カマド(東)	・土器(63, 64, 65) ・石器その他(13, 41)	削平が激しく住居跡の北壁は明確ではないが、カマドをもち、西と南と東の壁の下に溝をもつ住居跡であることが判明した。出土土器より奈良時代の住居跡であると思われる。
30号住居跡	不明		不明		住居跡の南東の角のみが確認できただけであり詳細は不明である。
31号住居跡	方形		不明	・土器(66)	削平が激しく、ほとんど遺物も検出されていないが僅かな出土土器より平安時代の住居跡と思われる。
32・33号住居跡	不明	不明			いずれも、焼土と住穴が3本確認されたのみで詳細は不明である。

35号住居跡	方形	N-0°-W	カマド(北側の壁際にカマドの痕跡を残す。)	・土器(67)	水田整地の為に削平されており、住居跡がほとんど残っていない。床面出土の土器より、奈良時代の住居跡と思われる。
36号住居跡	(方形)	N-11°-W	カマド(東側の壁の南よりにカマドの痕跡を残す。)	・土器(68, 69) ・石器その他(46)	水田整地の為に削平されており、住居跡はほとんど残っていない。床面出土の土器より奈良時代の住居跡と思われる。
37号住居跡	方形	N-8°-W	カマド(北側の壁のほぼ中央に存在する。)	・土器(70) ・石器その他(14)	出土土器が少なく破片のみであるが、その土器片もほとんど奈良時代と思われる。
38号住居跡				・土器(71)	遺構検出時は住居跡と思われたが掘り上げてみたところ住居跡とは認めることができなかった。

39号住居跡	方形	N-60° -W	カマド(北側の壁際の中央部に存在する。構築材には石が使われている。)	・土器(72, 73, 74, 75, 76, 77)	第33号清跡に切られている。床面には焼土及び炭が散乱していた。カマド内の土器より奈良時代の住居跡と思われる。
40号住居跡	(方形)		不明	・土器(78)	水田整地の為に削平されており南半分が僅かに残るのみである。床面からは砂岩質の礫石も出土したが風化が激しく粉々になってしまった。床面出土土器より奈良時代の住居跡と思われる。
41号住居跡	(方形)		地床炉	・土器(79, 80, 81)	水田整地の為に削平されており南半分が僅かに残るのみである。一部に壁に沿って溝が掘られている。床面出土器により古墳時代初頭と思われる。なお、この住居跡を切っている第14号清跡からは、須恵器の坏が出土している。
42号住居跡	長方形	N-15° -W	カマド(北側の壁際と思われる場所に痕跡が残っている。)	・土器(82, 83, 84)	水田整地の為に削平されており、カマドははつきりとは残っていない。東・西・南側それぞれの壁際には溝が掘られている。溝内及び床面出土土器により奈良時代の住居跡と考えられる。
43号住居跡	長方形	N-15° -W	地床炉(住居跡の中央部に存在している。床炉内には炉胎土器が伴っている。炉胎石と思われる石も存在する。)	・土器(85, 86, 87)	水田整地の為に削平されており、住居跡は床面が残るのみであった。柱穴は6本と思われる。壁面付近と思われる場所には溝が掘られている。炉胎土器及び床面の土器より弥生時代後期の箱清水式期の住居跡と思われる。
44号住居跡	方形	N-6° -W	カマド(北側の壁際に存在する。構築材には石が使われている。カマドの床にも石が使われている。)	・土器(88, 89, 90, 91, 92, 93, 94, 95, 96, 97, 98, 99, 100, 101, 102, 112) ・石器その他(15, 64, 74)	南側は11・12号住居跡と重複している。南と西の壁際には溝が掘られている。主柱穴は4本である。出土遺物より奈良時代と思われる。
45号住居跡	長方形		不明	SB-44~46・土器(103, 104, 105, 106, 107, 108, 109, 110, 111)	水田整地の為に東側は削平を受けている。西側は10・12号住居跡と重複している。出土土器より奈良時代と思われる。

45号住居跡				・石器その他(15, 64 74)	
46号住居跡	長方形	N-24°-W	不明	・土器(113, 114, 115, 116, 117, 118, 119, 121) ・石器その他(25, 33)	礎が混入しており、遺構の残りが悪いが、出土土器より弥生時代後期の箱清水式期の住居跡と思われる。
47号住居跡	(方形)		カマド(水田整地の為に削平されており痕跡のみが存在する。)	・土器(122, 123)	水田整地の為に削平されており、詳細は不明である。住居跡の周りは、溝が運らされている。床面出土の土器より奈良時代の住居跡と思われる。
48・49号住居跡					検出時は、住居跡と思われたが調査の結果、住居跡とは認めることができなかった。
50・51・52号住居跡				SB-50・土器(124) ・石器その他(16)	焼土が認められ、柱穴と思われるものが伴っていることから住居跡であったと思われる。出土遺物が伴わず時期は不明である。

② 掘立柱建物跡

掘立柱建物跡名	規 格	主 軸 方 向	備 考
1号掘立柱建物跡	1間×1間・方形	W-O°-N	
2号掘立柱建物跡	1間×1間・矩形	W-O°-N	
3号掘立柱建物跡	1間×1間・方形	W-O°-N	
4号掘立柱建物跡	1間×2間・廂付	W-O°-N	
5号掘立柱建物跡	2間×3間・(方形)	W-O°-N	
6号掘立柱建物跡	2間×2間・(方形)総柱	W-O°-N	
7号掘立柱建物跡	2間×2間・(方形)	W-O°-N	

8号掘立柱建物跡	2間×2間・方形、総柱	W-0° -N	
9号掘立柱建物跡	2間×2間・廂付	W-0° -N	
10号掘立柱建物跡	2間×2間・矩形	W-5° -S	
11号掘立柱建物跡	2間×2間・矩形	W-0° -N	
12号掘立柱建物跡	(1間×1間)		竪穴住居跡の柱穴の可能性はある。
13号掘立柱建物跡		W-39° -N	
14号掘立柱建物跡	1間×2間・矩形	W-0° -N	
15号掘立柱建物跡	1間×2間・方形	W-0° -N	
16号掘立柱建物跡	2間×2間・方形、総柱	N-6° -W	
17号掘立柱建物跡			
18号掘立柱建物跡	2間×2間・矩形	W-10° -S	
19号掘立柱建物跡	2間×3間・矩形	W-17° -N	
20号掘立柱建物跡	2間×3間・矩形		
21号掘立柱建物跡	2間×3間・矩形	W-15° -N	
22号掘立柱建物跡	2間×2間・廂付		
23号掘立柱建物跡	1間×1間・方形	W-45° -N	
24号掘立柱建物跡	1間×3間		東西に細長い為、掘立柱建物跡というよりも棚列状のものと考えたい。
30号掘立柱建物跡	(1間×4間)	E-10° -N	北側は、調査地区外となるため全体の形状・規格等は不明である。2間×4間の掘立柱建物跡となる可能性もある。

31号掘立柱建物跡	1間×2間・矩形	N-45° -W	
32号掘立柱建物跡	1間×1間・矩形	W-0° -N	
33号掘立柱建物跡	2間×2間	E-10° -N	
34号掘立柱建物跡	1間×2間	N-10° -W	
35号掘立柱建物跡	(2間×2間・方形)	(N-12° -E)	北側は調査区域外であり、全体の形状・規格は不明である。
36号掘立柱建物跡	(2間×2間・矩形)	W-0° -N	北側は調査区域外のため不明である。
37号掘立柱建物跡	1間×1間・矩形		
38号掘立柱建物跡	1間×1間・廂付	N-30° -W	
39号掘立柱建物跡	1間×1間・矩形	W-0° -N	
40号掘立柱建物跡	2間×5間・(矩形)	E-4° -N	
41号掘立柱建物跡	2間×1間・(矩形)	N-8° -W	
42号掘立柱建物跡	2間×2間・(矩形)	E-6° -N	
43号掘立柱建物跡	2間×3間・総柱		
44号掘立柱建物跡	1間×1間・(矩形)	(E-38° -N)	
45号掘立柱建物跡	2間×2間・(矩形)	(N-4° -E)	
46号掘立柱建物跡	(2間×2間)		北側は、調査地区外であり不明である。
47号掘立柱建物跡	2間×2間・(矩形)	N-8° -W	
48号掘立柱建物跡		N-8° -W	
49号掘立柱建物跡	(1間×1間)	(N-20° -E)	

50号孤立柱建物跡	(1間×1間)	(N-15° -E)	
51号孤立柱建物跡			北側は調査地区外であり不明である。
52号孤立柱建物跡	1間×1間	(E-7° -W)	
53号孤立柱建物跡	2間×2間・(矩形)	W-0° -N	
54号孤立柱建物跡	(2間×?)	(N-10° -W)	北側は道路の下となり不明である。
55号孤立柱建物跡	(2間×2間)	N-10° -W	
56号孤立柱建物跡	(2間×6間)	E-6° -N	西側の柱穴は崩であるのかもしれない。
57号孤立柱建物跡	(2間×2間)	E-5° -N	南側は調査区域外であり、水田整地のために削平されており不明である。
58号孤立柱建物跡	(2間×2間・方形)	W-0° -N	
59号孤立柱建物跡	(2間×2間・方形)	W-0° -N	
60号孤立柱建物跡	2間×2間・矩形	W-0° -N	
61号孤立柱建物跡	2間×3間・矩形、総柱	E-8° -N	

③ 溝跡

溝跡名	出土遺物番号	備考
1号溝跡	・土器(125, 126, 127, 128, 129, 130, 131, 132, 133, 134, 135, 136, 137, 138) ・石器その他(27, 54, 71)	S字状に東西に蛇行している。溝跡の東側には柱穴が2本並んでいる。何らかの施設が存在したと思われる。自然流路と思われる。出土土器より、弥生時代後期の箱清水式期のもと思われる。
2号溝跡		直線的に北北西から南東に延びている。8, 9, 10号住居跡より新しい溝跡である。所属時期は不明である。

3号溝跡	・石器その他(61, 68, 69)	南北に弧状に延びている。6, 7, 8号住居跡より新しい。出土遺物は土師器・須恵器片がほとんどであり、所属時期もそれ以降と思われる。
4号溝跡	・土器(139, 140, 141, 142, 143, 144, 145, 146, 147, 148, 149, 150, 151, 152, 153, 154, 155, 156, 157, 158, 159, 160, 161, 162, 163, 164, 165, 166, 167, 168, 169, 170, 171, 172, 173, 174, 175, 176, 177, 178, 179) ・石器その他(35, 36, 42, 47, 55, 72, 81)	東西に延びている。1号溝跡に続くと思われる。検出面からは奈良・平安時代の土器が出土しているが、覆土及び河床跡及び岸跡からは弥生時代後期の箱清水式期の土器が出土している。また、土層断面から箱清水期の河床の上に時期不明の柱穴跡が確認され、その上に平安時代の層が確認されている。何度か自然流路と陸地化が繰り返されているようである。
5号溝跡		南北に調査地区外に延びている。所属時期は不明である。
6号溝跡		南北に伸びている。土師器・須恵器片が出土しており、所属時期は平安時代と思われる。
7号溝跡	・土器(180, 181, 182) ・石器その他(44)	4号溝跡に流れ込む溝跡である。N-70°-Wの方向に作られている。出土土器から弥生時代後期の箱清水式期の溝跡と思われる。
8号溝跡		7号溝跡と並ぶように4号溝跡に流れ込んでいる。N-70°-Wの方向に作られている。溝跡は蛇行しており自然の流路のようである。
9号溝跡		8号溝跡と同様のものと思われる。N-30°-Wの方向に作られている。
10号溝跡		北側野調査地区外に延びている。N-30°-Eの方向に作られている。出土遺物は土師器・須恵器片のみである。
11号溝跡	・土器(185)	当初、10号溝跡の西側に平行して検出されたが、相次ぐ出水により破壊されてしまい記録に残すことができなかった。出土遺物は土師器・須恵器片のみである。
12号溝跡		E-10°-Nの方向に作られている。
13号溝跡	・土器(183, 184)	4号溝跡に流れ込む溝跡である。N-50°-Wの方向に作られている。出土土器は弥生時代箱清水式期の土器であり、覆土は黄褐色土であった。このことから、箱清水期に何らかの理由で溝を廃絶したことが考えられる。

20号溝跡	・土器(186, 187, 188) ・石器その他(17, 18)	コの字状に曲がる溝である。溝跡は調査区域外へ伸びているため全容は不明であるが、西側はトレンチ調査により直線的に伸びていることが確認されている。北側は水田整地の為に削平されており詳細は不明であるが、方に区画されているようである。また、南西の角付近には土橋状に掘り残してある場所がある。出土土器より平安時代の溝跡と思われる。
21号溝跡	・土器(189)	南北に伸びている。
22号溝跡		南北に伸びている。
23号溝跡		南西から北東に伸びている。
24号溝跡		南西から北東に伸びている。
25号溝跡	・土器(190)	5号溝跡につながると思われる。
26号溝跡		南北に伸びている。
27号溝跡		32号孤立柱建物跡を囲むようにL字状に掘られている。
28号溝跡	・石器その他(20)	南北に伸びる。
29号溝跡	・土器(191, 192)	弧状に運る溝跡である。出土土器より奈良時代の溝跡と思われる。
30号溝跡		
31号溝跡	・土器(193)	L字状の溝跡である。40号住居跡より出ている。溝跡からは平安時代の土器が出土している。
32号溝跡		43号孤立柱建物跡の西と北側を囲むように存在している。
33号溝跡		
34号溝跡		北東から南西に伸びている。
35号溝跡		北東から伸びている。
36号溝跡	・土器(194, 195, 196, 197, 198, 199, 200, 201, 202, 203, 204, 205,	逆L字状の溝跡である。断面はV字状となる。溝の底部付近からは箱清水式期の土器及び古式土師器等が出土している。半分程埋まった状態でも溝はまだ機能しているらしく、奈良・平安時代の土器が出土している。

36号溝跡	206, 207, 208, 209, 210, 211, 212, 213, 214, 215, 216) ・石器その他(28, 29, 48)	
37号溝跡		南北に36号溝跡から延びている。出土遺物の量が少なくはっきりはしないが、平安時代の溝跡と思われる。
38号溝跡		北東から延びている。
39号溝跡		北西から延びている。
40号溝跡		北西から延びている。20号溝跡と並ぶように掘られている。
41号溝跡		12号溝跡と38号溝跡と同一の溝跡と思われる。
42号溝跡		35号溝跡と重複している。
43号溝跡		南北に延びている。
44号溝跡		東西に延びている。
45号溝跡		東西に延びている。
46号溝跡		溝跡内より土師器片のみが出土している。
47号溝跡		29号溝跡と同一の溝跡と思われる。
48号溝跡	・石器その他(59)	47号住居跡を囲むように巡っている。溝跡からは土師器・須恵器片が出土している。
49号溝跡		
50号溝跡	・石器その他(21, 22)	南北に延びている。
51号溝跡	・土器(217, 218, 219, 220, 221, 222, 223, 224, 225, 226, 227, 228, 229, 230, 231, 232, 233, 234, 235, 236, 237)	1号・4号溝跡に続く自然流路と思われる。4号溝跡と同様に検出面からは土師器・須恵器が出土しているが、覆土及び河川の岸跡よりは弥生時代後期箱清水式期の土器が出土している。

5 1号溝跡	238, 239, 240, 241, 242, 243, 244, 245, 246, 247, 248, 249, 250, 251, 252, 253, 254, 255, 256, 257, 258, 259, 260, 261, 262, 263, 264, 265, 266, 267) ・石器その他(23, 37)	
5 2号溝跡	・土器(268)	奈良時代の坏が出土している。
5 3号溝跡	・石器その他(58)	土師器片が出土している。
5 4号溝跡	・土器(269)	土師器片が出土している。
5 5号溝跡	・土器(270)	出土遺物は無く、所属時期は不明である。
5 6号溝跡		出土遺物は無く、所属時期は不明である。
5 7号溝跡		出土遺物は無く、所属時期は不明である。
5 8号溝跡		北東に延びる。出土遺物は無く、所属時期は不明である。
5 9号溝跡		ゴ字状に遡ると思われる。削平が激しいため詳細は不明であるが住居跡の周溝である可能性もある。
6 0号溝跡		出土遺物は無く、所属時期は不明である。

④ 土坑

土坑名	出土遺物番号	備考
1号土坑		平面形は長方形である。内部に炭を多く含む。
4号土坑	・土器(271)	平面形は円形である。
2 2号土坑	・土器(272) ・石器その他(45)	平面形は三日月形である。風倒木痕と思われる。

30号土坑	・土器(273)	平面形は円形である。
36号土坑	・土器(274, 275, 276, 277)	平面形は円形である。

103号土坑	・土器(278)	平面形は楕円形である。断面は皿状となる。
112号土坑	・土器(279)	平面形は円形である。
115号土坑	・土器(280)	平面形は円形である。
116号土坑	・土器(281)	平面形は円形である。
162号土坑	・土器(282)	平面形は円形である。
163号土坑	・土器(283) ・石器その他(30, 39)	風倒木痕かもしれない。
168号土坑	・土器(284)	平面形は円形である。
169号土坑	・土器(285, 286)	平面形は円形である。
175号土坑	・土器(287)	平面形は円形である。
176号土坑	・土器(288, 289)	平面形は円形である。
179号土坑	・土器(290)	平面形は円形である。
180号土坑	・土器(291)	平面形は円形である。
181号土坑	・土器(292)	平面形は円形である。

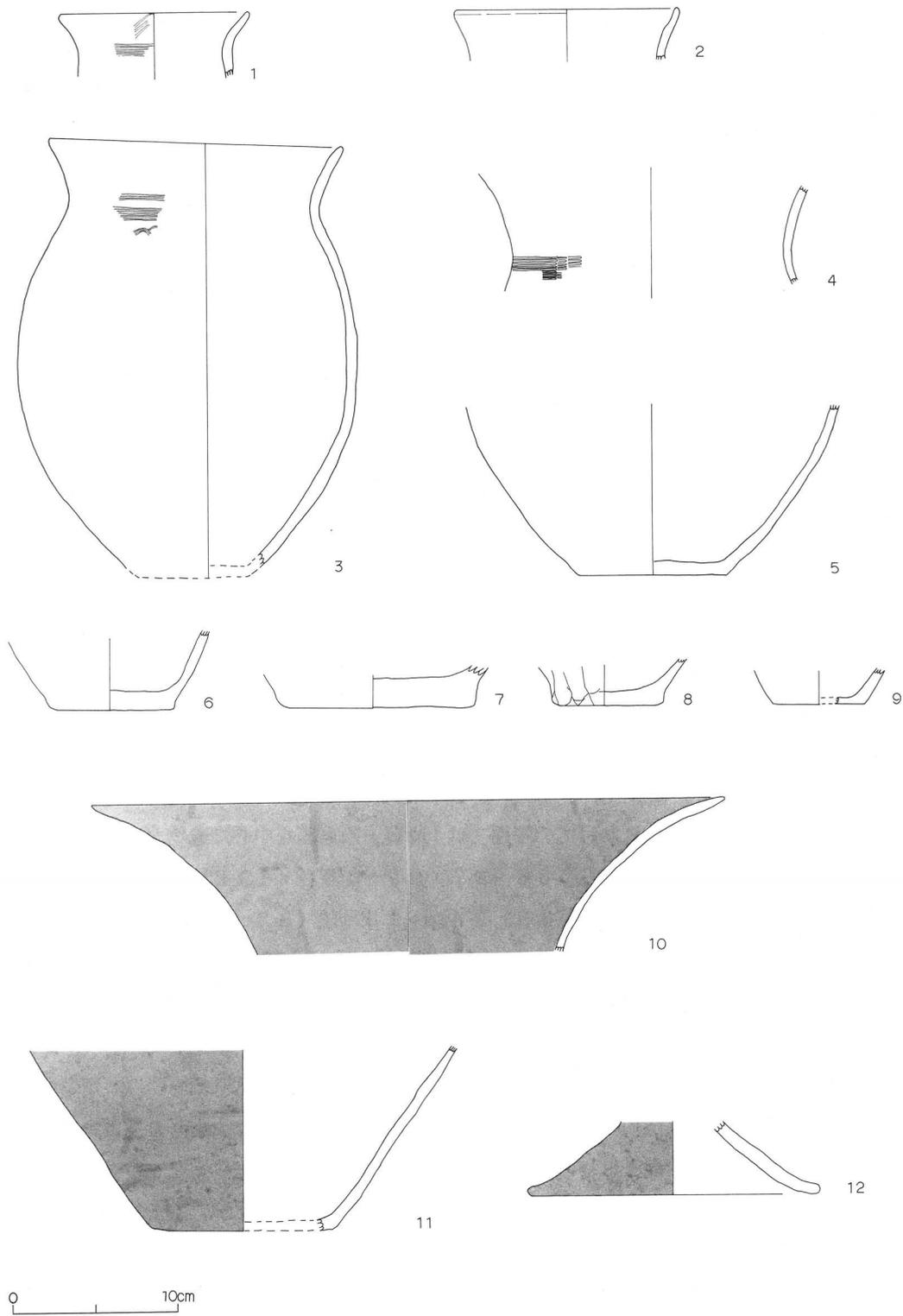
第三節 遺物

遺物は、その所属時期から①弥生時代後期から古墳時代初頭の箱清水式土器を使用している時期・②奈良時代から平安時代前半の時期・③その他に遺物量は少ないが、縄文時代晩期・近世の遺物などに分けることができる。

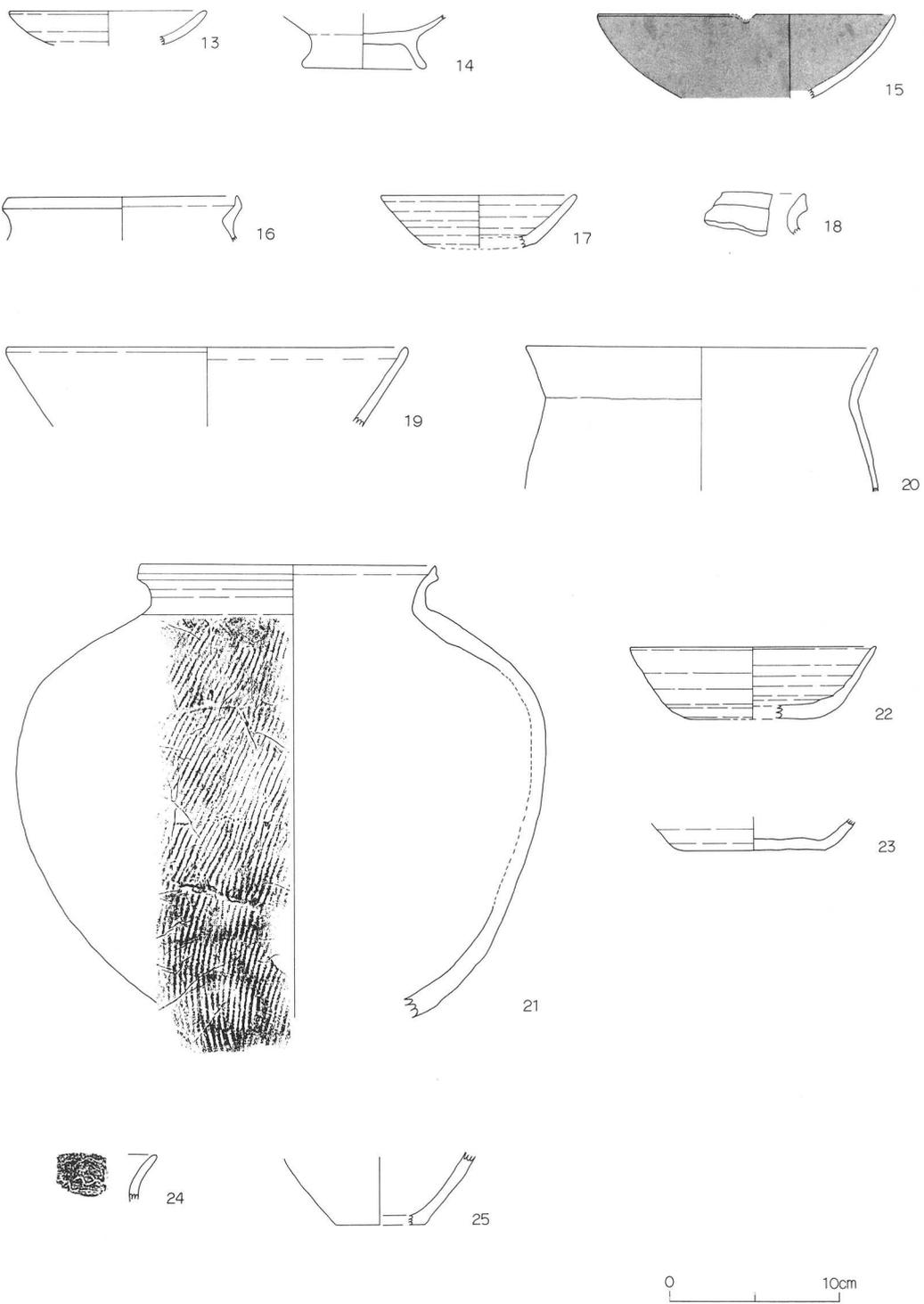
①弥生時代後期から古墳時代初頭においては箱清水式土器を中心として東海系や北陸系などの外来系土器が出土している。1号住(1~12)・46号住(116~121)出土土器は比較的良好な弥生時代後期箱清水期の土器である。46号住出土の甕は胴部に丸みを持つ。同時期の住居跡には炉胎土器をもつものがあるが、1号住(4)では甕の頸部から胴部にかけての部分を使っている。43号住(84・85)では壺の胴下半から底部を2個体重ねて使っている。18号住(28)はS字甕を出土している。25号住(38・39・40)は北陸系の土器を出土している。また、口縁部端に面取りを施し坏部に稜を持つ高坏(46)も出土している。1・4・51号溝跡には箱清水式土器とともにS字甕(142・143・155・223~228)・器台(177)・口縁が「く」の字に外反し、胴部が球形となる甕(231~233)も出土している。北陸系の有段口縁の甕(125~127・138)・口縁部端が面取りされる甕(39・141・147・158・229・315)・壺(144)・高坏(133・253)・装飾器台(179)・台付装飾壺(249・250)などが出土している。これらのほとんどが、河川跡の沿岸部より箱清水式土器と一緒に集中して出土している。36号溝跡からはいわゆる古式土師器と呼ばれる台付甕(194)も出土している。その他、石器は石鏃・石包丁などが出土している。

②奈良時代から平安時代にかけての時期では土師器・須恵器を中心に遺物が出土している。39号住(72~77)・44号住(88~97・99~102・112)出土土器は比較的良好な奈良時代の土器である。2号住(13・14)・28号住(52~62)出土土器は平安時代の比較的良好な土器である。20号溝跡は出土土器は破片のみであった。土師器の坏の破片がほとんどであった。36号溝跡は奈良時代の土師器・須恵器(199~216)を中心に出土している。36号土坑は土師器の坏が重ねられ、その横に黒色土師器の長頸壺(277)が置かれた状態で出土している。平安時代の土器と思われる。116号土坑からは須恵器の短頸壺が出土している。所属時期は奈良時代のものと思われる。176号土坑からは須恵器の長頸壺が出土している。所属時期は平安時代と思われる。掘立柱建物跡からは柱穴内から土器片が出土するのみで所属時期の参考となるものは少ない。その他の遺物としては44号住から刀子が出土している。36号住からは砥石が出土している。

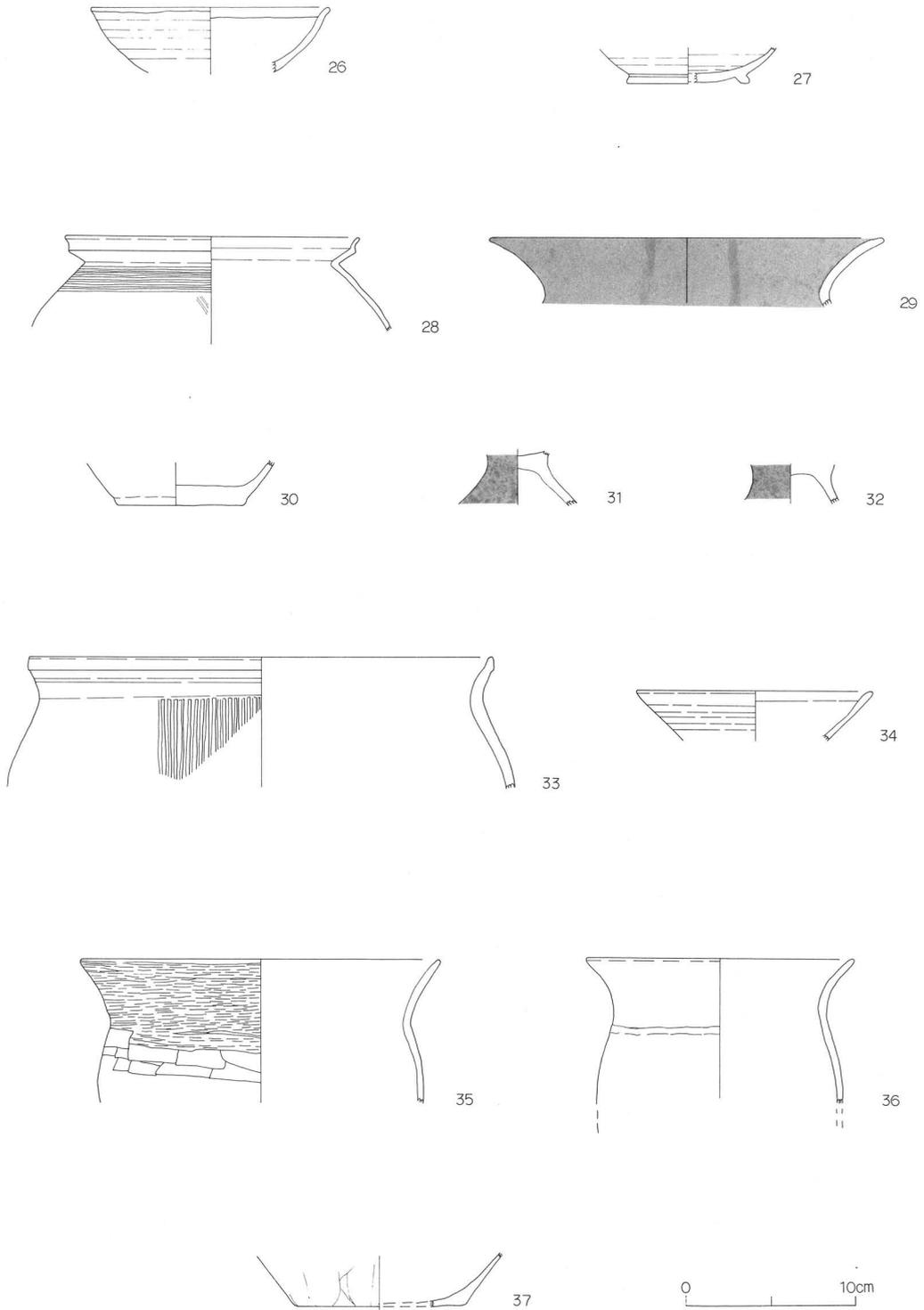
③その他の時期では、縄文時代晩期の水式期の土器(280)が土坑内から出土している。また、「スパコ様」の正面から古銭「寛永通宝」(78, 79)があたかも供えられたかのように出土している。



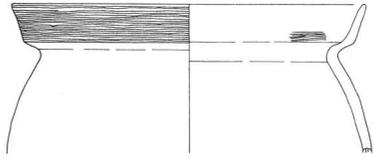
第73图 1号住居跡出土土器



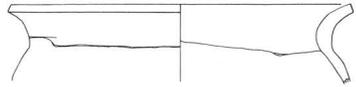
第74图 2・3・6・7・8・9・10号住居跡出土土器



第75图 11·14·15·16·18·19·20号住居跡出土土器



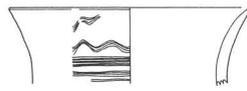
38



39



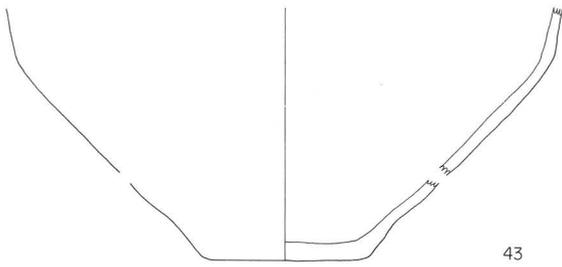
40



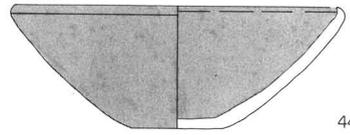
41



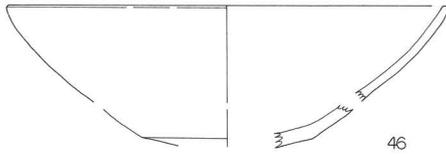
42



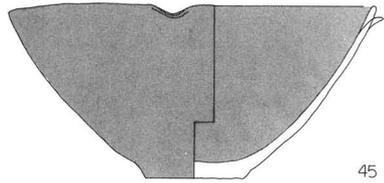
43



44



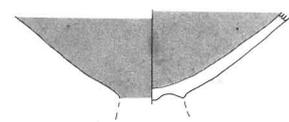
46



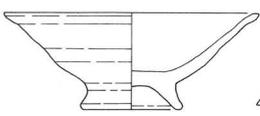
45



47



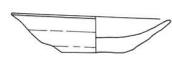
48



49



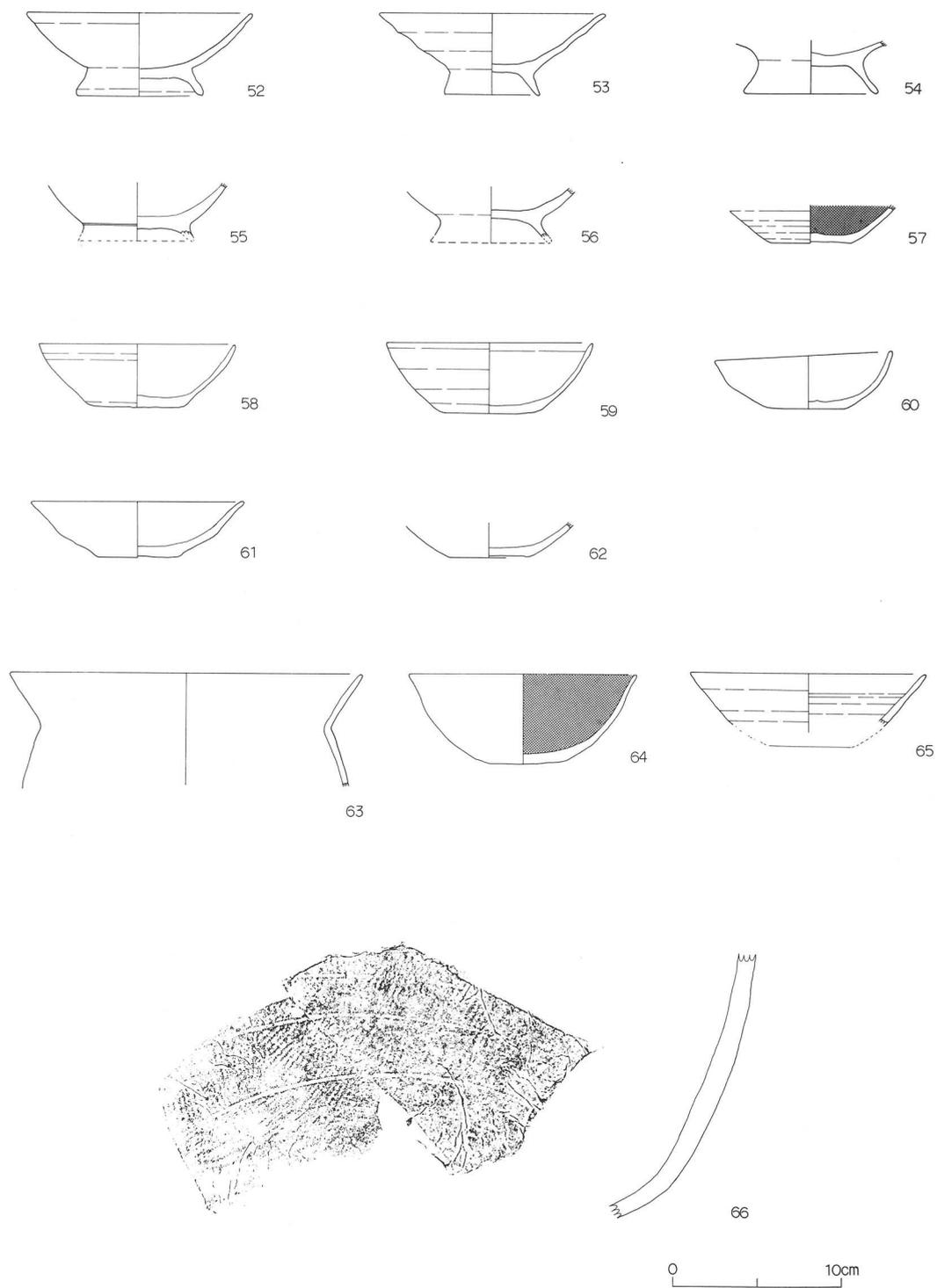
50



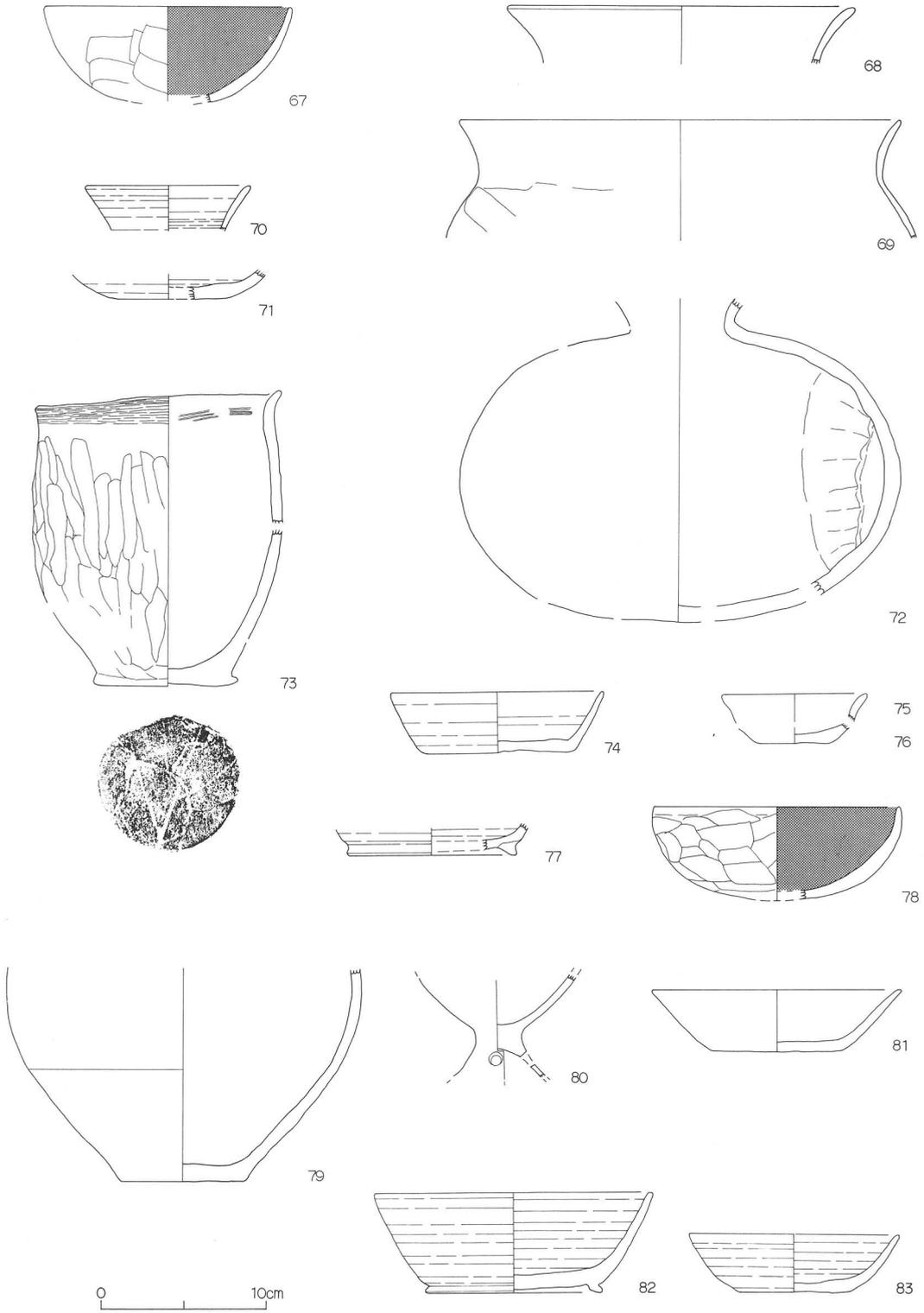
51



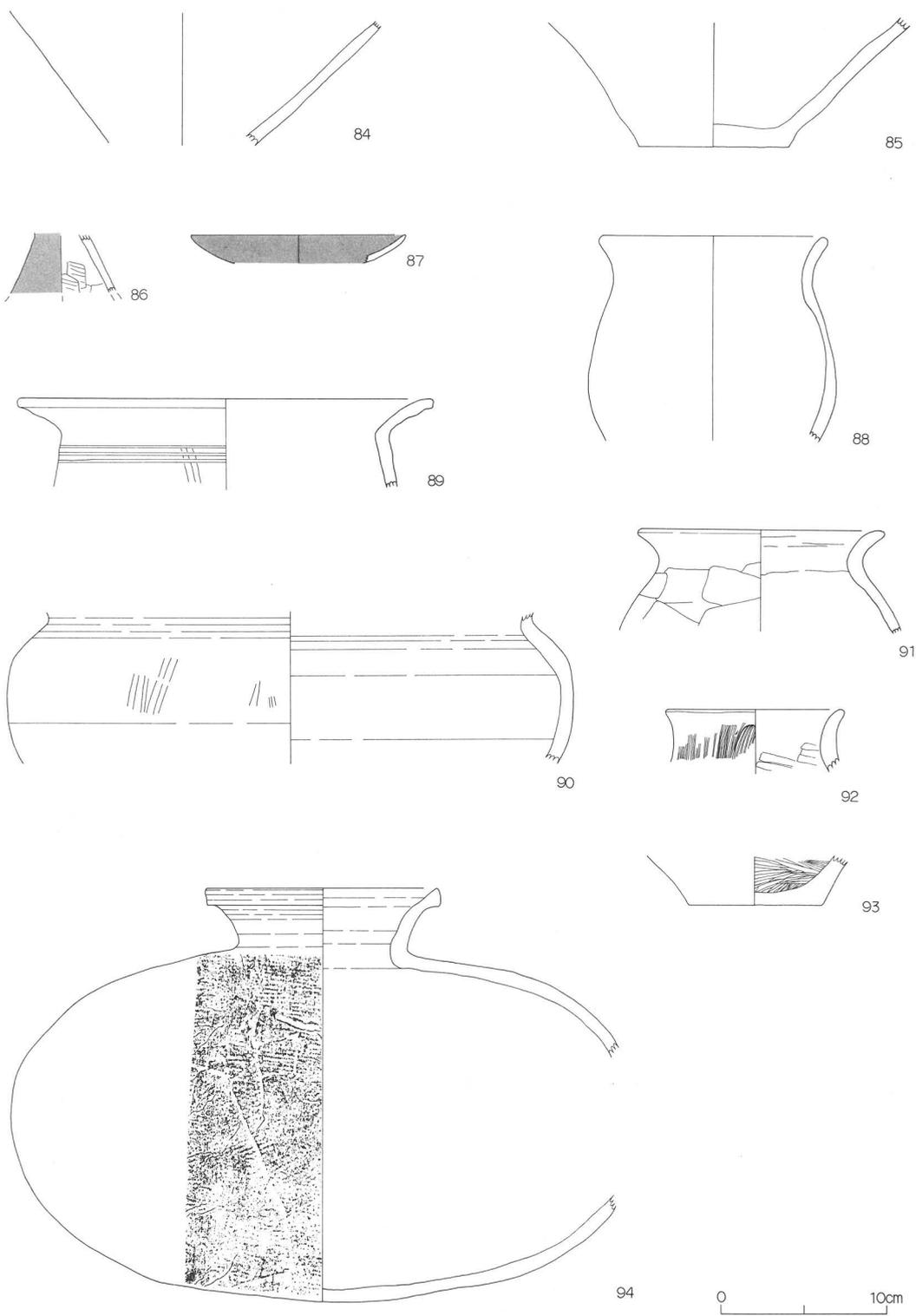
第76图 25·26·27号住居跡出土土器



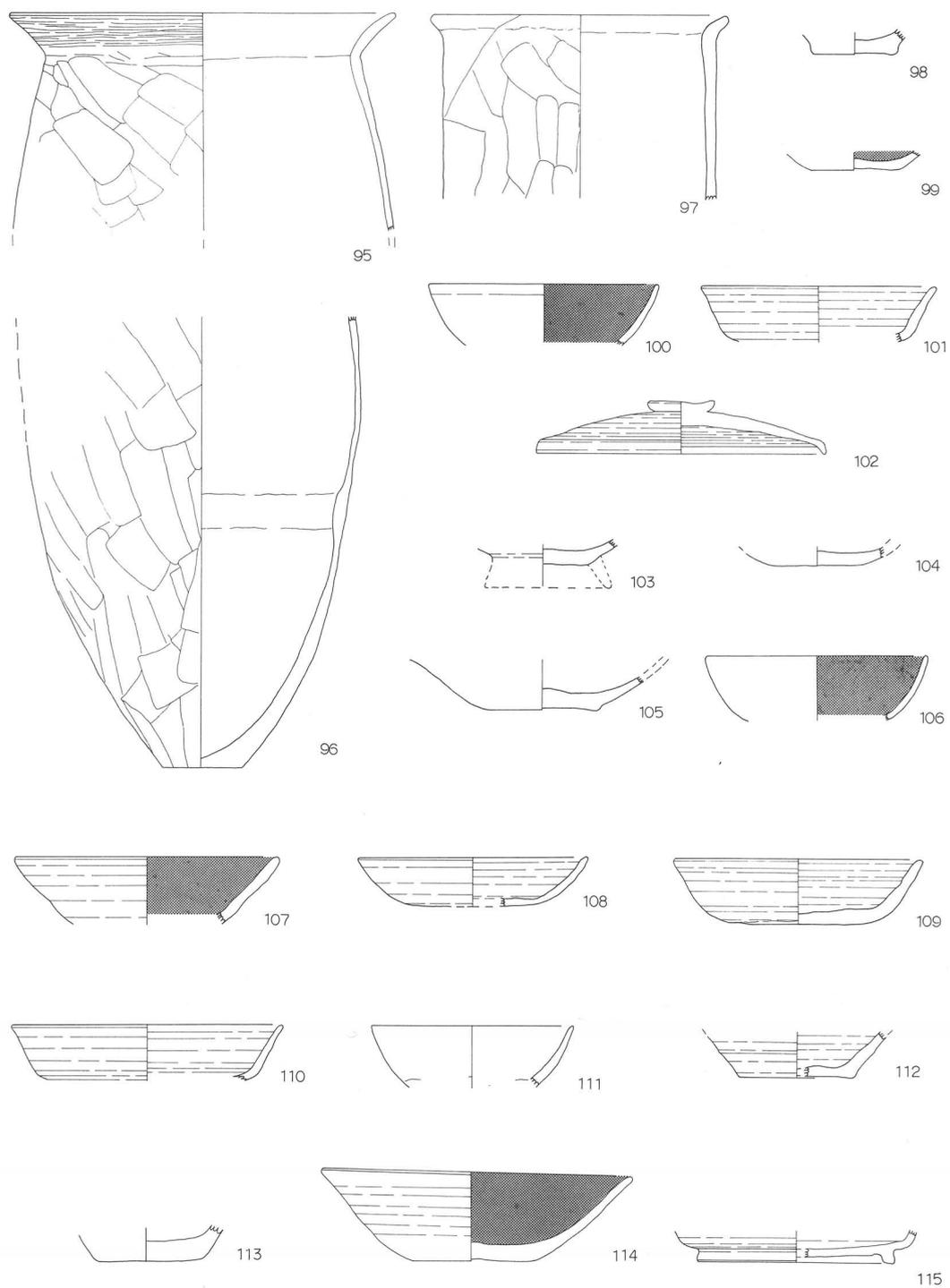
第77图 28·29·31号住居跡出土土器



第78图 35·36·37·38·39·40·41·42号住居跡出土土器

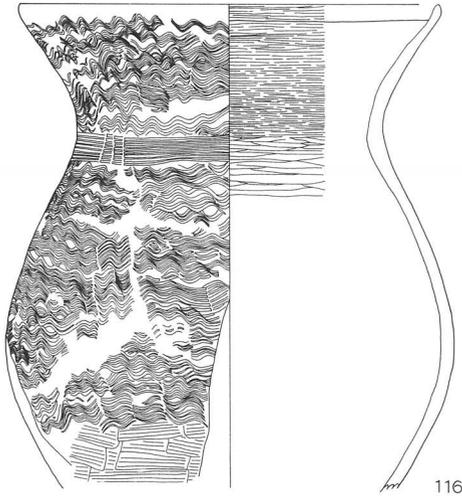


第79图 43·44号住居跡出土土器

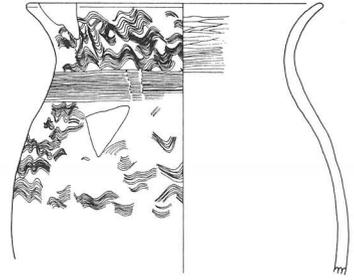


0 10cm

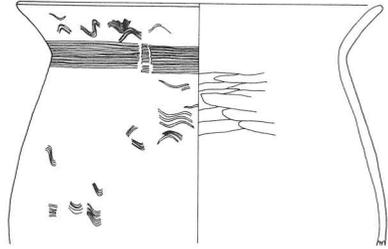
第80图 44·45·46号住居跡出土土器



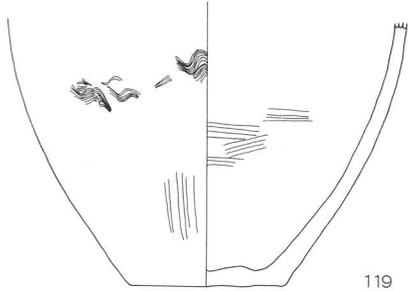
116



117



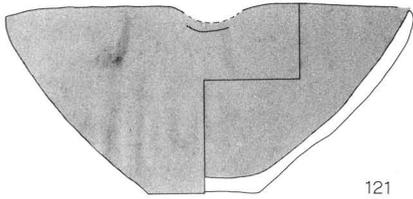
118



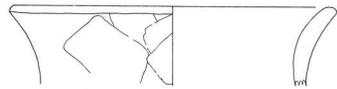
119



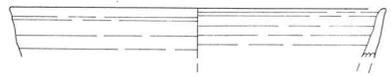
120



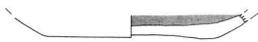
121



122



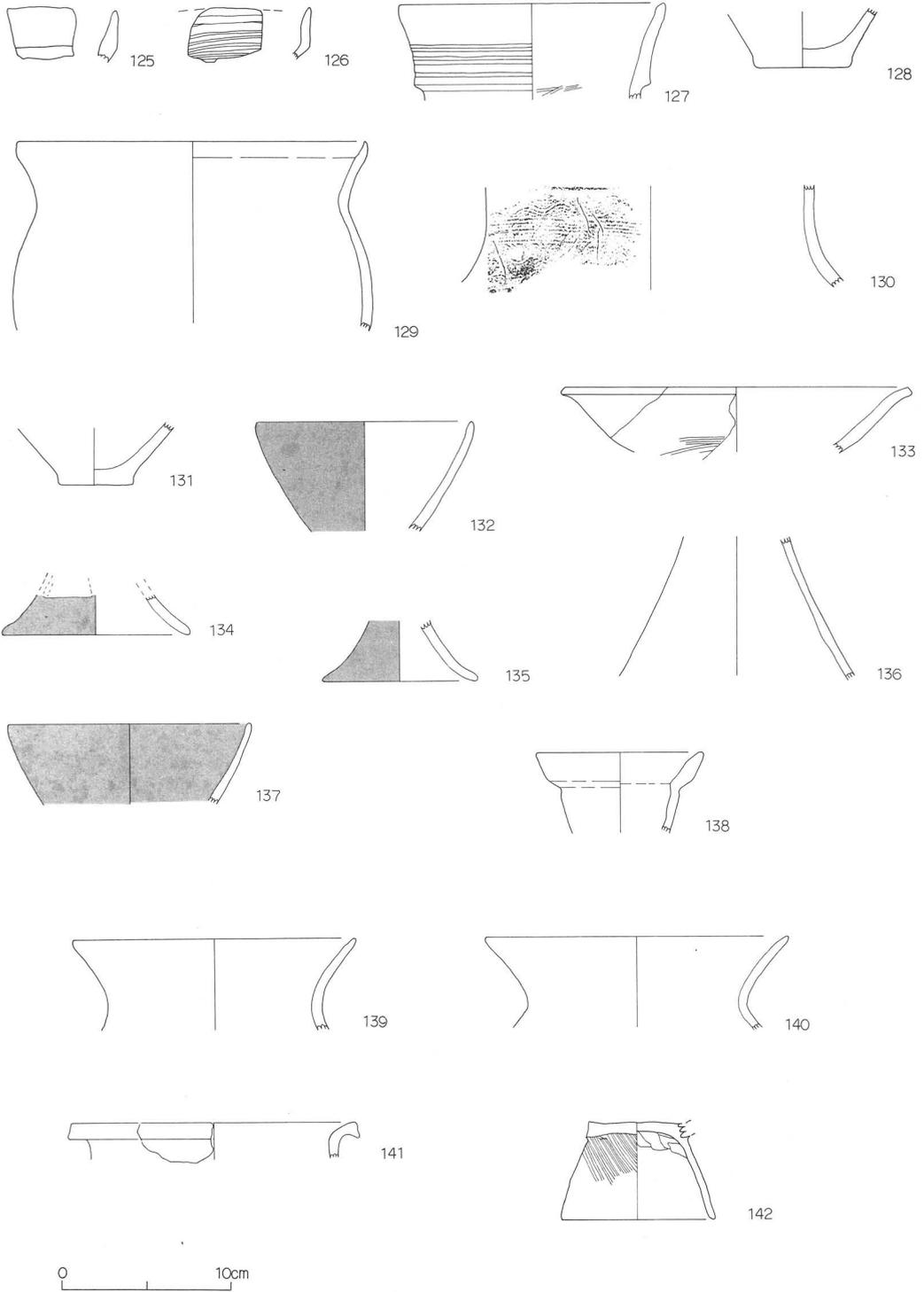
123



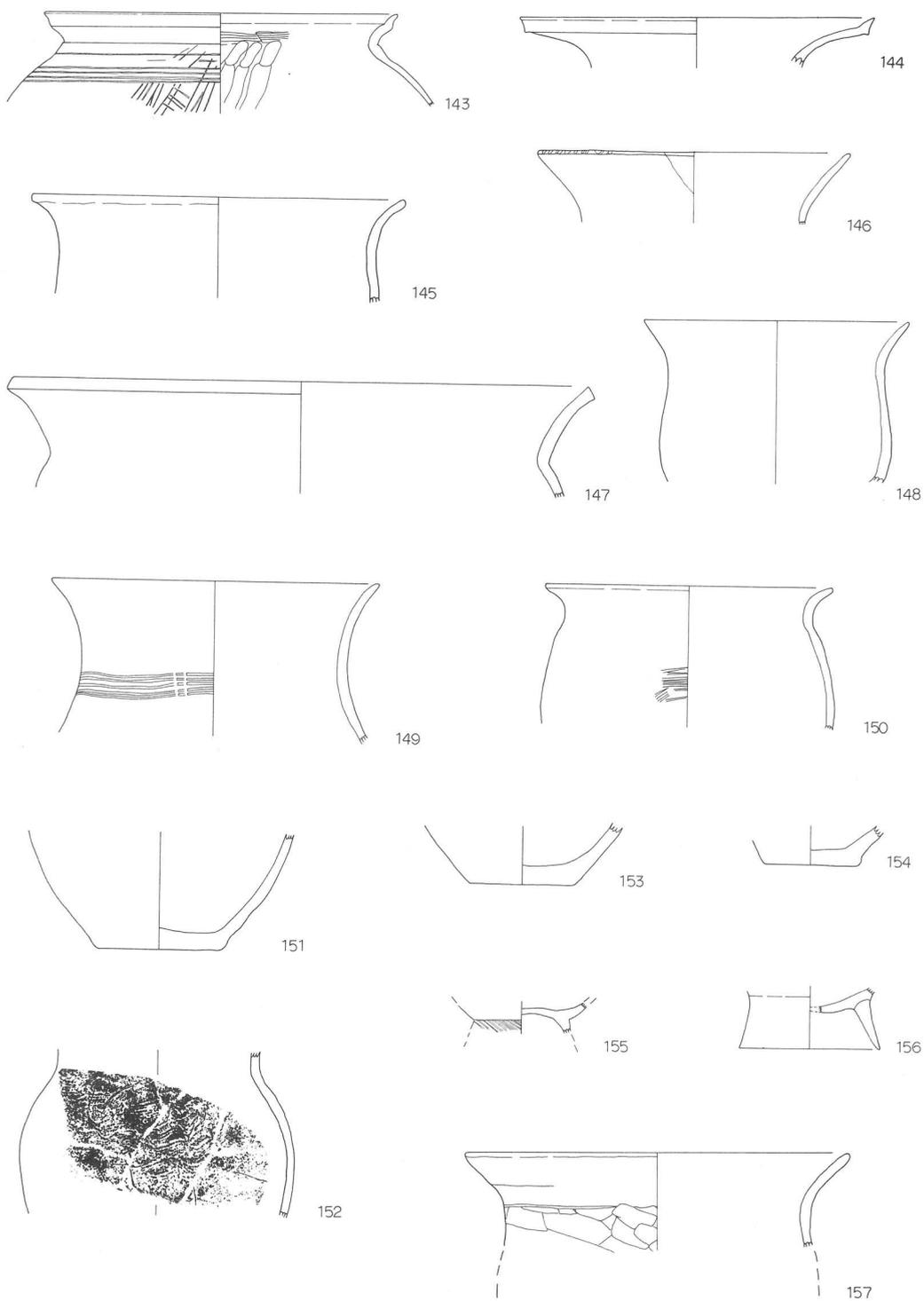
124



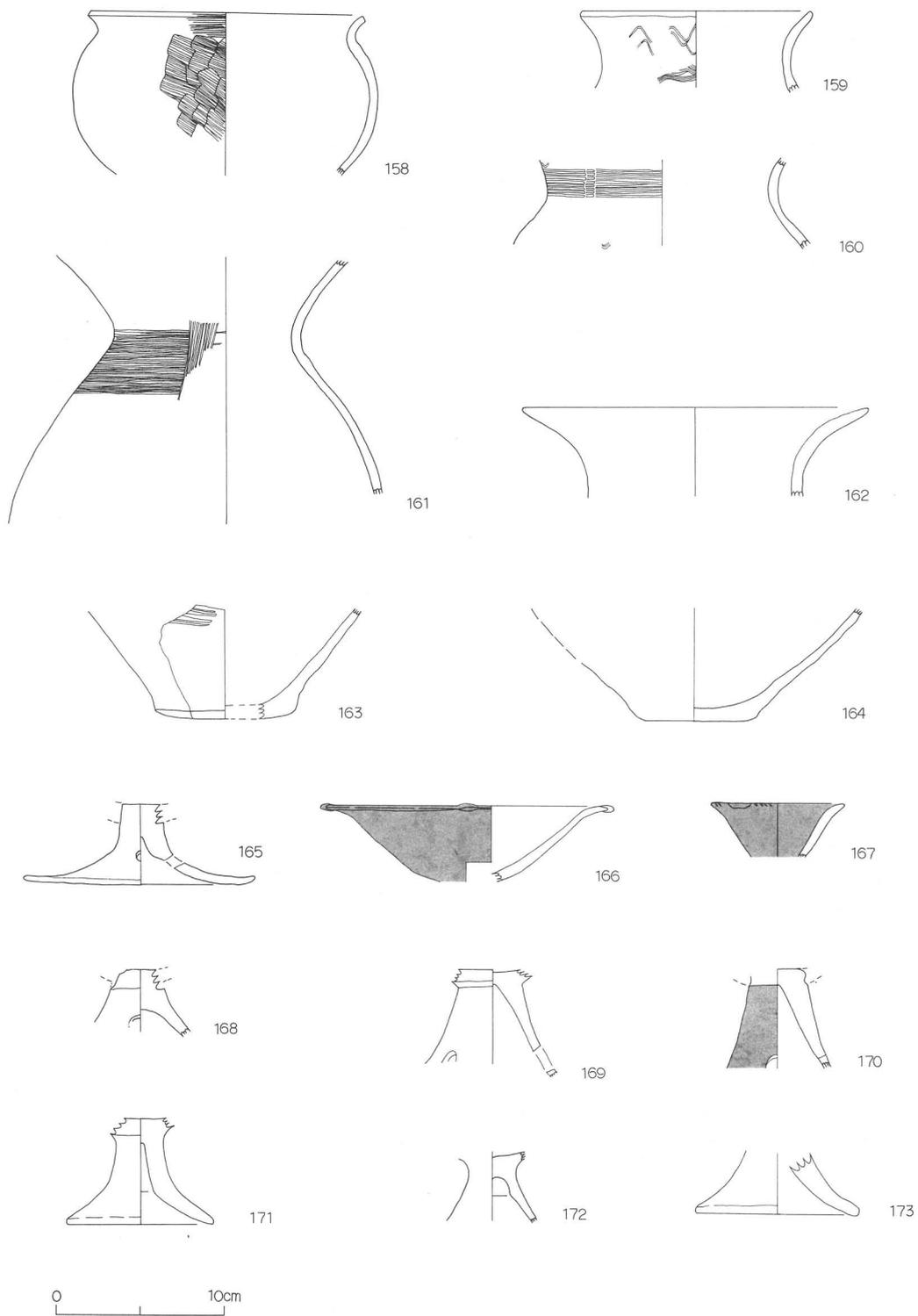
第81图 46·47·50号住居跡出土土器



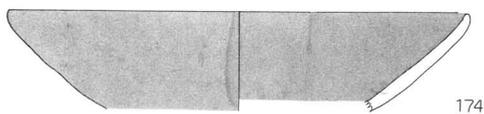
第82图 1·4号沟迹出土土器



第 8 3 图 4 号沟迹出土土器



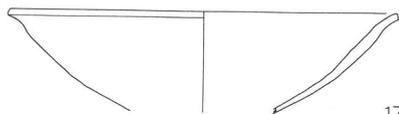
第84图 4号沟迹出土土器



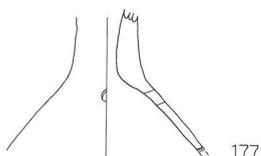
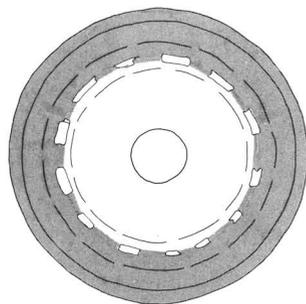
174



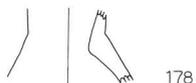
176



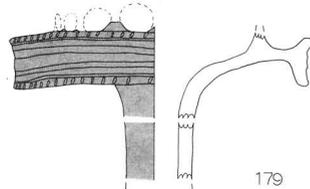
175



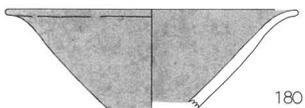
177



178



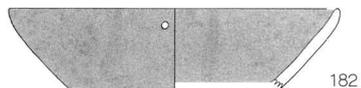
179



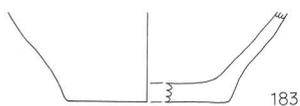
180



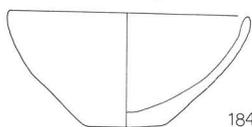
181



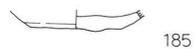
182



183



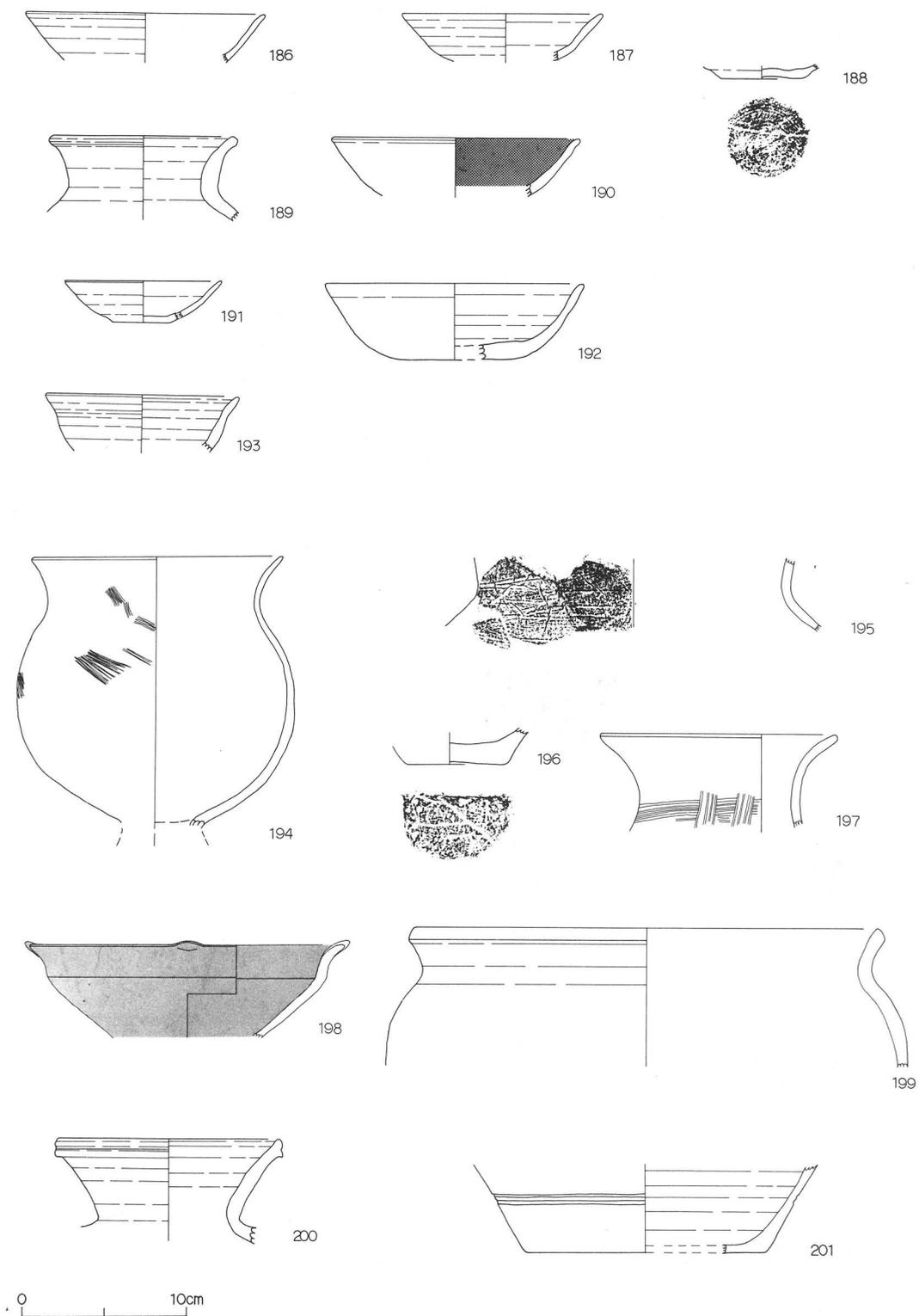
184



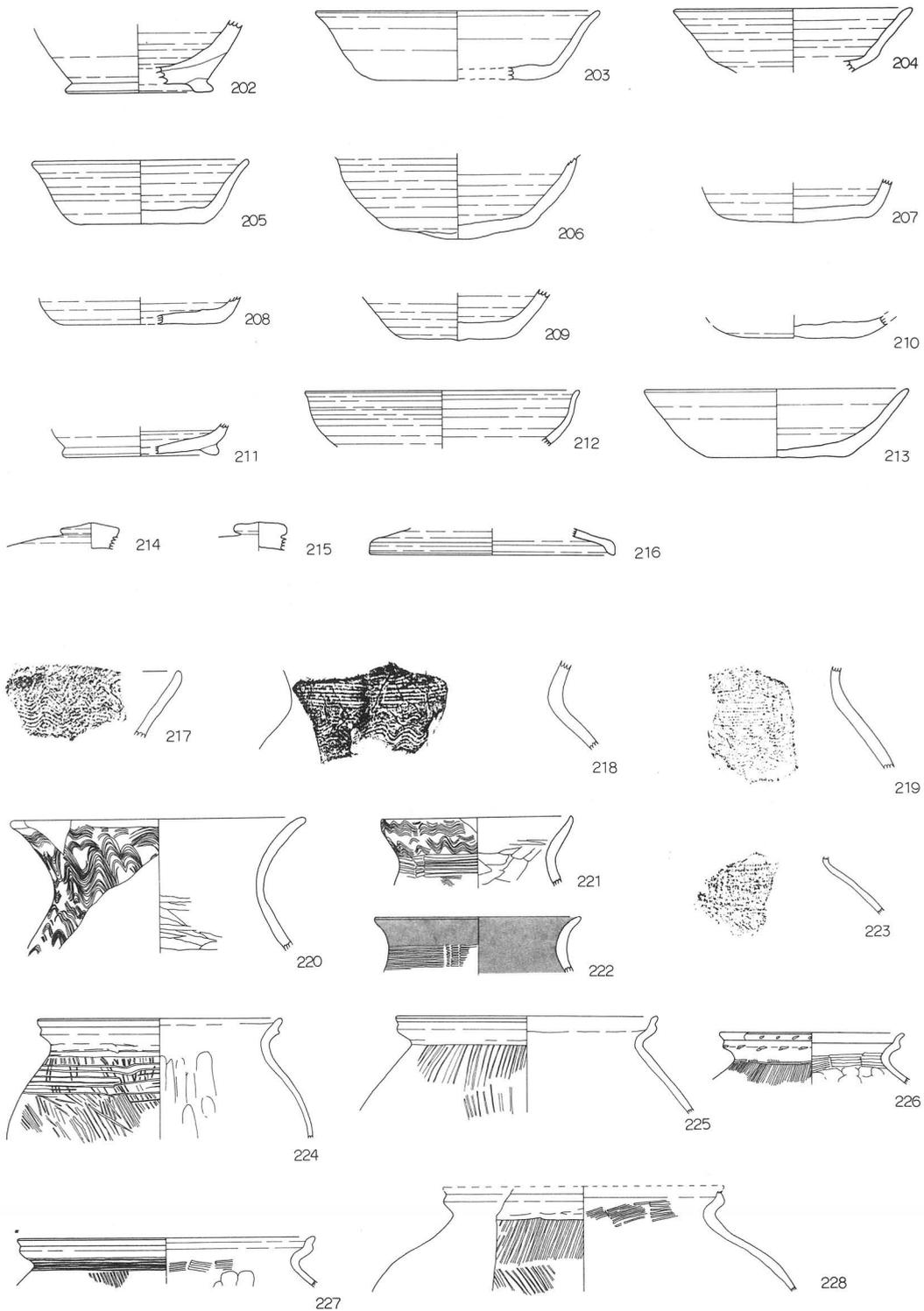
185



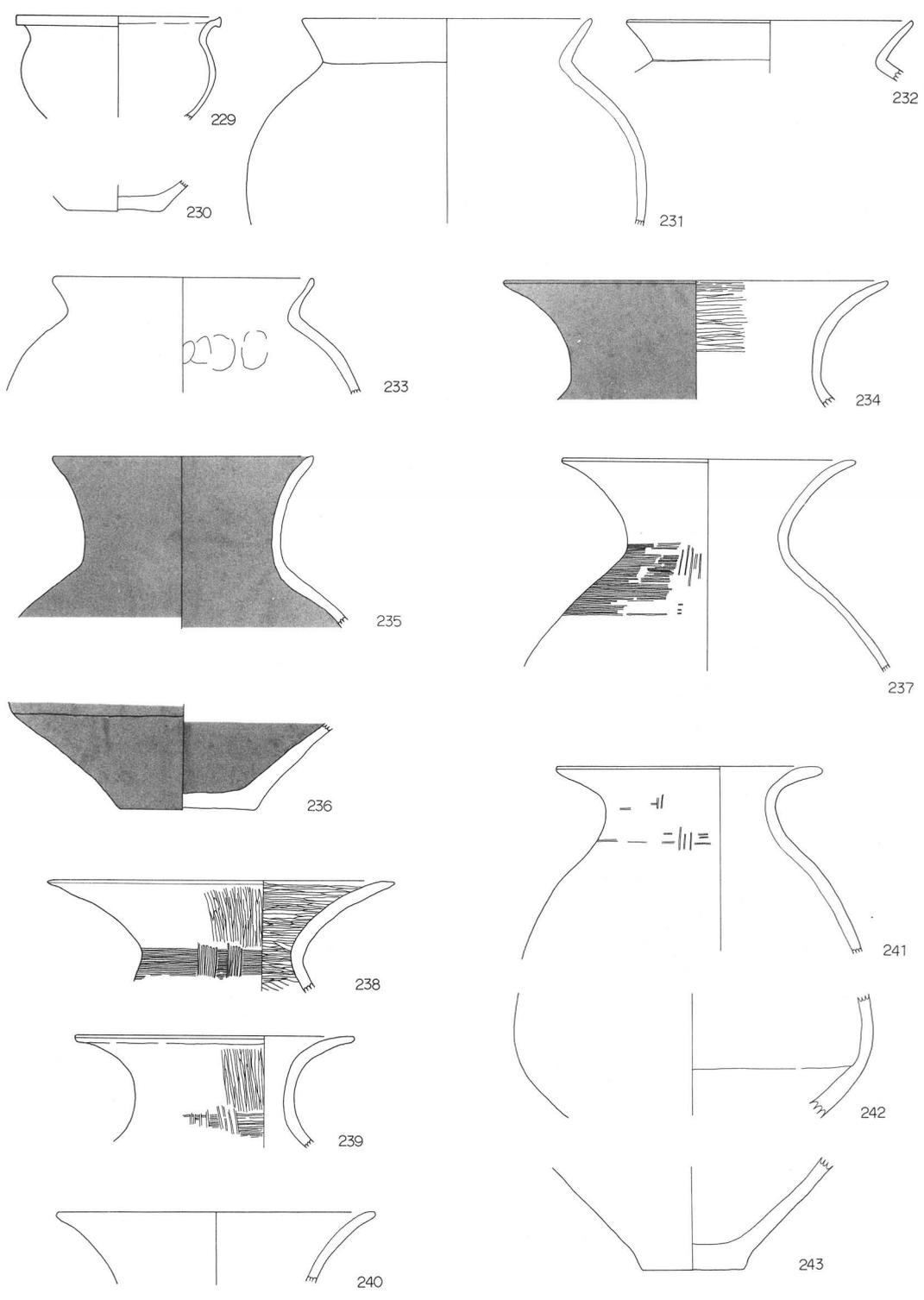
第85图 4·7·11·13号沟迹出土土器



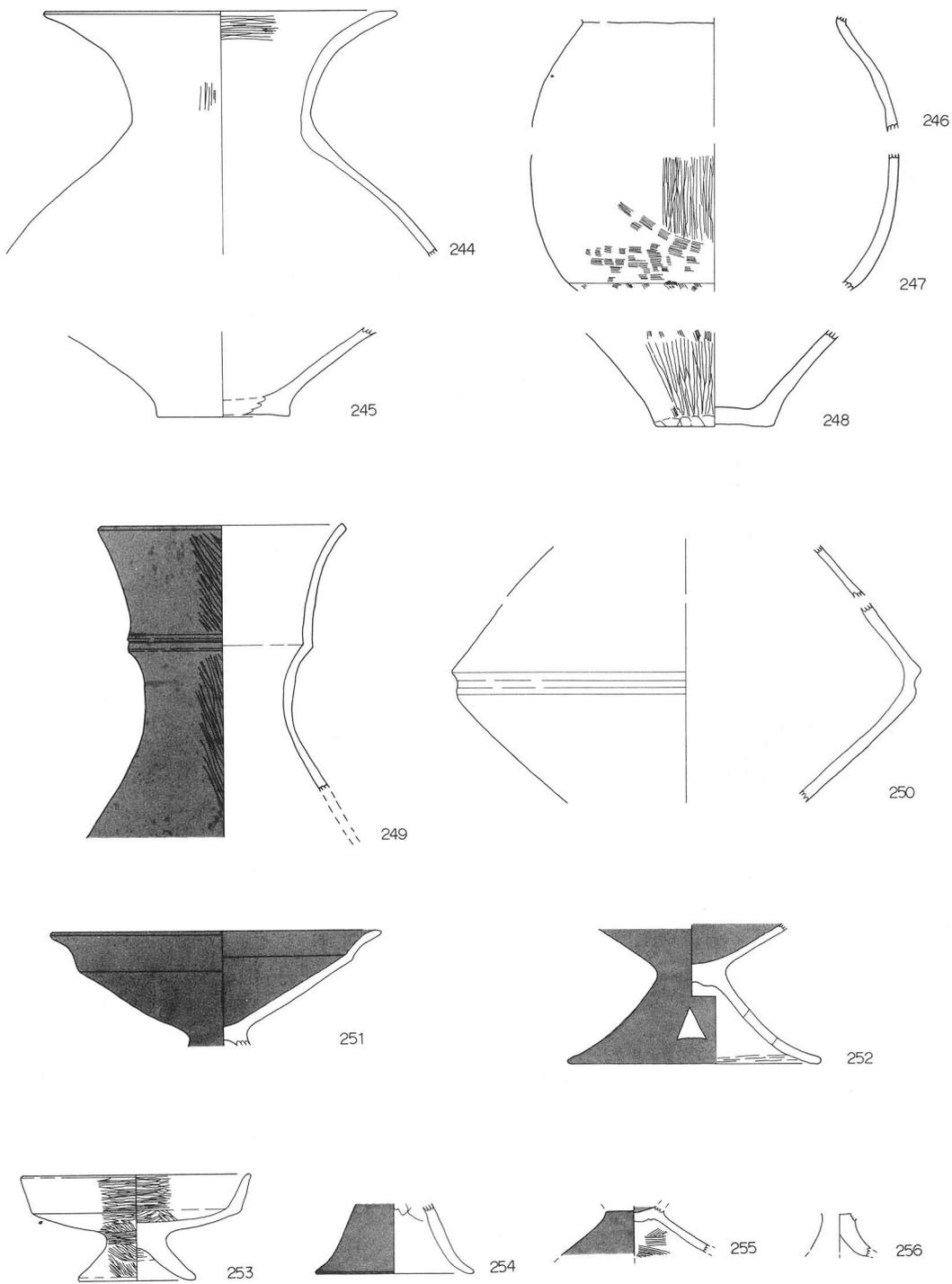
第86图 20·21·25·29·31·36号沟迹出土土器



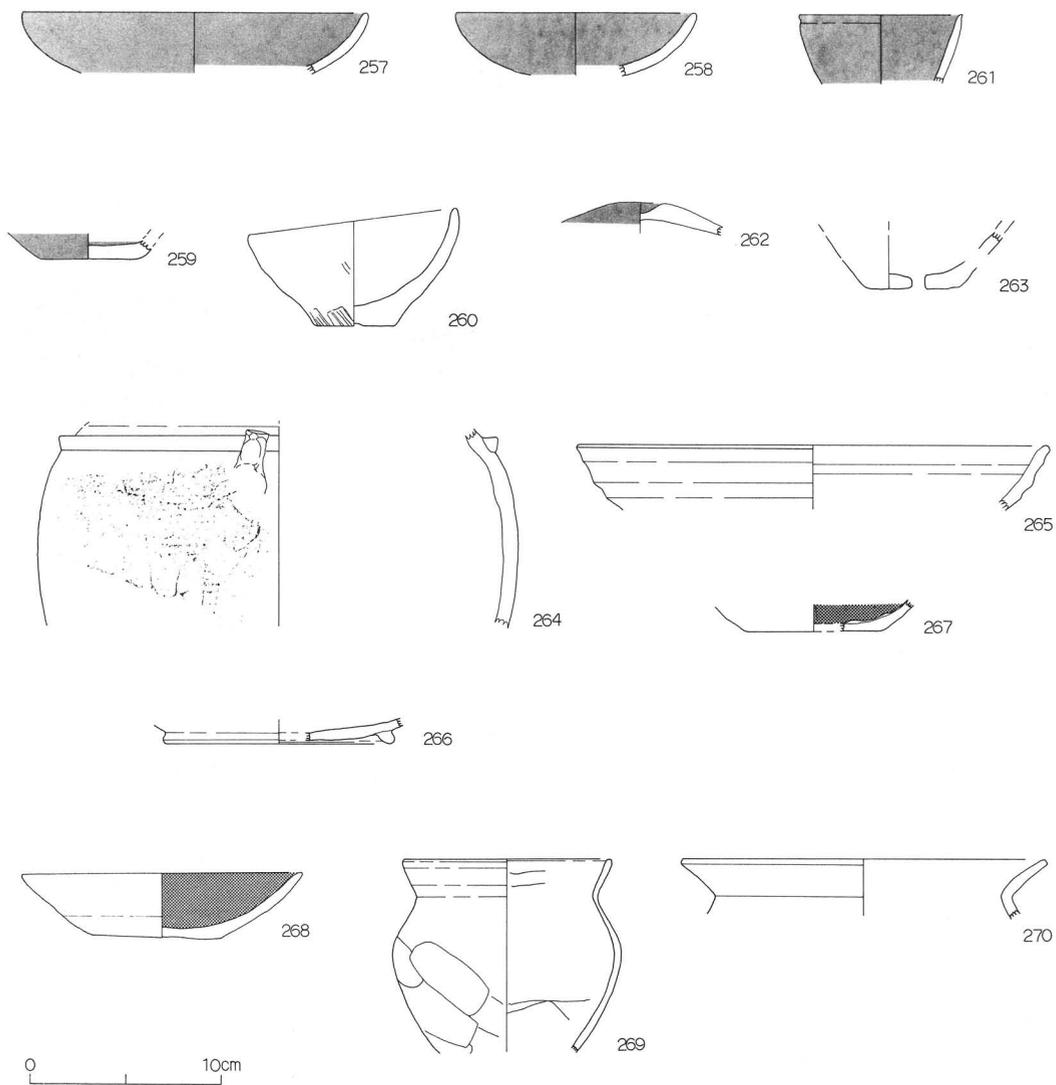
第87图 36·51号沟迹出土土器



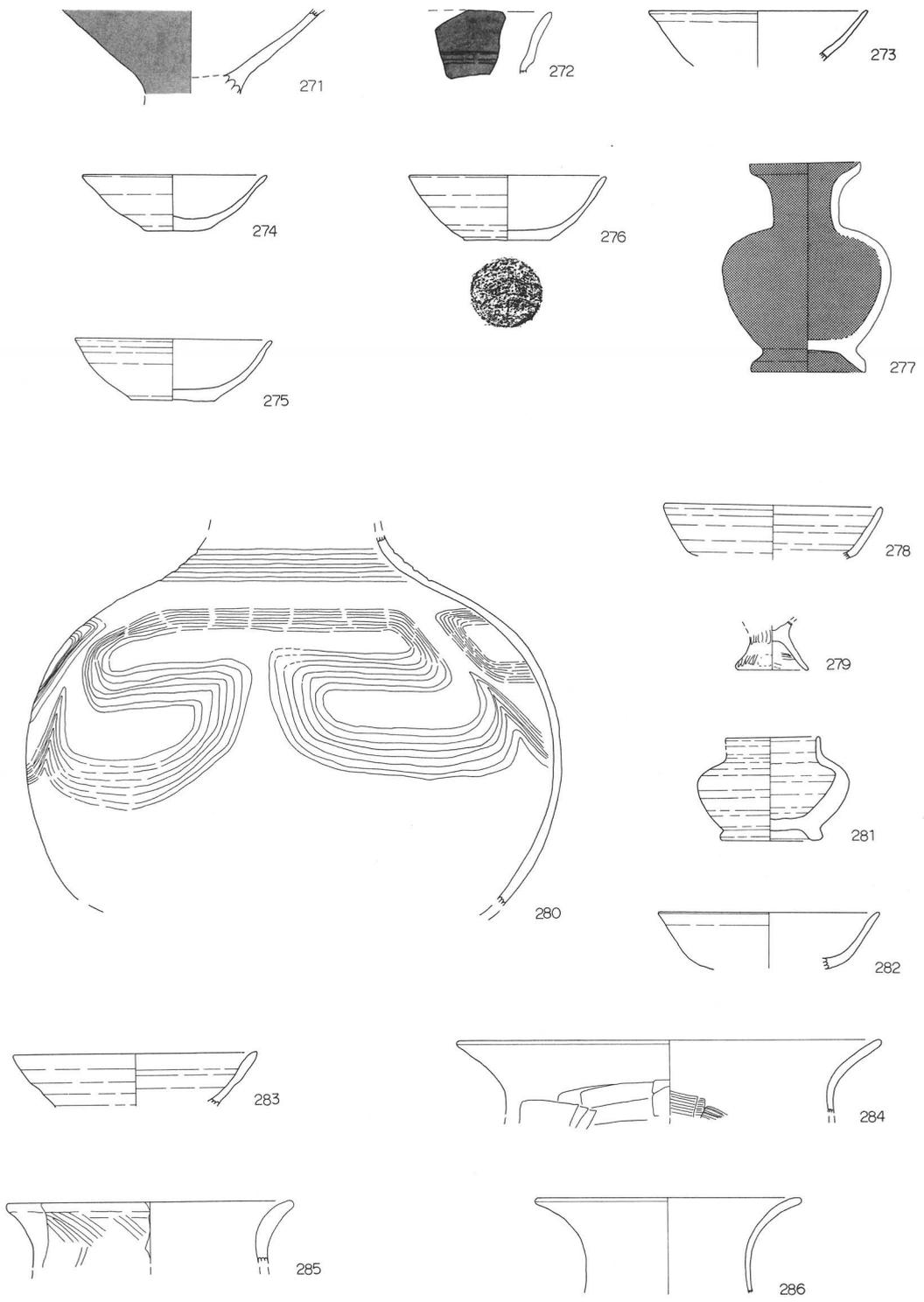
第 8 8 图 5 1 号沟迹出土土器



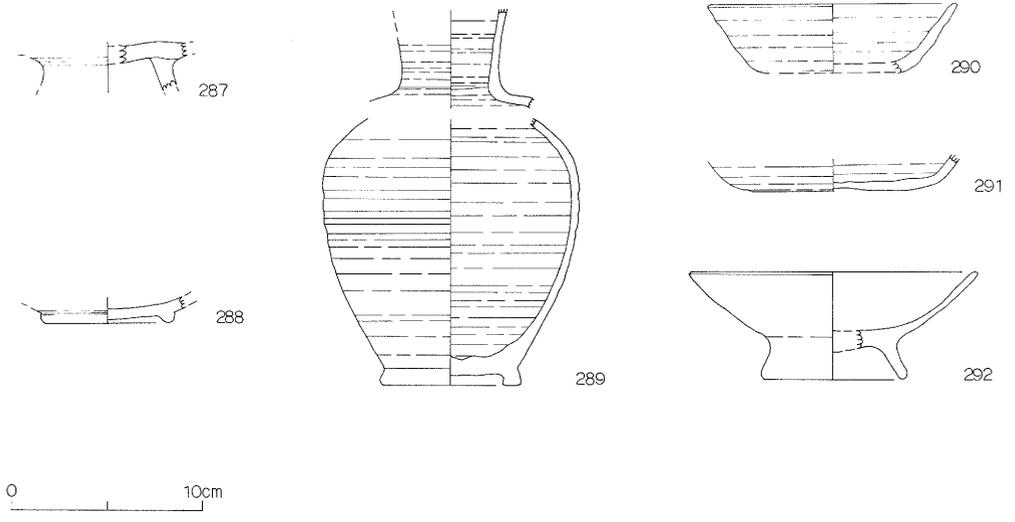
第89图 51号沟迹出土土器



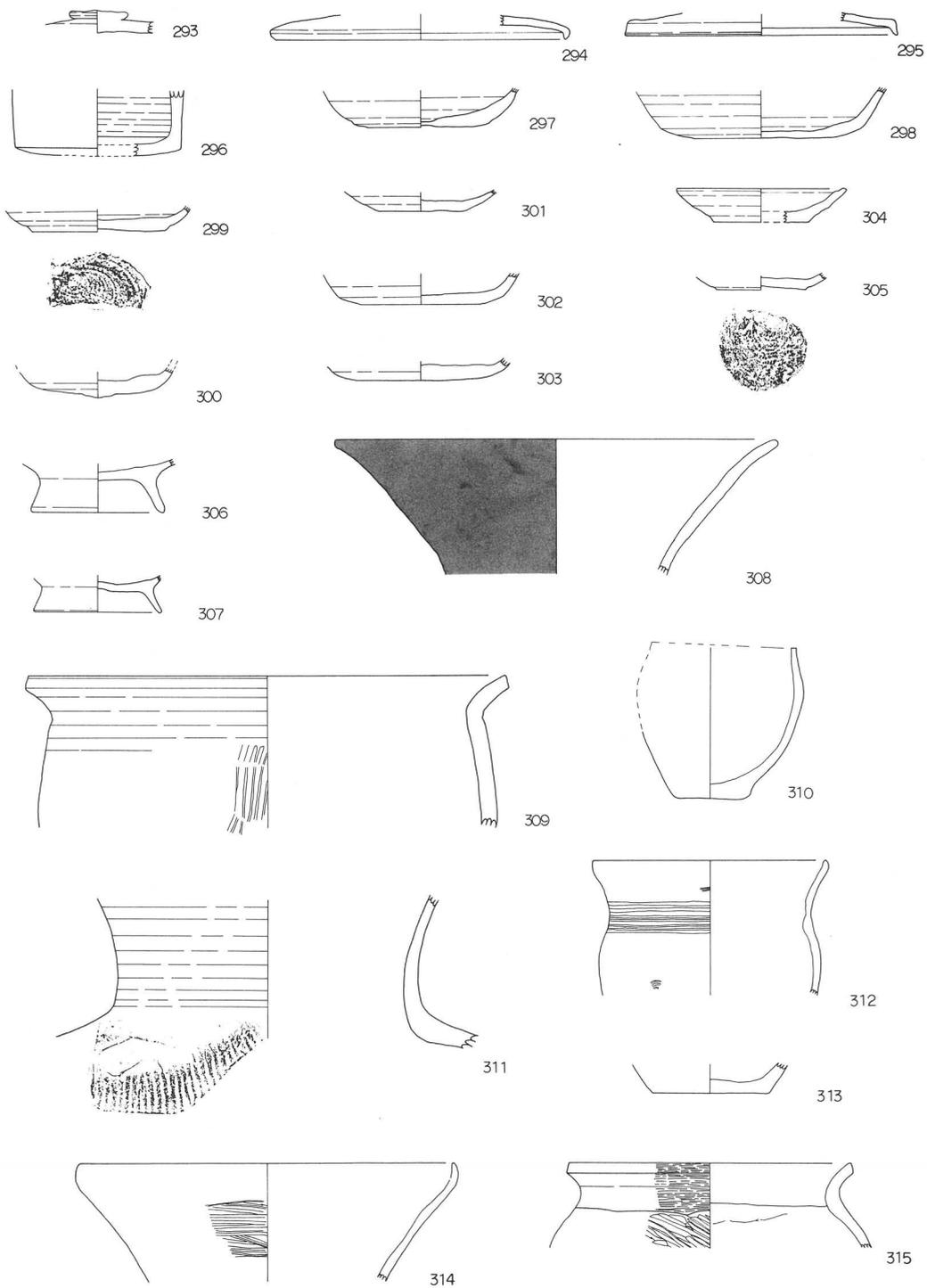
第90图 51·52·54·55号沟迹出土土器



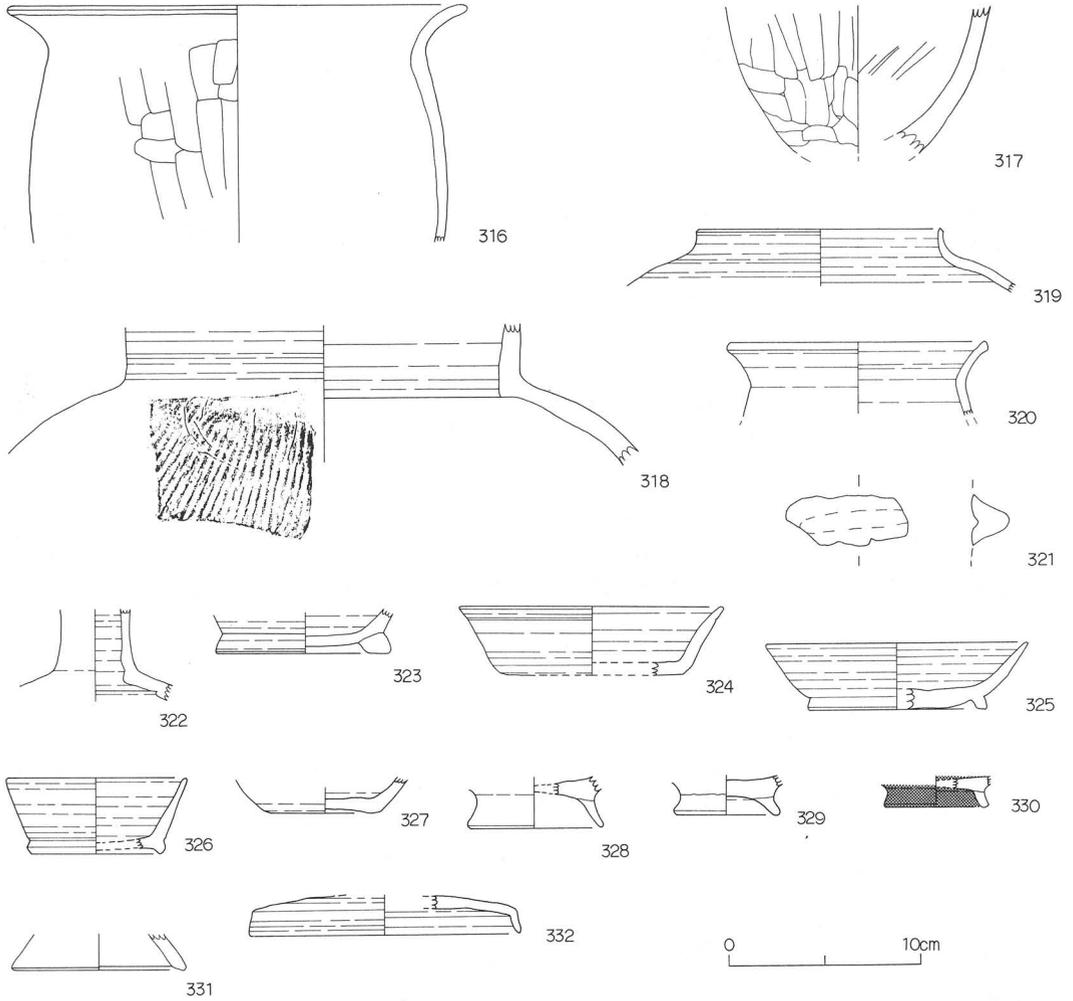
第91圖 土坑出土土器



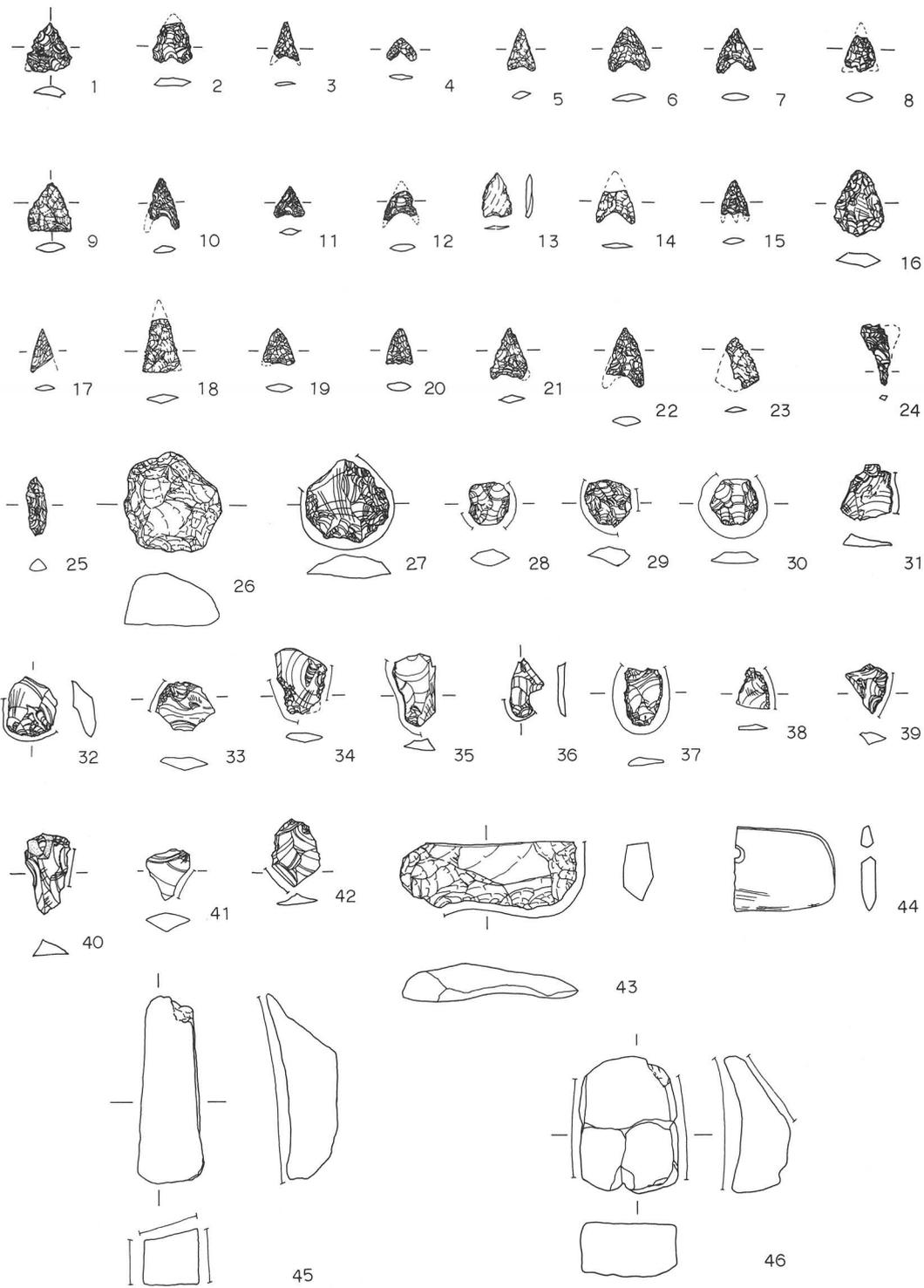
第92圖 土坑出土土器



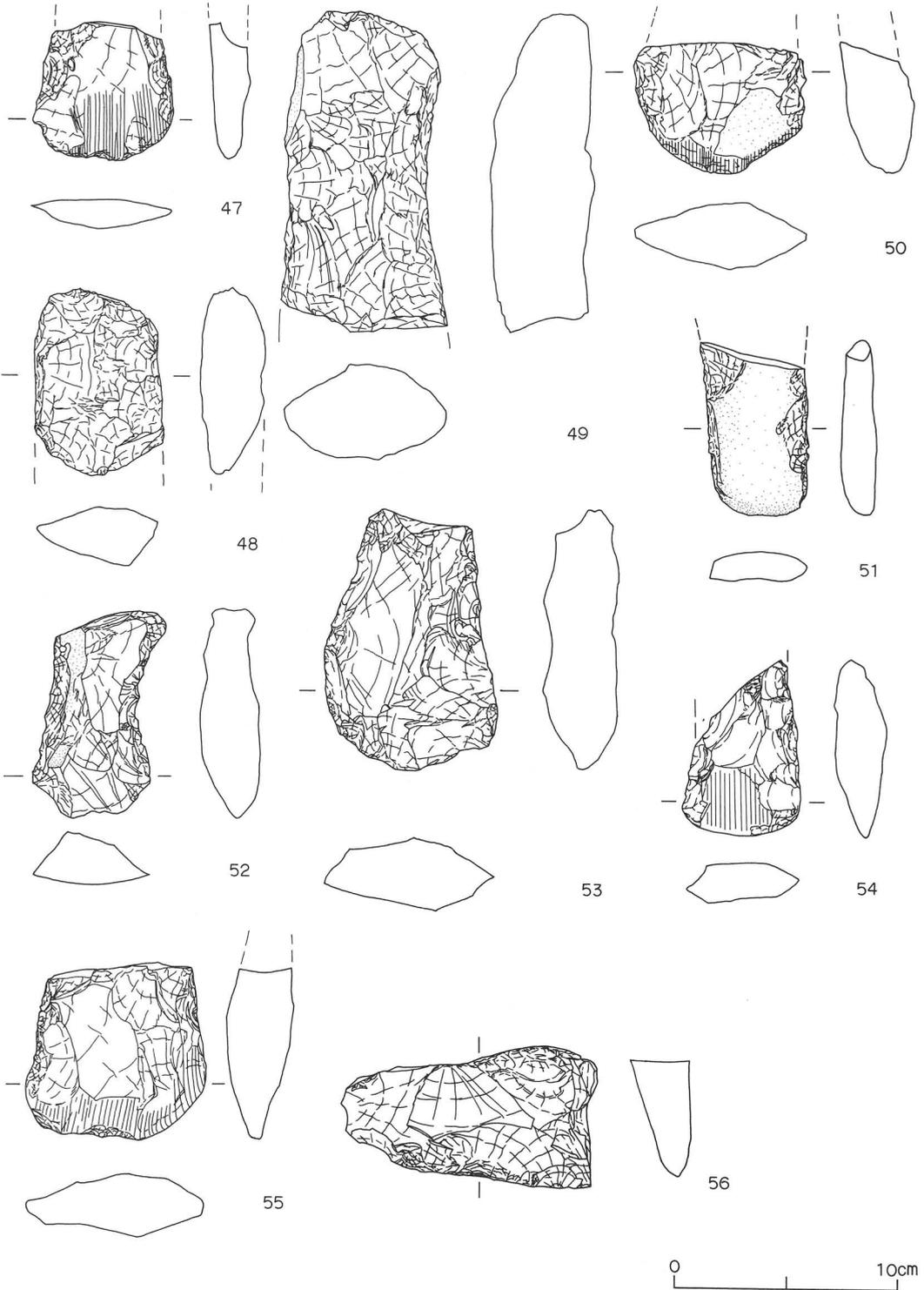
第93圖 遺構外出土土器



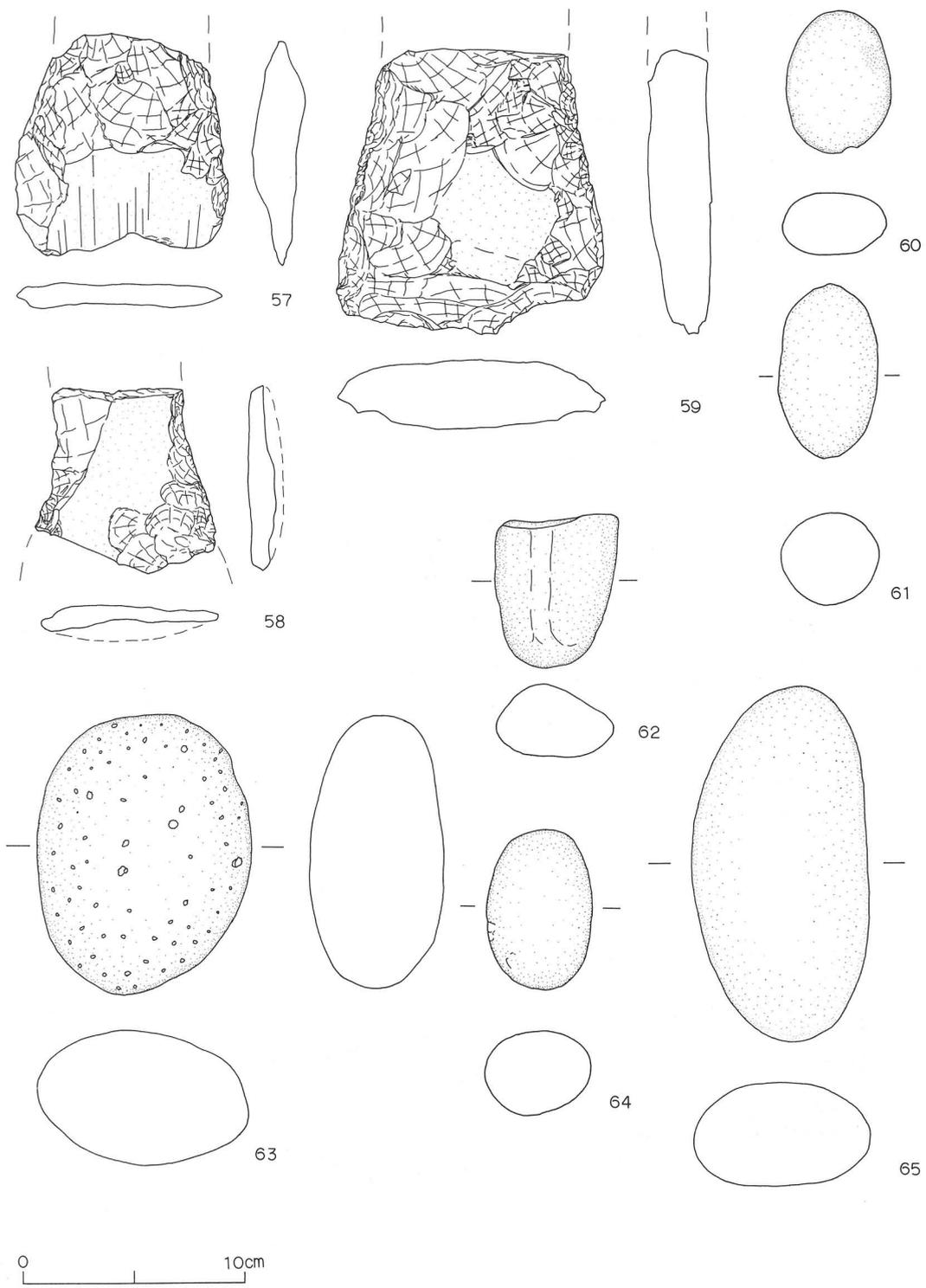
第94圖 遺構外出土土器



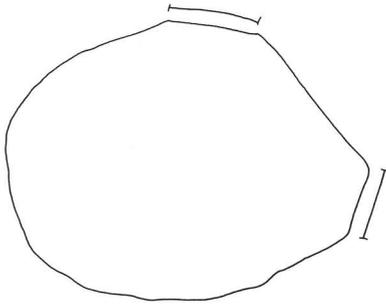
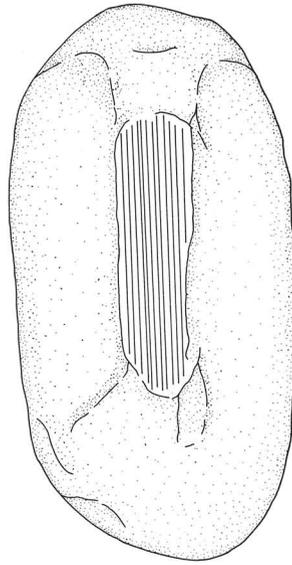
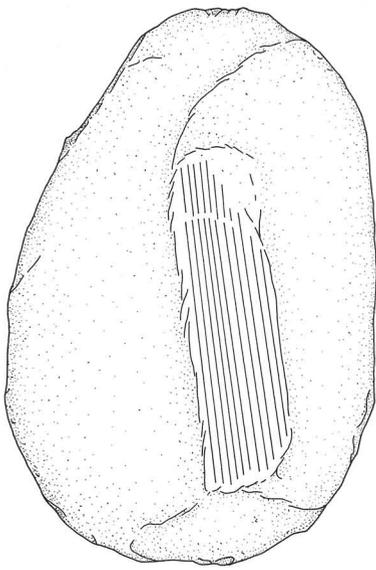
第95図 石器・その他



第96図 石器・その他



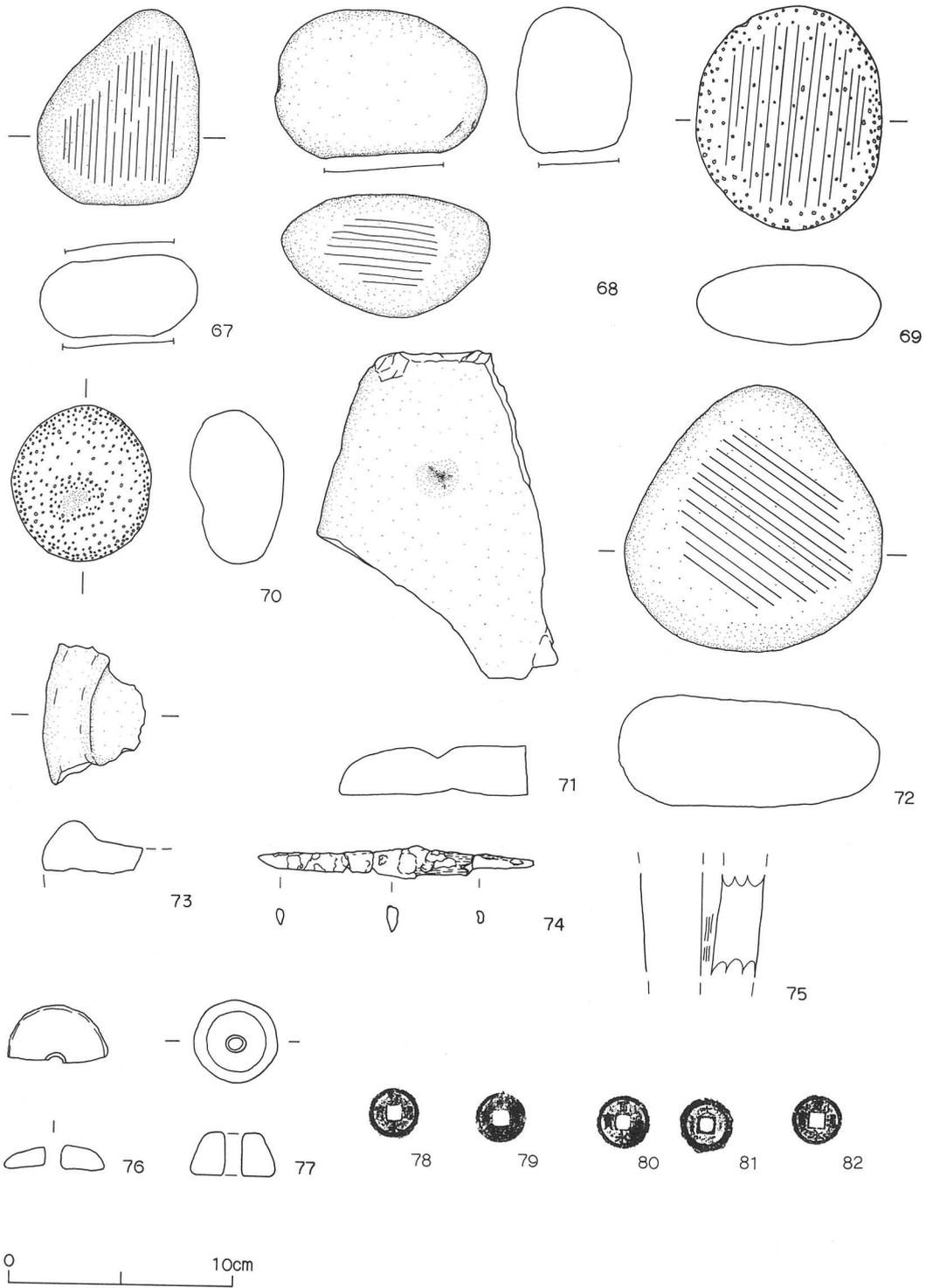
第97図 石器・その他



66

0 10cm

第98図 石器・その他



第99図 石器・その他

(1) 遺物一覽表

① 住居跡出土土器

N O.	出土遺構	A器種B器形C文様D製作技法の特徴	a色調b胎土c焼成	残率
1	SB-01	A甕 C斜状文、頸部に簾状文 D器面荒れており調整等不明	a黒灰色 b白色・茶色粒子含む c良好	1/4
2	SB-01	A甕	a外面黒茶褐色、内面茶褐色 b砂粒・茶色粒子含むc良好	1/4
3	SB-01	A甕 C波状文、頸部に簾状文 D器面荒れており調整等不明	a赤茶褐色 b砂粒含む c良好	2/3
4	SB-01	A甕 B短胎土器 C波状文、頸部に簾状文 D器面荒れており調整等不明	a赤褐色 b砂粒・白色・茶色粒子含む cやや不良	
5	SB-01	A甕 D器面荒れており調整等不明	a赤茶褐色 b砂粒・白色・茶色粒子含む c良好	底部
6	SB-01	A甕	a赤茶褐色 b白色・茶色粒子含む c良好	底部
7	SB-01	A甕	a赤褐色 b砂粒・白色・茶色粒子含む c良好	底部
8	SB-01	A甕	a赤茶褐色 b白色・茶色粒子含む c良好	底部
9	SB-01	A甕 D器面荒れており調整等不明	a黒褐色 b茶色粒子含む c良好	1/6
10	SB-01	A壺 D内外面に赤彩	a茶褐色 b砂粒・茶色粒子含む c良好	1/4
11	SB-01	A壺 D外面に赤彩	a茶褐色 b砂粒・白色粒子含む c良好	1/3
12	SB-01	A高坏 D外面に赤彩	a茶褐色 b白色・茶色粒子含む c良好	1/4
13	SB-02	A杯 D器面荒れている。ロウロ調整	a白褐色 b茶色粒子含む c良好	1/2
14	SB-02	A杯 B高台付 D器面荒れている。ロウロ調整	a白褐色 b小石・茶色粒子含む c良好	底部
15	SB-03	A鉢 B片口 D内外面に赤彩	a黒灰色 b白色粒子含む c良好	1/4
16	SB-06~07	A甕 D器面荒れている。内面に刷毛痕	a茶褐色 b砂粒・白色粒子含む c良好	1/8
17	SB-06~07	A杯(須恵) Dロウロ調整	a黒灰色 b茶色粒子含む c良好	1/4
18	SB-06~07	A甕	a外面茶褐色・内面黒褐色 b白色粒子含む c良好	破片
19	SB-06~07	A甕? D器面荒れており調整等不明	a茶褐色 b小石含む c良好	1/5
20	SB-08~09	A甕 D器面荒れている。外面肩部ヘラズリと思われる	a赤褐色 b白色粒子含む c良好	1/3
21	SB-08~09	A甕(須恵) Dロウロ調整、外面叩き目	a青灰色 b白色粒子含む c良好	1/2
22	SB-08~09	A杯(須恵) Dロウロ調整、底部ヘラズリ	a赤灰色 c良好	1/2
23	SB-08~09	A杯(須恵) D底部ヘラズリ、器面荒れている	a白灰色 b白色粒子含む c良好	2/3
24	SB-10	A甕 C波状文、簾状文	a黒褐色 b砂粒・白色・茶色粒子含む c良好	破片
25	SB-10	A甕	a茶褐色 b砂粒・白色茶色粒子含む c良好	1/2
26	SB-11	A椀(灰釉) Dロウロ調整	a白灰色 c良好	1/5
27	SB-14~16	A椀 B高台付 Dロウロ調整	a黒灰色 b白色粒子含む c良好	1/4
28	SB-18	A甕 B口縁部がS字となる C頸部に沈線 D器面が荒れている。	a茶褐色 b白色・茶色粒子含む c良好	2/3

29	SB-18	A壺 D内外面に赤彩	a茶褐色 b砂粒・白色粒子含む c良好	1/5
30	SB-18	A壺	a黒茶褐色 b白色・茶色粒子含む c良好	1/2
31	SB-18	A高杯 D外面に赤彩	a白褐色 b砂粒・白色粒子含む c良好	
32	SB-18	A高杯 D外面に赤彩	a白褐色 b砂粒含む c良好	
33	SB-19	A壺(須恵) D胴部叩き目	a青灰色 b白色粒子含む c良好	1/8
34	SB-19	A杯(須恵) Dロクロ調整	a青灰色 b白色粒子含む c良好	1/4
35	SB-22	A壺 B長胴 D胴部ヘラケズリ	a赤褐色 b白色粒子含む c良好	1/4
36	SB-22	A壺 B長胴 D胴部ヘラケズリ、器面荒れている	a赤褐色 b砂粒・白色粒子含む c良好	1/8
37	SB-22	A壺 D外面ヘラケズリ	a赤褐色 b砂粒・白色粒子含む c良好	1/2
38	SB-25	A壺 B有段口縁	a黒褐色 b小石含む c良好	1/2
39	SB-25	A壺 D器面荒れており調整等不明	a赤褐色 b砂粒・白色粒子含む c良好	1/2
40	SB-25	A壺 B有段口縁 C外面赤彩	a白褐色 b小石・白色・茶色粒子含む cやや不良	1/3
41	SB-25	A壺 C波状文、頸部に簾状文	a黒茶褐色 b白色・茶色粒子含む c良好	1/4
42	SB-25	A壺	a外面赤褐色、内面白褐色 b小石含む c良好	底部
43	SB-25	A壺 D器面荒れている	a赤褐色 b砂粒含む c良好	1/2
44	SB-25	A鉢 D内外面赤彩	a茶褐色 b小石含む c良好	1/4
45	SB-25	A鉢 B片口 D内外面赤彩	a茶褐色 b砂粒・白色粒子含む c良好	完形
46	SB-25	A高杯 B口縁部端に面取り、杯部に稜をもつ	a茶褐色 b小石・白色粒子含む c良好	1/4
47	SB-25	A高杯 D器面荒れている	a茶褐色 b砂粒・白色粒子含む c良好	
48	SB-25	A高杯 D内外面赤彩	a茶褐色 b白色粒子含む c良好	
49	SB-26~27	A杯 B高台付 Dロクロ調整	a茶褐色 b白色・茶色粒子含む c良好	1/3
50	SB-26~27	A杯 B高台付 Dロクロ調整	a茶褐色 b白色粒子含む c良好	底部
51	SB-26~27	A皿(須恵) Dロクロ調整	a黒灰色 b白色粒子含む c良好	2/3
52	SB-28	A杯 B高台付 Dロクロ調整、器面荒れている	a赤褐色 b小石・白色粒子含む c良好	2/3
53	SB-28	A杯 B高台付 Dロクロ調整、器面荒れている	a赤褐色 b小石・茶色粒子含む c良好	1/2
54	SB-28	A杯 B高台付 Dロクロ調整、器面荒れている	a白褐色 b小石・茶色粒子含む c良好	底部
55	SB-28	A杯 B高台付 Dロクロ調整、器面荒れている	a白褐色 b砂粒・茶色粒子含む c良好	
56	SB-28	A杯 B高台付 Dロクロ調整、器面荒れている	a茶褐色 b白色・茶色粒子含む c良好	底部
57	SB-28	A杯 Dロクロ調整、器面荒れている、内面黒色処理	a外面赤褐色、内面白褐色 b茶色粒子含む c良好	底部
58	SB-28	A杯 Dロクロ調整、底部回転糸切り、器面荒れている	a赤褐色 b小石・茶色粒子含む c良好	2/3
59	SB-28	A杯 Dロクロ調整、底部回転糸切り、器面荒れている	a赤褐色 b小石・茶色粒子含む c良好	完形
60	SB-28	A杯 Dロクロ調整、底部回転糸切り、器面荒れている	a白褐色 b砂粒・白色粒子含む c良好	完形
61	SB-28	A杯 Dロクロ調整、底部回転糸切り、器面荒れている	a赤褐色 b小石・茶色粒子含む c良好	1/3

6 2	SB-28	A坏 Dロクロ調整、底部回転系切り、器面荒れている	a白褐色 b小石・茶色粒子含む c良好	底部
6 3	SB-29	A甕 D器面荒れている	a白褐色 b小石・白色・茶色粒子含む c良好	1/4
6 4	SB-29	A坏 D底部ヘラケズリ、内面黒色処理、器面荒れている	a赤褐色 b小石・茶色粒子含む c良好	2/3
6 5	SB-29	A坏(須恵) Dロクロ調整	a赤褐色 c良好	1/5
6 6	SB-31	A甕(須恵) D外面叩き目	a青灰色 b小石含む c良好	破片

6 7	SB-35	A坏 D外面胴部ヘラケズリ、内面ヘラミガキ・黒色処理	a外面赤褐色、内面黒褐色 b小石。砂粒含む c良好	1/4
6 8	SB-36	A甕	a赤褐色 b砂粒含む c良好	1/8
6 9	SB-36	A甕 D外面胴部ヘラケズリ	a赤茶褐色 c良好	1/8
7 0	SB-37	A坏(須恵) Dロクロ調整	a青灰色 b白色粒子含む c良好	1/4
7 1	SB-38	A坏(須恵) Dロクロ調整、底部ヘラケズリ	a外面白褐色、内面灰色 b白色粒子含む cやや不良	1/3
7 2	SB-39	A横瓶 B胴部袋形 D胴部外面に叩き目	a白茶褐色 b小石混じる、緻密 cやや不良	2/3
7 3	SB-39	A甕 D胴部外面ヘラケズリ、口縁部ハケナデ、底部葉状痕	a白褐色～赤褐色 b小石混じる c良好	2/3
7 4	SB-39	A坏 Dロクロ調整、底部ヘラケズリ	a白茶褐色 b白色粒子含む cやや不良	2/3
7 5	SB-39	A坏	a白褐色 b茶色粒子含む c良好	1/4
7 6	SB-39	A坏 Dロクロ調整、底部回転系切り	a白褐色 b茶色粒子含む c良好	1/2
7 7	SB-39	A坏(須恵) B高台付 Dロクロ調整、底部回転ヘラケズリ	a青灰色 b白色粒子含む c良好	1/4
7 8	SB-40	A坏 B体部丸みをもつ D外面ヘラケズリ、内面黒色処理	a黒色～赤褐色 b砂粒含む c良好	1/2
7 9	SB-41	A壺 B胴部下半に稜をもつ	a赤褐色 b茶色粒子含む c良好	
8 0	SB-41	A高坏 B脚部に丸穴が4ヶ所にある D器面が荒れており調整等不明	a黒灰色～赤褐色 b茶色粒子含む c良好	脚部
8 1	SB-41	A坏(須恵) D器面が荒れており調整等不明	a黄灰色～赤灰色 b白色粒子含む c不良	1/4
8 2	SB-42	A坏(須恵) B高台付 Dロクロ調整、底部回転ヘラケズリ	a黒灰色 b白色粒子含む c良好	2/3
8 3	SB-42	A坏(須恵) Dロクロ調整、底部回転系切りの後にヘラケズリ	a黒灰色 b白色粒子含む c良好	1/2
8 4	SB-42	A壺 B折輪土器 D器面が荒れており調整等不明	a赤褐色 b砂粒含む cやや不良	
8 5	SB-43	A壺 B折輪土器 D器面が荒れており調整等不明	a赤褐色 b茶色粒子含む c良好	
8 6	SB-43	A高坏(脚部) D外面赤彩	a茶褐色 b白色粒子含む c良好	
8 7	SB-43	A器台(受部) D外面赤彩	a茶褐色 b白色粒子含む c良好	1/5
8 8	SB-44	A甕 D器面荒れており調整等不明	a外面黒茶褐色、内面茶褐色 b白色 茶色 粒子含む cやや不良	1/2
8 9	SB-44	A甕	a黄褐色 b砂粒・茶色粒子含む c良好	1/4
9 0	SB-44	A甕(須恵) Dロクロ調整、叩き目	a外面青赤灰色、内面赤灰色 b茶色・白色 粒子含む c良好	1/8
9 1	SB-44	A甕 D外面胴部ヘラケズリ	a赤褐色 b砂粒含む c良好	1/4
9 2	SB-44	A甕 B外面ハケ目調整、内面ヘラケズリの後ヘラミガキ	a外面赤褐色、内面白褐色b小石含むc良好	1/4

9 3	SB-44	A甕 D内面ヘラミガキ	a褐色 b白色粒子含む c良好	底部
9 4	SB-44	A横瓶(須恵) B胴部底形 D口縁部ロクロ調整、胴部外面叩き目	a黒灰色 b白色粒子含む c良好	完形
9 5	SB-44	A長胴甕 D口縁部ナデ、胴部外面ヘラケズリ、内面ミガキ	a赤褐色 b砂粒含む c良好	1/2
9 6	SB-44	NO. 95と同一の土器 ・ カマド内出土		
9 7	SB-44	A長胴甕 D外面ヘラケズリ	a白灰色 b砂粒含む c良好	1/5
9 8	SB-44~46	A甕	a外面白褐色、内面赤褐色 b茶色粒子含む c良好	底部
9 9	SB-44	A杯 Dロクロ調整、内面黒色処理	a白褐色 b砂粒含む c良好	底部
1 0 0	SB-44	A杯 D内面黒色処理	a茶褐色 b白色粒子含む c良好	1/4
1 0 1	SB-44	A杯(須恵) Dロクロ調整	a青灰色 b小石含む c良好	1/4
1 0 2	SB-44	Aふた(須恵) Dロクロ調整	a外面白灰色、内面赤褐色 b白色粒子含む cやや不良	2/3
1 0 3	SB-44~46	A杯 B高台付 Dロクロ調整、底部回転系切り	a褐色 b砂粒含む c良好	底部
1 0 4	SB-44~46	A杯 B底部回転系切り	a茶褐色 b茶色・白色粒子含む c良好	底部
1 0 5	SB-44~45	A杯	a赤褐色 b白色粒子含む c良好	
1 0 6	SB-44~46	A杯 D内面黒色処理	a外面白褐色 b砂粒含む c良好	1/4
1 0 7	SB-44~46	A杯 Dロクロ調整、内面黒色処理	a外面白褐色 b茶色粒子含む c良好	1/4
1 0 8	SB-44~46	A杯(須恵) Dロクロ調整、底部回転系切り	a黒灰色 c良好	1/3
1 0 9	SB-44~46	A杯(須恵) Dロクロ調整、底部ヘラケズリ	a青灰色 b白色粒子含む c良好	4/5
1 1 0	SB-44~46	A杯(須恵) Dロクロ調整	a青灰色 b白色粒子含む c良好	1/4
1 1 1	SB-44~46	A椀(灰釉) Dロクロ調整	a白灰色 c良好	破片
1 1 2	SB-44	A杯(須恵) Dロクロ調整、底部回転系切り	a外面黒灰色、内面白灰色 c良好	1/4
1 1 3	SB-46	A甕	a茶褐色 b砂粒含む c良好	底部
1 1 4	SB-46	A杯 Dロクロ調整、内面黒色処理	a白褐色 b砂粒含む c良好	4/5
1 1 5	SB-46	A杯(須恵) B高台付 Dロクロ調整、底部ヘラケズリ	a灰白色 b白色粒子含む c良好	1/4
1 1 6	SB-46	A甕 B波状文、頸部に簾状文	a褐色 b白色粒子含む c良好	
1 1 7	SB-46	A甕 B波状文、頸部に簾状文	a黒茶褐色 b白色粒子含む c良好	
1 1 8	SB-46	A甕 B波状文、頸部に簾状文	a黒茶褐色 b白色粒子含む c良好	1/2
1 1 9	SB-46	A甕 B波状文 C外面ヘラミガキ、内面ハケナデ	a茶褐色 b茶色粒子含む c良好	2/3
1 2 0	SB-46	A高杯 B脚部に三角透かし C外面赤彩	a黄褐色 b白色粒子含む c良好	1/5
1 2 1	SB-46	A鉢 B片口 D内外面赤彩	a茶褐色 b砂粒含む c良好	完形
1 2 2	SB-47	A甕 D外面ヘラケズリ	a黒褐色 b小石含む c良好	1/8
1 2 3	SB-47	A杯(須恵) Dロクロ調整	a青灰色 b白色粒子含む c良好	1/5
1 2 4	SB-50	A杯 D内面黒色処理、外面荒れており調整等不明	a灰白色 b白色・茶色粒子含む c良好	底部

② 溝跡出土土器

1 2 5	SD-01	A甕 B有段口縁	a黒褐色 b砂粒含む c良好	破片
1 2 6	SD-01	A甕 B有段口縁、口縁部に4本の縦凹線	a外面黒褐色、内面白褐色 b砂粒含む c良好	破片
1 2 7	SD-01	A甕 B有段口縁、口縁部に4本の縦凹線	a茶褐色 b茶色粒子含む c良好	1/8
1 2 8	SD-01	A甕 D器面が荒れており調整等不明	a赤褐色 b白色粒子含む c良好	底部
1 2 9	SD-01	A甕 D器面が荒れており調整等不明	a白褐色 b砂粒含む c良好	1/4
1 3 0	SD-01	A甕 C波状文、頸部に簾状文 D器面が荒れている	a黒褐色 b白色粒子含む c良好	1/6
1 3 1	SD-01	A壺	a白褐色 b白色粒子含む c良好	底部
1 3 2	SD-01	A鉢 D外面赤彩	a茶褐色 b白色・茶色粒子含む c良好	1/2
1 3 3	SD-01	A高杯 D器面が荒れている	a茶褐色 b砂粒含む c良好	破片
1 3 4	SD-01	A高杯 C脚部に三角透かし窓 D外面赤彩	a茶褐色 b白色・茶色粒子含む c良好	1/4
1 3 5	SD-01	A高杯 D外面赤彩	a白褐色 b砂粒・白色・茶色粒子含む c良好	1/4
1 3 6	SD-01	A高杯	a赤褐色 b白色粒子含む c良好	1/3
1 3 7	SD-01	A鉢 D内外面赤彩	a赤褐色 b白色粒子含む c良好	1/2
1 3 8	SD-01	A鉢 B有段口縁	a赤褐色 b小石含む c良好	1/4
1 3 9	SD-04	A甕 D器面が荒れており調整等不明	a赤褐色 b白色粒子含む c良好	1/6
1 4 0	SD-04	A甕 D器面が荒れており調整等不明	a赤褐色 b茶色粒子含む c良好	1/4
1 4 1	SD-04	A甕 B口縁部端に面取り D器面荒れている	a赤褐色 b小石含む c良好	破片
1 4 2	SD-04	A台付甕 B台付 D器面荒れている	a赤褐色 b白色粒子含む c良好	台部
1 4 3	SD-04	A甕 BS字口縁 D外面くし状工具で沈線、内面ハケナデ	a外面黒褐色、内面白褐色 b砂粒・白色・ 茶色粒子含む c良好	1/4
1 4 4	SD-04	A壺	a白褐色 b小石・茶色粒子含む c良好	1/5
1 4 5	SD-04	A甕 D器面荒れており調整等不明	a赤褐色 b白色粒子含む c良好	1/2
1 4 6	SD-04	A甕 C口唇部端に刻み目が施されている D器面が荒れている	a赤褐色 b白色・茶色粒子含む c良好	1/5
1 4 7	SD-04	A甕 D器面荒れており調整等不明	a赤褐色 b砂粒・白色・茶色粒子含む c良好	1/4
1 4 8	SD-04	A甕 D器面荒れており調整等不明	a赤褐色 b砂粒・白色・茶色粒子含む c良好	1/2
1 4 9	SD-04	A甕 C頸部に簾状文 D器面荒れている	a外面黒褐色、内面白褐色 b白色・茶色粒 子含む c良好	1/4
1 5 0	SD-04	A甕 D器面が荒れている(163と同一個体と思われる)	a外面黒茶褐色、内面白茶褐色 b小石・茶 色粒子含む c良好	1/6
1 5 1	SD-04	A甕 D器面荒れており調整等不明	a赤褐色 b白色・茶色粒子含む c良好	底部
1 5 2	SD-04	A甕 C波状文	a外面赤褐色、内面褐色 b砂粒含む c良好	1/4
1 5 3	SD-04	A甕	a黒茶褐色 b砂粒含む c良好	1/4
1 5 4	SD-04	A甕	a赤褐色 b茶色粒子含む c良好	底部

155	SD-04	A台付甕 B台付	a赤褐色 b砂粒・白色粒子含む c良好	
156	SD-04	A台付甕 B台付 D器面が荒れており調整等不明、外面に斜めのハケ目	a赤褐色 b小石・白色粒子含む c良好	1/4
157	SD-04	A長胴甕 D脚部ヘラケズリ	a赤褐色 b白色粒子含む c良好	1/3
158	SD-04	A甕 B口縁部端に面取り D器面に強いハケ目	a赤茶褐色 b小石含む c良好	1/4
159	SD-04	A甕 C波状文 D器面荒れている	a白褐色 b小石含む c良好	1/4
160	SD-04	A甕 C波状文、頸部に廉状文 D器面が荒れている	a外面白褐色、内面赤褐色 b白色・茶色粒子含む c良好	1/4
161	SD-04	A壺 CT字文 D器面荒れており調整等不明	a白褐色 b白色・茶色粒子含む c良好	
162	SD-04	A壺	a茶褐色 b白色粒子含む c良好	1/6
163	SD-04	A甕 D器面荒れている	a外面黒茶褐色、内面黒灰色 b小石・白色粒子含む c良好	1/3
164	SD-04	A壺 D器面荒れており調整等不明	a外面白褐色、内面黒褐色 b砂粒・白色粒子含む c良好	底部
165	SD-04	A高坏 D脚部に4ヶ所に丸い透かし窓	a赤褐色 b砂粒・茶色粒子含む c良好	脚部
166	SD-04	A高坏 D外面赤彩、内面不明	a茶褐色 b砂粒・茶色粒子含む c良好	1/5
167	SD-04	A高坏 C内外面赤彩、口唇部に刻み目	a茶褐色 b小石・白色粒子含む c良好	1/5
168	SD-04	A高坏 D脚部に3ヶ所丸い透かし窓	a茶褐色 b砂粒・茶色粒子含む c良好	脚部
169	SD-04	A高坏 D脚部に3ヶ所丸い透かし窓	a黒茶褐色 b砂粒・茶色粒子含む c良好	脚部
170	SD-04	A高坏 C外面赤彩 D脚部に3ヶ所丸い透かし窓	a赤茶褐色 b小石・白色粒子含む c良好	脚部
171	SD-04	A高坏 D器面荒れている	a赤褐色 b白色粒子含む c良好	脚部
172	SD-04	A高坏 D器面荒れている	a黒赤褐色 b砂粒・白色粒子含む c良好	
173	SD-04	A高坏 D器面荒れている	a茶褐色 b砂粒 c良好	1/2
174	SD-04	A鉢 C内外面赤彩	a茶褐色 b砂粒・白色粒子含む c良好	1/6
175	SD-04	A高坏(鉢?) C器面荒れている	a黒灰褐色 b小石・白色粒子含む cやや不良	1/6
176	SD-04	A坏(須臾) B高台付 Dロクロ調整、底部回転ヘラケズリ	a白灰色 c良好	1/2
177	SD-04	A器台 D脚部に4ヶ所丸い透かし窓	a茶褐色 b砂粒含む c良好	
178	SD-04	A器台	a白褐色 b小石含む c良好	
179	SD-04	A器台 C髷凹線、刻み目 D外面赤彩	a黒茶褐色 b白色粒子含む cやや不良	
180	SD-07	A高坏 D内外面赤彩	a茶褐色 b白色粒子含む c良好	1/4
181	SD-07	A高坏 D外面赤彩	a茶褐色 b白色粒子含む c良好	
182	SD-07	A鉢 D内外面赤彩	a茶褐色 b砂粒・白色粒子含む c良好	1/8
183	SD-13	A甕 D器面荒れている	a茶褐色 b砂粒・白色粒子含む c良好	1/2
184	SD-13	A鉢 D器面荒れている	a白褐色 b小石・白色・茶色粒子含む c良好	完形
185	SD-11	A坏 Dロクロ調整、底部回転系切り	a白褐色 b砂粒・白色粒子含む c良好	底部

186	SD-20	A坏 Dロケ口調整	a白褐色 b茶色粒子含む c良好	1/4
187	SD-20	A坏 Dロケ口調整	a白褐色 b茶色粒子含む c良好	1/4
188	SD-20	A坏 Dロケ口調整、底部回転糸切り	a赤褐色 b砂粒含む c良好	底部
189	SD-21	A甕(須恵) Dロケ口調整	a青灰色 b白色粒子含む c良好	1/4
190	SD-25	A坏 Dロケ口調整、内面黒色処理	a白褐色 b小石含む C良好	1/4
191	SD-29	A坏 Dロケ口調整	a赤褐色 b小石含む cやや不良	1/4
192	SD-29	A坏(須恵) Dロケ口調整、器面が荒れている	a白灰色 b白色粒子含む cやや不良	1/4
193	SD-31	A坏(須恵) Dロケ口調整	a外面白灰色、内面一部赤褐色 b白色粒子含む cやや不良	1/4
194	SD-36	A台付甕 B台付 D胴部外面ハケナデ	a茶褐色 b砂粒・白色粒子含む c良好	
195	SD-36	A甕 D外面斜状文、内面ヘラミガキ	a白褐色 b白色粒子含む c良好	1/5
196	SD-36	A甕 D底部に葉圧痕	a外面黒茶褐色、内面白褐色 b小石含む c良好	底部
197	SD-36	A壺 D器面が荒れており調整等不明	a褐色 b砂粒含む c良好	
198	SD-36	A高坏 D内外面赤彩	a褐色 b砂粒・茶色粒子含む c良好	1/2
199	SD-36	A甕(須恵) Dロケ口調整	a灰褐色 b茶色粒子含む c良好	1/5
200	SD-36	A甕(須恵) B口縁部に一本の隆線 Dロケ口調整	a白灰色 b白色粒子含む c良好	1/2
201	SD-36	A甕(須恵) Dロケ口調整、胴部外面に2本の沈線、底部ヘラケズリ	a青灰色 b白色粒子含む c良好	1/4
202	SD-36	A壺(須恵) Dロケ口調整、底部回転ヘラケズリ	a外面黒茶褐色、内面白褐色 b小石含む c良好	1/4
203	SD-36	A坏(須恵) Dロケ口調整、底部回転ヘラケズリ	a白灰色～褐色 b小石含む c不良	1/4
204	SD-36	A坏(須恵) Dロケ口調整	a黒灰色 b白色粒子含む c良好	1/4
205	SD-36	A坏(須恵) Dロケ口調整、底部ヘラケズリ	a青灰色 b白色粒子含む c良好	1/2
206	SD-36	A坏(須恵) Dロケ口調整、底部ヘラケズリ	a赤灰色 b白色粒子含む c良好	1/3
207	SD-36	A坏(須恵) Dロケ口調整、底部ヘラケズリ	a外面黒灰色、内面赤灰色 b小石含む c良好	底部
208	SD-36	A坏(須恵) Dロケ口調整、底部ヘラケズリ	a白灰色 b白色粒子含む c良好	1/4
209	SD-36	A坏(須恵) Dロケ口調整、底部ヘラケズリ	a青灰色 b白色粒子含む c良好	底部
210	SD-36	A坏(須恵) Dロケ口調整、回転糸切りの後ヘラ整形	a茶灰色 b白色粒子含む c良好	1/2
211	SD-36	A坏(須恵) B高台付 Dロケ口調整、底部ヘラケズリ	a黒灰色 b白色粒子含む c良好	1/3
212	SD-36	A桶(山茶碗) Dロケ口調整	a白灰色	1/8
213	SD-36	A坏(須恵) Dロケ口調整、底部回転糸切り	a黒灰色 c不良	完形
214	SD-36	Aふた(須恵) Dロケ口調整	a青灰色 b白色粒子含む c良好	つまみ部
215	SD-36	Aふた(須恵) Dロケ口調整	a外面黒赤灰色、内面赤茶灰色 b白色粒子含む c良好	つまみ部
216	SD-36	Aふた(須恵) Dロケ口調整	a黒灰色 b白色粒子含む c良好	1/8
217	SD-51	A甕 B口縁部に稜ある D内面ヘラミガキ	a白褐色 b砂粒粒子含む c良好	破片

2 1 8	SD-51	A壺 C頸部に簾状文	a黒褐色 b白色・茶色粒子含む c良好	1/8
2 1 9	SD-51	A壺	a黒褐色 b白色粒子含む c良好	破片
2 2 0	SD-51	A壺 C波状文	a褐色 b白色粒子含む c良好	1/4
2 2 1	SD-51	A壺 B口縁部受口状 C波状文 D内面ヘラミガキ	a内面黒褐色、外面赤褐色 b白色粒子含む c良好	1/4
2 2 2	SD-51	A壺 B頸部に簾状文 D内外面赤彩	A茶褐色 b砂粒含む c良好	1/4
2 2 3	SD-51	A壺 BS字壺 D	a黒褐色 b砂粒含む c良好	破片
2 2 4	SD-51	A壺 BS字壺 D胴外外面ハケ調整	a黒褐色 b砂粒含む c良好	1/4
2 2 5	SD-51	A壺 BS字壺 D胴部外面ハケ調整	a黄褐色 b小石含む c良好	1/4
2 2 6	SD-51	A壺 BS字壺 C口縁部に刺突文 D胴部外面ハケ調整	a黒褐色 b白色・茶色粒子含む c良好	1/4
2 2 7	SD-51	A壺 BS字壺 D胴部外面ハケ調整	a黒褐色 b砂粒含む c良好	1/4
2 2 8	SD-51	A壺 BS字壺 D胴部外面ハケ調整	a黒褐色 b砂粒含む c良好	1/8
2 2 9	SD-51	A壺 B口縁部端に面取り D器面が荒れており調整等不明	a赤茶褐色 b砂粒含む c良好	1/4
2 3 0	SD-51	A壺	a外面黒褐色、内面赤褐色 b白色粒子含む c良好	底部
2 3 1	SD-51	A壺 B胴部球形 D器面が荒れており調整等不明	a赤褐色 b白色・茶色粒子含む c良好	1/2
2 3 2	SD-51	A壺 D器面が荒れており調整等不明	a白褐色 b白色・茶色粒子含む c良好	1/4
2 3 3	SD-51	A壺 B口縁部受け口状となる D器面が荒れており調整等不明	a黄褐色 b白色・茶色粒子含む c良好	1/4
2 3 4	SD-51	A壺 D外面赤彩	a褐色 b砂粒含む c良好	1/2
2 3 5	SD-51	A壺 D外面ヘラミガキ	a茶褐色 b砂粒含む c良好	1/2
2 3 6	SD-51	NO. 235と同一		底部
2 3 7	SD-51	A壺 C頸部にT字文 D器面が荒れており調整等不明	a茶褐色～白褐色 b砂粒含む c良好	
2 3 8	SD-51	A壺 C頸部にT字文 D外面ヘラミガキ	a茶褐色 b白色粒子含む c良好	1/2
2 3 9	SD-51	A壺 C頸部にT字文 D外面ヘラミガキ	a茶褐色 b白色粒子含む c良好	1/4
2 4 0	SD-51	A壺 D器面が荒れており調整等不明	a黒褐色 b白色粒子含む c良好	1/5
2 4 1	SD-51	A壺 D器面が荒れており調整等不明	a赤褐色 b砂粒含む c良好	2/3
2 4 2	SD-51	NO. 241・243と同一と思われる		破片
2 4 3	SD-51	NO. 241・242と同一と思われる		底部
2 4 4	SD-51	A壺 D外面ヘラミガキ	a茶褐色 b砂粒含む c良好	1/2
2 4 5	SD-51	A壺 D器面が荒れており調整等不明	a赤褐色 b砂粒含む c良好	底部
2 4 6	SD-51	A壺 B胴部球形 D外面ヘラミガキ、ハケ目	a褐色 c良好	
2 4 7	SD-51	NO. 246・248と同一		
2 4 8	SD-51	NO. 246・247と同一		
2 4 9	SD-51	A壺 B頸部中央に隆帯 D外面ヘラミガキ、赤彩	a赤褐色～黒褐色 b茶色粒子含む c良好	
2 5 0	SD-51	ANO. 249と同一と思われる B胴部は算盤玉状、隆帯 D外面ヘラミガキ	a赤褐色～黒褐色 b茶色粒子含む c良好	1/2

251	SD-51	A高杯 D内外面赤彩	a褐色 b砂粒含む c良好	坏部
252	SD-51	A高杯 B脚部に4つの三角透かし窓 D内外面赤彩	a白褐色 b白色粒子含む c良好	脚部
253	SD-51	A高杯 D内外面ヘラミガキ	a赤褐色~白灰色~黒灰色 b白色粒子含む c良好	坏部
254	SD-51	A高杯 D外面赤彩	a茶褐色 b砂粒・白色粒子含む c良好	1/4
255	SD-51	A高杯 D外面赤彩	a褐色 b白色粒子含む c良好	
256	SD-51	A高杯	a黄褐色 b砂粒含む c良好	脚部
257	SD-51	A皿? D内外面赤彩	a黒褐色 b白色粒子含む c良好	1/4
258	SD-51	A高杯 D内外面赤彩	a褐色 b白色粒子含む c良好	1/4
259	SD-51	A鉢 D内外面赤彩	a茶褐色 b白色粒子含む c良好	底部
260	SD-51	A鉢 D外面ハケナデ	a白褐色 b小石含む c良好	2/3
261	SD-51	A甌壺 D内外面赤彩	a褐色 b白色粒子含む c良好	1/4
262	SD-51	Aふた? D外面赤彩	a褐色 b白色粒子含む c良好	
263	SD-51	Aこしき D器面が荒れており調整等不明	a外面白褐色、内面茶褐色 b白色・茶色粒 子含む c良好	底部
264	SD-51	A四耳壺(須臾) Dロクロ調整	a青灰色 b白色粒子含む c良好	1/4
265	SD-51	A杯 Dロクロ調整	a赤褐色 b茶色粒子含む c良好	1/8
266	SD-51	A杯(須臾) B高台付 Dロクロ調整、底部回転ヘラケズリ	a青灰色 b白色粒子含む c良好	1/4
267	SD-51	A杯 D内面黒色処理、底部ヘラケズリ、内面にタール状のもの付着	a白褐色 b白色粒子含む c良好	底部
268	SD-52	A杯 Dロクロ調整、内面黒色処理	a白褐色 b白色粒子含む c良好	4/5
269	SD-54	A甌 D胴部ヘラケズリ	a赤褐色 b砂粒含む c良好	1/4
270	SD-55	A甌 B口唇部面取り D器面が荒れており調整等不明	a褐色 b白色粒子含む c良好	1/5

③ 土坑出土土器

271	SK-04	A高杯 D外面赤彩	a黒茶褐色 b白色・茶色粒子含む c良好	1/2
272	SK-22	A壺 B有段 D外面赤彩	a茶褐色 b小石・白色粒子含む c良好	破片
273	SK-30	A杯 Dロクロ調整、器面が荒れている	a白褐色 b小石・茶色粒子含む c良好	2/3
274	SK-36	A杯 Dロクロ調整、底部回転系切り、器面が荒れている	a白褐色 b小石・茶色粒子含む c良好	完形
275	SK-36	A杯 Dロクロ調整、底部回転系切り	a茶褐色 b茶色粒子含む c良好	1/2
276	SK-36	A杯 Dロクロ調整、底部回転系切り	a茶褐色 b小石・茶色粒子含む c良好	2/3
277	SK-36	A長頸壺 B高台付 Dロクロ調整、全体に黒色処理	a黒褐色 b白色・黒色粒子含む c良好	完形
278	SK-103	A杯(須臾) Dロクロ調整	a青灰色 b白色粒子含む c良好	1/5
279	SK-112	A高杯(ミニチュア) D手づくね	a赤褐色 b白色粒子含む c良好	脚部
280	SK-115	A壺 B胴部の丸み強い C4本の沈線にて施文	a黒茶褐色 b白色粒子・金雲母含む c良好	1/3

281	SK-116	A短頸壺 B頸部が短い、高台付 Dロクロ調整	a黒灰色 b白色粒子含む c良好	完形
282	SK-162	A坏(須恵) Dロクロ調整	a白灰色 b黒色粒子含む c不良	1/4
283	SK-163	A坏(須恵) Dロクロ調整	a赤褐色 b白色粒子含む c良好	1/8
284	SK-168	A長胴甕 D胴部外面にヘラケズリ、内面ヘラナデ	a赤褐色 b白色粒子含む c良好	1/4
285	SK-169	A長胴甕 D胴部外面にヘラナデ	a赤褐色 b砂粒含む c良好	1/8
286	SK-169	A壺 D器面が荒れており調整等不明	a赤褐色 c良好	1/8
287	SK-175	A?(須恵) D底部に回転ヘラケズリ	a青灰色 b白色粒子含む c良好	1/4
288	SK-176	A皿(灰釉) B丸い高台付 Dロクロ調整、底部回転糸切り	a白灰色 b緻密 c良好	1/4
289	SK-176	A長頸壺(須恵) B高台付 Dロクロ調整、底部回転糸切り	a青灰色 b白色粒子含む c良好	
290	SK-179	A坏(須恵) Dロクロ調整	a黒灰色 b白色粒子含む c良好	1/4
291	SK-180	A坏(須恵) Dロクロ調整、底部ヘラケズリ	a黒灰色 b白色粒子含む c良好	1/5
292	SK-181	A壺 D器面荒れており調整等不明	a白褐色 b小石含む c良好	1/3

④ 遺構外出土土器

293		Aふた Dロクロ調整	a白灰色 b白色粒子含む c良好	つまみ部
294		Aふた Dロクロ調整	a白灰色 b白色粒子含む c良好	1/6
295		Aふた Dロクロ調整	a黒赤灰色 b白色粒子含む c良好	1/8
296		A(須恵) Dロクロ調整	a青灰色 b良好	1/6
297		A坏(須恵) Dロクロ調整、底部ヘラケズリ	a青灰色 b白色粒子含む c良好	1/2
298		A坏 Dロクロ調整、底部ヘラケズリ	a青灰色 b白色粒子含む c良好	1/2
299		A坏(須恵) Dロクロ調整、底部回転ヘラケズリ	a黒灰色 b白色粒子含む c良好	底部
300		A坏(須恵) Dロクロ調整、底部ヘラケズリ	a白灰色 b良好	2/3
301		A坏(須恵) Dロクロ調整、底部回転糸切り	a白灰色 b白色粒子含む c良好	底部
302		A坏(須恵) Dロクロ調整、底部ヘラケズリ	a青灰色 b白色粒子含む c良好	1/5
303		A坏(須恵) Dロクロ調整、底部回転ヘラケズリ	a黒灰色 b白色粒子含む c良好	2/3
304		A坏 Dロクロ調整	a白灰色 b白色粒子含む c良好	1/4
305		A坏 Dロクロ調整、底部回転糸切り	a赤褐色 b白色粒子含む c良好	底部
306		A坏 B高台付 D器面荒れており調整等不明	a白褐色 b茶色粒子含む c良好	2/3
307		A坏 B高台付 D器面荒れており調整等不明	a赤褐色 b茶色粒子含む c良好	底部
308		A壺	a褐色 b小石・茶色粒子含む c良好	1/6
309		A壺(須恵) Dロクロ調整、外面叩き目	a黒赤灰色 b白色粒子含む c良好	1/8
310		A壺 D器面荒れており調整等不明、手づくね	a黒褐色 b茶色粒子含む c良好	1/2
311		A壺(須恵) Dロクロ調整、外面叩き目	a黒灰色 c良好	1/4
312		A壺 B波状文、籐状文	a褐色 b砂粒・茶色粒子含む c良好	1/3

313		A壺	a赤褐色 b砂粒含む c良好	底部
314		A壺 B口縁内溝 D器面荒れている、附毛痕	a赤褐色 b白色・茶色粒子含む c良好	1/8
315		A壺 B口縁部端に面取り	a茶褐色 b小石含む c良好	1/6
316		A壺 D外面ヘラケズリ	a褐色 b茶色粒子含む c良好	1/6
317		A長胴壺 B長胴 D外面ヘラケズリ	a茶褐色 b砂粒含む c良好	2/3
318		A壺(須恵) B頸部が直立 D外面胴部に叩き目	a赤灰色 b白色粒子含む c良好	1/4
319		A短頸壺(須恵) B頸部が短い Dロクロ調整、一部に施釉	a灰白色 c良好	破片
320		A壺?(須恵) B頸部が短い Dロクロ調整、釉薬がかかっている	a青灰色 c良好	1/3
321		A罎釜	a黒茶褐色 b砂粒含む c良好	つば
322		A長頸壺(須恵) Dロクロ調整、一部に施釉	a青灰色 c良好	頸部
323		A壺(須恵) B台付 Dロクロ調整、底部回転系切りの後台部をつける、部分的に施釉	a敗白色 c良好	底部
324		A杯(須恵) Dロクロ調整、底部ヘラケズリ	a青灰色 b黒色粒子含む c良好	1/4
325		A杯(須恵) B高台付 Dロクロ調整、底部ヘラケズリ	a青灰白色 b白色・黒色粒子含む c良好	1/4
326		A杯(須恵) B高台付、底部から口縁部へと直線的に立ち上がっている Dロクロ調整	a青灰色 b黒色粒子含む c良好	1/8
327		A杯 Dロクロ調整、底部回転系切り	a赤褐色 b砂粒含む c良好	底部
328		A杯 B高台付 Dロクロ調整	a赤褐色 b砂粒含む c良好	底部
329		A杯 B高台付 Dロクロ調整	a赤褐色 b砂粒含む c良好	底部
330		A杯 B高台付、内外面黒色処理 Dロクロ調整	a黒色(内部灰白色) b砂粒含む c良好	底部
331		A壺? B台部	a赤褐色 b砂粒含む c良好	1/4
332		Aふた(須恵) Dロクロ調整	a青灰色 b白色粒子含む c良好	1/8

⑤ 石器・その他

NO.	出土遺構名	名 称	石 材・材 質	特 徴
1	遺構外	石 鏃	黒耀石	
2	遺構外	石 鏃	黒耀石	
3	遺構外	石 鏃	チャート	
4	遺構外	石 鏃	黒耀石	
5	遺構外	石 鏃	チャート	
6	遺構外	石 鏃	黒耀石	
7	遺構外	石 鏃	黒耀石	
8	遺構外	石 鏃	黒耀石	
9	SB-01	石 鏃	泥岩	
10	SB-02	石 鏃	黒耀石	
11	SB-08~09	石 鏃	黒耀石	
12	SB-08~09	石 鏃	黒耀石	
13	SB-29	石 鏃	チャート	
14	SB-37	石 鏃	チャート	
15	SB-44	石 鏃	黒耀石	
16	SB-50	石 鏃	黒耀石	
17	SD-20	石 鏃	チャート	
18	SD-20	石 鏃	チャート	
19	遺構外	石 鏃	チャート	
20	SD-28	石 鏃	黒耀石	
21	SD-50	石 鏃	黒耀石	
22	SD-50	石 鏃	黒耀石	
23	SD-51	石 鏃	チャート	
24	遺構外	石 錐	黒耀石	
25	SB-46	石 錐	黒耀石	
26	SB-08~09	搔 器	泥岩	
27	SD-01	搔 器	黒耀石	
28	SD-36	搔 器	黒耀石	
29	SD-36	搔 器	黒耀石	
30	SK-163	搔 器	黒耀石	
31	遺構外	刃のある剥片	黒耀石	
32	SB-08~09	刃のある剥片	黒耀石	
33	SB-46	刃のある剥片	黒耀石	

34	SB-25	刃のある剥片	黒耀石	
35	SD-04	刃のある剥片	黒耀石	
36	SD-04	刃のある剥片	黒耀石	
37	SD-51	搔器	黒耀石	
38	SK-144	使用痕のある剥片	黒耀石	
39	SK-163	使用痕のある剥片	黒耀石	
40	SB-03~05	使用痕のある剥片	黒耀石	
41	SB-29	使用痕のある剥片	黒耀石	
42	SD-04	刃のある剥片	黒耀石	
43	遺構外	横刃型石器	泥岩	
44	SD-07	石包丁	珪質泥岩	形態は長方形である。両刃で 穴が一つ空いている。
45	SK-22	砥石	珪質泥岩	
46	SB-36	砥石	泥岩	
47	SD-04	石斧	粘板岩	
48	SD-36	石斧	泥岩	
49	遺構外	石斧	泥岩	
50	SB-44~46	石斧	泥岩	
51	SB-08~09	石斧	変質泥岩	
52	SB-08~09	石斧	珪質泥岩	
53	SB-19	石斧	珪質泥岩	
54	SD-01	石斧	泥岩	
55	SD-04	石斧	珪質泥岩	
56	SB-06~07	横刃型石器	珪質泥岩	
57	遺構外	石鍬	泥岩	
58	SD-53	石鍬	泥岩	
59	SB-48	石鍬	泥岩	
60	SB-01	磨石	珪岩	
61	SD-03	磨石	泥岩	
62	SB-08~09	叩き石	珪質泥岩	
63	SB-08~09	磨石	輝石安山岩	
64	SB-44	磨石	砂岩	
65	SK-171	磨石	砂岩	
66	SB-08~09	砥石	砂岩	
67	SB-08~09	磨石	砂岩	

68	SD-03	磨石	輝石安山岩	
69	SD-03	磨石	安山岩	
70	SB-08~09	凹石	変質泥岩	
71	SD-01	凹石	砂質泥岩	
72	SD-04	磨石	砂岩	
73	遺構外	石皿	(泥岩)	
74	SB-44	刀子	鉄	柄に木質部が残る
75	遺構外	羽口	土	
76	遺構外	紡水車	土	
77	遺構外	紡水車	土	
78	寸白様	古銭	銅	「寛永通宝」
79	寸白様	古銭	銅	「寛永通宝」
80	遺構外	古銭	銅	「寛永通宝」
81	SD-04	古銭	鉄	「寛永通宝」

遺跡名	住居跡名	図版番号
上平遺跡	1号住居跡	第100図(1~15)・第101図(16~28)
	2号住居跡	第101図(29~35)
金井裏遺跡	1号住居跡	第101図(36~39)・第102図(40~49)
	2号住居跡	第102図(50~61)
和手遺跡	4号住居跡	第103図(62~72)・第104図(73~85)
	7号住居跡	第105図(105~110)
	9号住居跡	第105図(100~104)
	11号住居跡	第104図(86~92)・第105図(93~99)

第四節 まとめ

〈弥生時代後期～古墳時代初頭〉

当該期の上小地方の編年は明確になっているとは言い難く、今後の精密な研究に期待されるところである。ここでは、大まかな土器の変遷を認識することにより弥生時代後期箱清水式期の宮の前遺跡の状況をまとめてみたい。

上小地方の箱清水式期は、①吉田式期の要素を残した段階の東部町城の前遺跡Y-3号住と同高呂添遺跡1号住があげられる。②箱清水式土器の確立段階として上田市岳の鼻遺跡21, 64号住・東部町東五町遺跡3号住・同西五町遺跡2号住などがあげられる。③甕、壺などの胴部の丸味が強いもの、甕の胴部の肩が張るものが出現する段階として上田市和手遺跡4, 7, 9, 11号住(第103・104・105図)23号住・同琵琶塚遺跡62号住・同大道下遺跡12, 20, 40号住・同岳の鼻遺跡26, 403, 410, 405, 420, 435号住などがあげられる。④甕などの胴部の球形化が進み、外来系の土器が共伴する段階として上田市和手遺跡10号住・同岳の鼻遺跡43, 402, 415, 430, 434号住・東部町石原田遺跡7, 13号住・同東五町遺跡24号住・同たたら堂遺跡4号住などがあげられる。弥生時代後期終末と考える。⑤甕の胴部が球形となる。器台が出現してくる段階として上田市金井裏遺跡1, 2号住(第101, 102図)・同上平遺跡1, 2号住(第100図)・同林之郷遺跡27号住・同琵琶塚遺跡15号住・同岳の鼻遺跡416号住・同西光坊遺跡8号住などをあげることができる。古墳時代初頭に位置付けられる。

宮の前遺跡の1号住は③の段階のものと思われる。18, 25, 46号住は④の段階と思われる。すなわち、弥生時代後期終末を中心とした集落であると思われる。このことは、溝跡等からの出土遺物によっても示唆される。

宮の前遺跡は外来系土器の目立つ遺跡であるが、その中でも25号住は外来系の土器をセットの中心にした住居跡であり、特異な状況である。このことは、琵琶塚遺跡15号住、岳の鼻遺跡45, 415号住など他の遺跡についてもみることができる。この様に在地系土器を圧倒する住居跡が出現することから、外来系土器の状況を検証してみたい。

当該期の溝跡としては1・4・51号溝跡と続く河川跡があり、箱清水系の土器と共に外来系の土器が多く廃棄されており注目される。この河川跡を中心に見ていきたい。

東海系の土器として目立つのはS字甕である。赤塚次郎氏の分類(「廻間遺跡」1990)によると、226は口縁部に刺突文が施されている。A類に分類されよう。143・224・227は外面にヨコハケが施され、内面の頸部屈曲部にもハケ目が施されておりB類に分類されよう。223はC類と思われる。225・228はヨコハケが無くなっている段階でありD類に分類されよう。また、18号住の28はC類と思われる。く字甕として231・232・233があげられる。261は赤彩されているがヒサゴ壺と思われる。177は器台である。

北陸系の土器としては甕・壺・高坏・器台・鉢などが確認された。甕には有段口縁で外面に擬凹線を施すもの（126・127）、有段口縁でヨコナデを施すもの（38・125）などがある。また、口縁部端を面取りするもの（39・141・147・158・229・315）もある。壺には広口壺（144）がある。高坏には小型高坏（253）と口縁部端が面取りされているもの（133）がある。その他、鉢（138）・装飾器台（179）や台付装飾壺（249・250）と思われる土器もある。249と250の台付装飾壺は同一個体と考えられるが249のみに赤彩が認められた。これらの土器のほとんどは、月影式期に属すると思われるが、141・144は法仏式期に逆上る可能性がある。

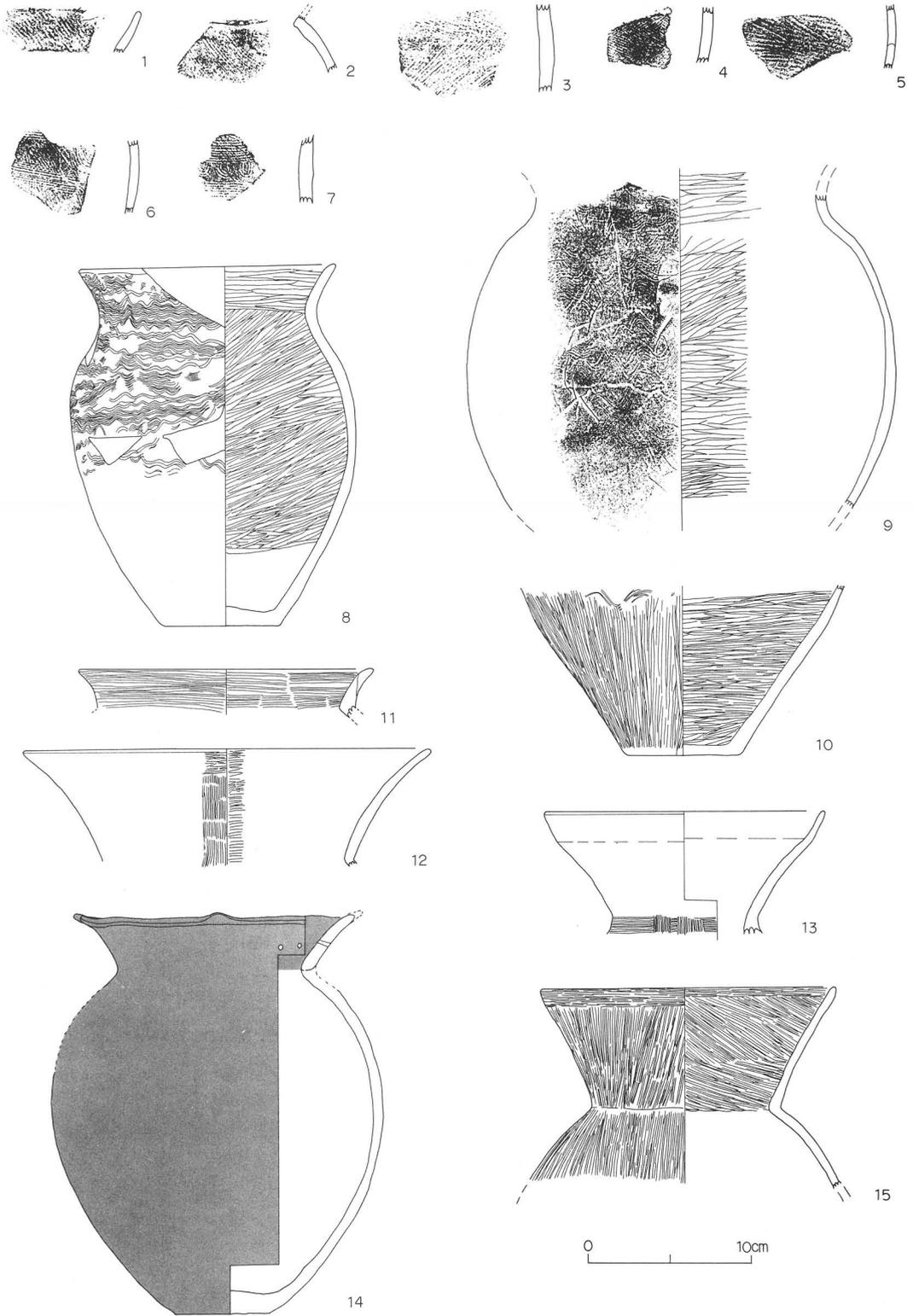
外来系の土器は、1, 4, 50号溝跡などの河川跡からは在地の土器である箱清水式土器と混在して出土している。特に50号溝跡では箱清水式土器とS字甕、北陸系の土器が集中して出土している。住居跡では、東海系の土器と北陸系のものとは住居跡内の土器のセットとしての位置に差があるようである。つまり、①箱清水式土器のセットの一部として東海系の土器を出土する住居跡と②北陸系土器を土器セットの中心にしており箱清水式土器などはその一部としている住居跡とに分けることができる。このことは上田市琵琶塚遺跡や同岳の鼻遺跡でも同様である。この差違は人の移動の質的な差によるものと考えても良いのではなかろうか。今後の詳細な分析と調査研究に期待したい。

<奈良時代～平安時代>

出土土器は、破片が多く詳細な検討には注意が必要であるが、概ね8世紀後半から10世紀前半までの土器が中心となっている。特に8世紀末から9世紀初頭にこの集落の最盛期があるようである。39・42・44号住の土器は8世紀末の奈良時代から平安時代にかけてのものと思われる。この時期の良好な土器セットとして、上田市林之郷遺跡11号住・明神前遺跡第Ⅱ地点住居跡・高田遺跡・殿田遺跡などをあげることができる。28号住の土器は10世紀前半のものと思われる。これらのことから、信濃国分寺が建立されてからその機能が停止していった時期の集落と考えることができる。

竪穴住居跡は、奈良時代のものは遺跡全体に分布しているが平安時代のものは遺跡の東側に多い。掘立柱建物跡は、基本的には微高地に沿って東西方向か、横断するように南北方向に建っている。しかし、その方向性の違いから大まかに、19～22号掘立柱建物跡を中心としたものと54～56号掘立柱建物跡を中心としたものの二時期に分けることができると考える。このような掘立柱建物跡を中心とした集落は、一般的な農村集落と考えるより公的性格をもった集落と考えたい。

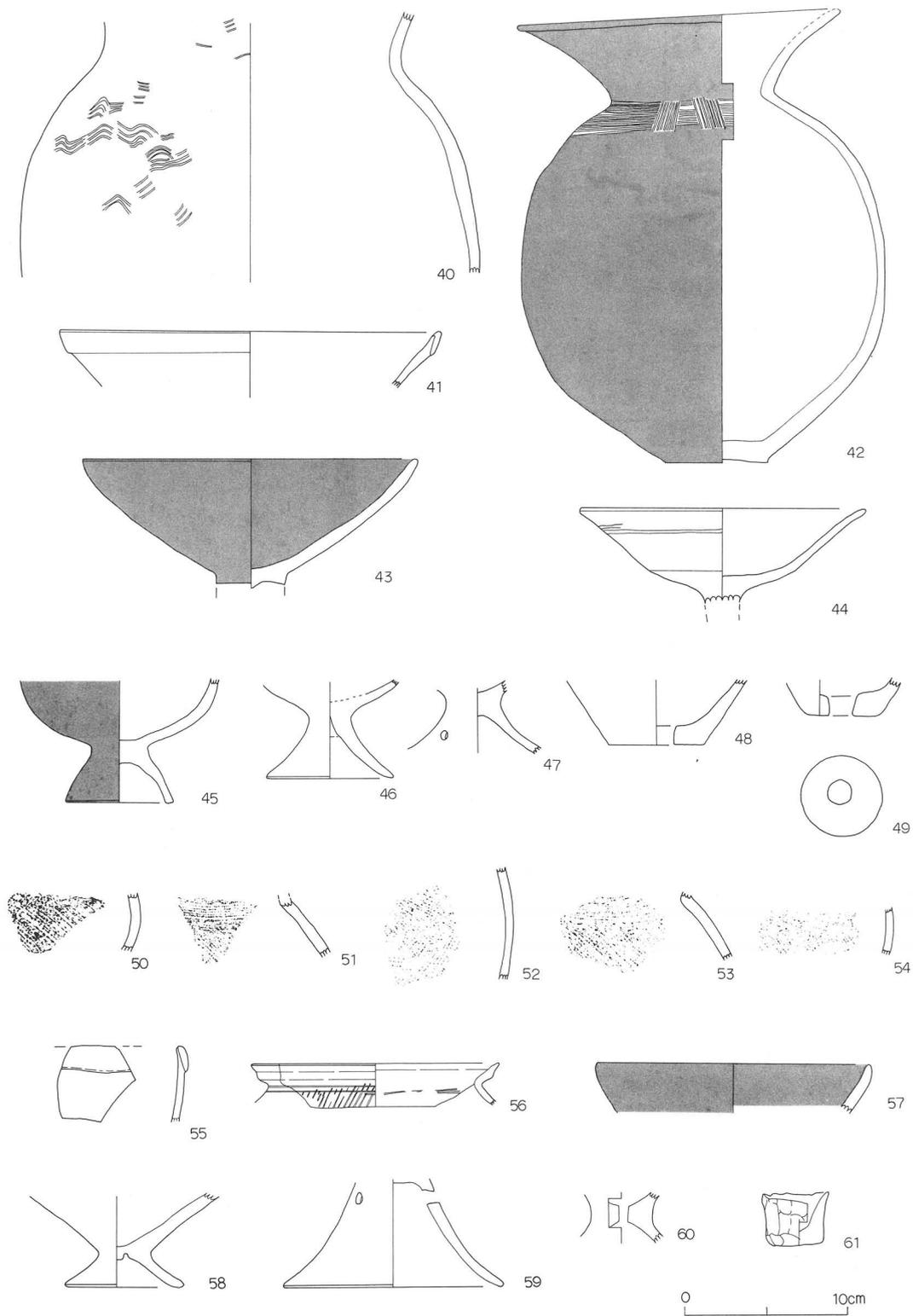
また、その由来が平安時代に逆上ることができる「すばこ様」の「すばこ」とは「寸白」（すばこ・すばこ）と書く。これは、平安時代後期に書かれた「小右記」などでは条虫などの寄生虫によって起こる病気であり、「栄花物語」などでは婦人病の意味として使われている。いずれにしても、病気の神様であることが推察される。



第100图 上平遺跡出土土器



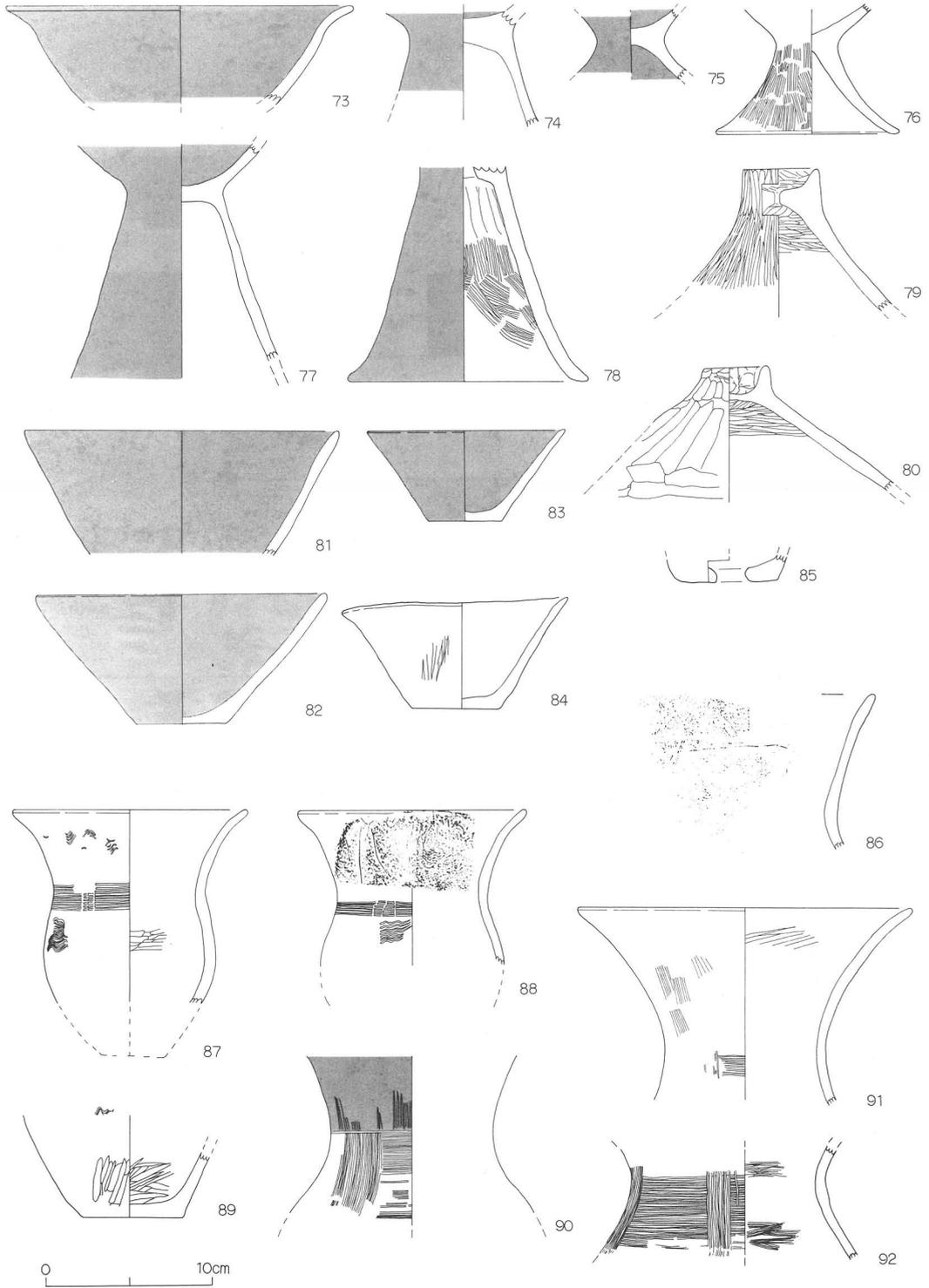
第101図 上平・金井裏遺跡出土土器



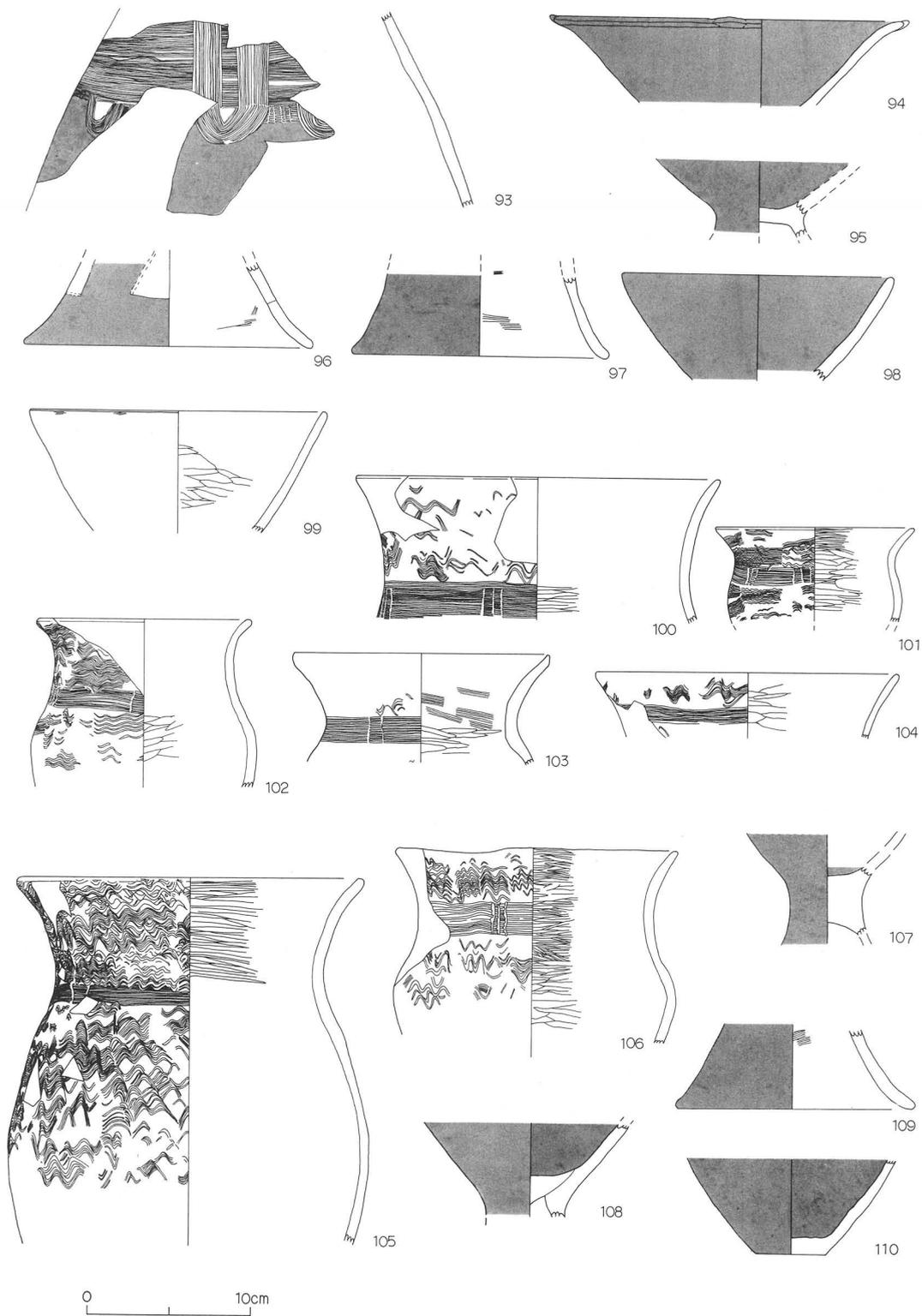
第102图 金井裏遺跡出土土器



第 103 图 和手遺跡出土土器



第104図 和手遺跡出土土器



第105图 和手遺跡出土土器

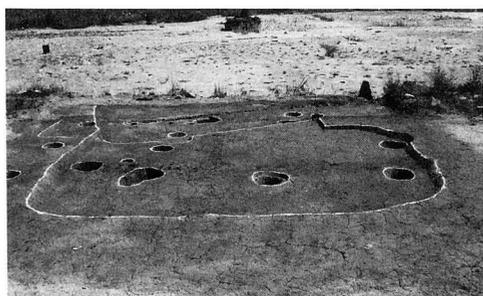
写 真 图 版



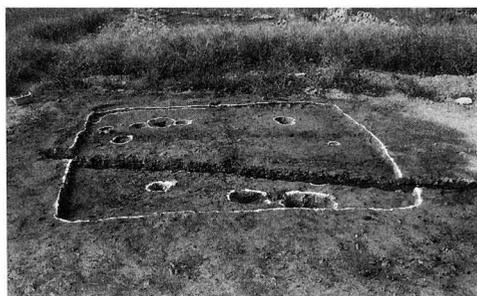
H4年度航空写真



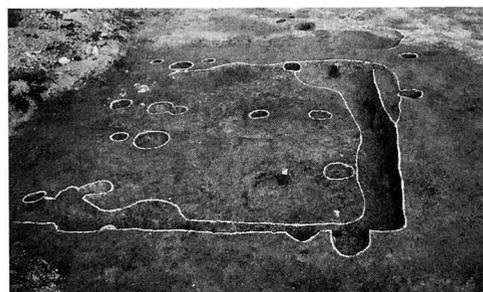
H5年度航空写真



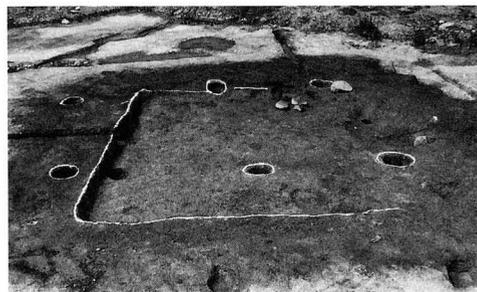
SB-17~18



SB-25



SB-29



SB-37



SB-39



SB-42



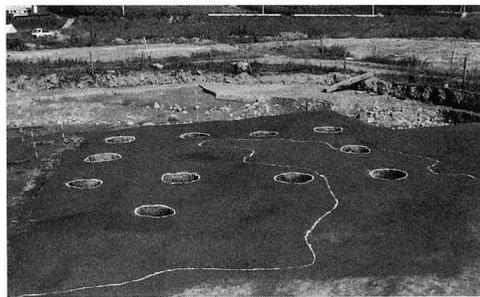
SB-44~46



SB-44・カマド



SB-47



ST-19



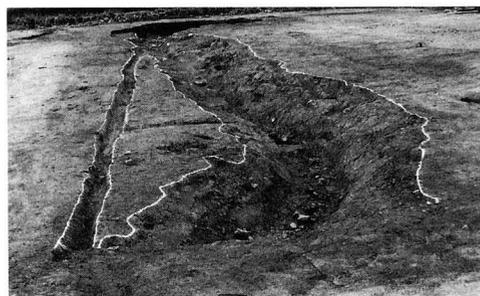
ST-21



ST-22



ST-56



SD-36



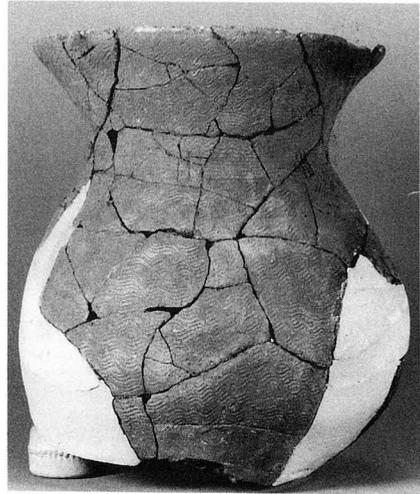
平成4年度・作業員の皆さん



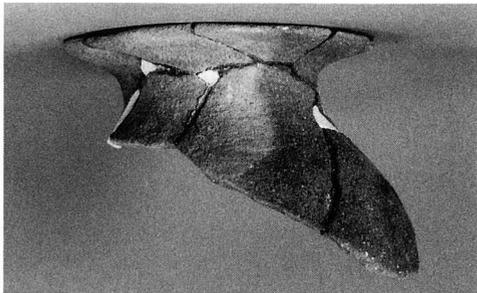
平成5年度・作業員の皆さん



No. 3



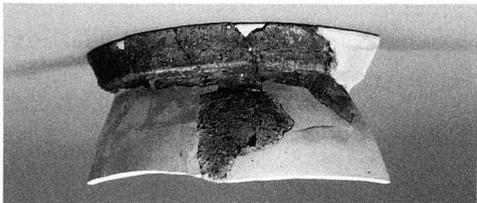
No. 116



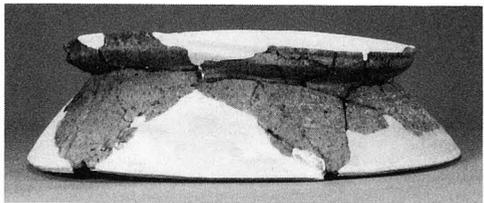
No. 241



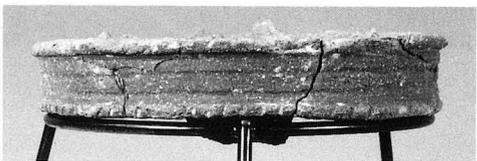
No. 45



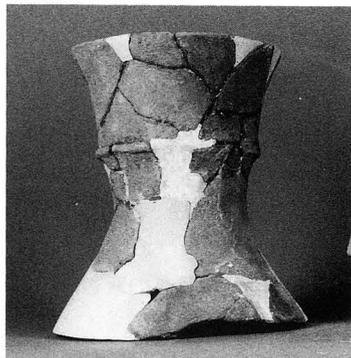
No. 38



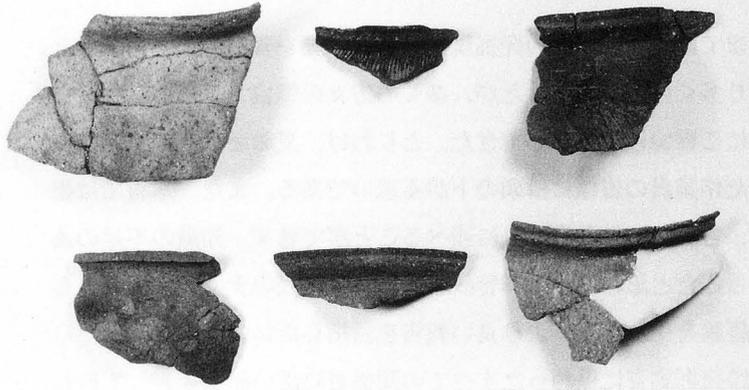
No. 28



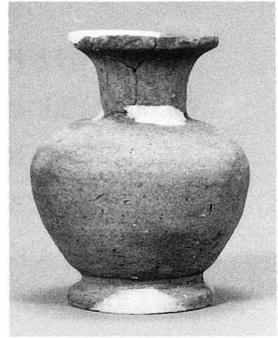
No. 179



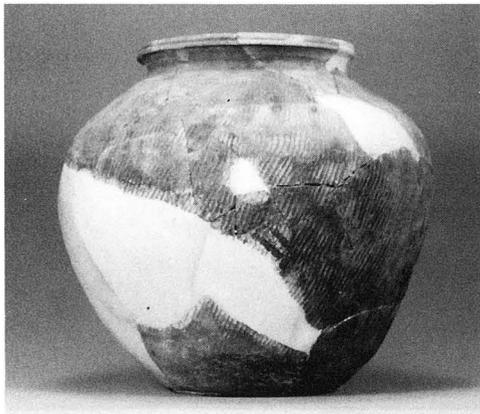
No. 249



No.233・226・224(後列) No.229.227.225(前列)



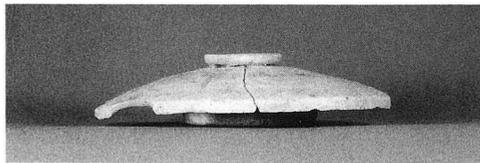
No.277



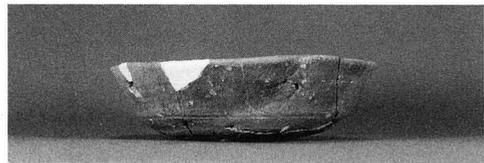
No.21



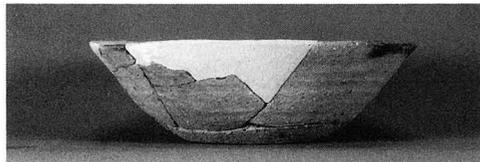
No.94



No.102



No.109



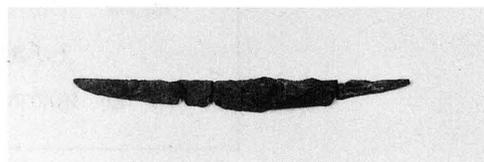
No.114



No.60



No.53



刀子

おわりに

本書が刊行されるまでは、約3年間の発掘調査と整理作業を費やすこととなった。その間、公私にわたり多くの困難に遭ったが、多くの方々の御協力、御理解、御支援をいただき、刊行にこぎつけることができた。とりわけ、夏の暑い日に発掘調査に従事して下さった作業員の皆様には頭の下がる思いである。また、本書では担当者の経験不足の為、言いたいことを十分に述べることができず、知識の不足の為に多くの間違いがあることと思われる。御容赦願いたい。次回のチャンスというものがあるのならこの経験を生かして、より良い報告を目指したい。

最後に、宮の前遺跡発掘調査に係わったすべての関係者に深い謝意を表して終わりとしたい。

上田市文化財調査報告書 第51集
宮の前遺跡発掘調査報告書

発行 平成7年3月24日

発行者 上田市教育委員会

上小地方事務所

印刷 (有)竹内印刷